

平成24事業年度に係る業務の実績に関する報告書

(資料編)

平成25年6月
長崎県公立大学法人

(資料編) 目次

No	頁	内容	中期計画No.		
			4	5	6
1	1	資格試験合格者数			
2	2	語学研修先一覧	7		
3	3	留学生の受入・派遣状況	13		
4	4	募集人員	14		
5	7	入学志願者及び入学者数	14		
6	9	オープンキャンパス参加者数	14		
7	10	入学者選抜方法の変更について	14		
8	15	聴講生・科目等履修生の受入状況	15		
9	16	NICEキャンパス長崎について	17		
10	17	授業評価結果の概要	19		
11	46	FDの取組	20		
12	48	就職状況	24		
13	49	課外講座実施状況	24		
14	51	インターンシップ実施状況	24		
15	52	学長裁量研究実績一覧	26	30	
16	54	市町との連携協定事業について	27	29	34
17	59	産学官連携の主な取組	27 32	29 34	31 35
18	68	アジア・国際戦略に関する取組	27		
19	70	受託研究・共同研究一覧	32	34	
20	71	長崎県立大学プロジェクト研究費について	32		
21	72	交流協定校一覧	33		
22	73	シンポジウム・フォーラム開催実績一覧	33		
23	74	東アジア研究所「東アジア研究ネットワーク」について	33		
24	75	公開講座・地域公開講座・学術講演会実施状況	36	38	

(資料編) 目次

No	頁	内容	中期計画No.		
25	76	教員の研究活動内容一覧	36		
26	85	長崎県公立大学法人の経営戦略	42		
27	88	長崎県公立大学法人行動規範	46		
—	89	用語解説	/		

※ 資料については既存の資料より抜粋し、活用しています。

資格試験合格者数

＜佐世保校＞

(単位:人)

項目		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
販売士検定	2級	7	12	9	9	15
	3級	23	21	8	17	19
ファイナンシャル・プランニング技能検定	2級	5	6	1	3	10
	3級	32	28	14	47	32
日商簿記検定	2級	11	7	15	12	8
	3級	31	40	21	35	8
秘書技能検定	1級	-	-	-	-	-
	準1級	12	25	12	14	8
	2級	117	123	59	81	94
	3級	-	-	-	-	-
システム アドミニストレータ試験 (ITパスポート)	初級	7	13	19	9	5

＜シーボルト校＞

(単位:人)

項目		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
MOS (マイクロソフトスペシャリスト)	Excel	MCASに名称変更		36	32	27
	PowerPoint			-	-	-
	Word			-	22	17
MCAS		13	14	MOSへ名称変更	/	/
秘書技能検定	1級	-	-	-	-	-
	準1級	-	-	1	-	-
	2級	-	-	18	13	8
	3級	-	-	-	-	-
システム アドミニストレータ試験 (ITパスポート)	初級	1	4	9	0	0
応用情報技術者資格		0	0	0	1	0
基本情報技術者資格		2	2	4	2	3
保健師国家試験		66	59	60	65	60
看護師国家試験		61	55	57	61	57
管理栄養士国家試験		28	36	35	38	39

語学研修先一覧

平成23年度

	大学名	国名	備考
1	ウィスコンシン大学オシュコシュ校	アメリカ	
2	バンクーバー・アイランド大学	カナダ	旧名称: マラスピーナ大学
3	ランガラ・カレッジ	カナダ	
4	モナシュ大学	オーストラリア	
5	北京大学	中国	
6	華僑大学	中国	
7	西北大学	中国	
8	上海外国語大学	中国	
9	高麗大学校	韓国	

平成24年度追加校

	大学名	国名	備考
1	マウント・アイダ・カレッジ	アメリカ	
2	エドモンドコミュニティカレッジ	アメリカ	
3	セミオRELC	シンガポール	
4	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	イギリス	

平成25年度追加校

	大学名	国名	備考
1	メリルハースト大学	アメリカ	
2	サザンクイーンズランド大学	オーストラリア	

外国人留学生の状況(H24年度)

○外国人留学生の受入状況(H24年度)

区分	佐世保校					シーボルト校					合計		
	中国	韓国	ベトナム	台湾	計	中国	韓国	米国	ベトナム他	台湾		計	
学部	交換留学生	5	1			6	9	6	1		0	16	22
	私費留学生	12		3	1	16	11			1		12	28
	計	17	1	3	1	22	20	6	1	1	0	28	50
大学院	交換留学生	11				11						0	11
	私費留学生	7	1		1	9	9			1		10	19
	計	18	1	0	1	20	9	0	0	1	0	10	30
研究生	交換留学生					0						0	0
	私費留学生	1				1	2					2	3
	計	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	2	3
合計	交換留学生	16	1	0	0	17	9	6	1	0	0	16	33
	私費留学生	20	1	3	2	26	22	0	0	2	0	24	50
	計	36	2	3	2	43	31	6	1	2	0	40	83

国別状況	中国	ベトナム	韓国	米国	台湾	ナイジェリア	合計
(人)	67	4	8	1	2	1	83
(%)	80.7%	4.8%	9.6%	1.2%	2.4%	1.2%	100.0%

<参考>

○交換留学 派遣状況(H24年度)

区分	佐世保校					シーボルト校					合計
	中国	韓国	ベトナム	台湾他	計	中国	韓国	米国	ベトナム他	計	
学部	3	1			4	7	9	4		20	24
大学院					0					0	0
合計	3	1	0	0	4	7	9	4	0	20	24

募集人員

<経済学部>

(単位:人)

区分			募集人員				
			経済学部				
			経済学科	地域政策 学科	流通・経営 学科		
20 年度 5 23 年度	AO入試	英語インテンシブ(10名)		6	6	6	
		中国語インテンシブ(5名)					
		アカウントティング(3名)					
	特別選抜 (推薦 入試)	県内	普通科		17	17	17
			専門学科		10	10	10
			総合学科		5	5	5
			離島高校		2	2	2
		県外	普通科等		10	10	10
			商業科・ 総合学科等		6	6	6
	一般選抜	前期日程		70	70	70	
		後期日程	Aコース		8	8	8
			Bコース		8	8	8
			Cコース		8	8	8
	特別選抜	帰国子女		若干名	若干名	若干名	
		社会人		若干名	若干名	若干名	
私費外国人留学生		若干名	若干名	若干名			
学科計			150	150	150		
学部計			450				

＜国際情報学部＞

(単位:人)

区分			募集人員	
			国際情報学部	
			国際交流 学科	情報メディア 学科
20 年度	AO入試	英語分野	8	5
		国際関係分野		
		比較文化分野		
		中国語分野		
24 年度	特別選抜 (推薦 入試)	県内	20	12
		県外	5	2
	一般選抜	前期日程	40	34
		後期日程	7	7
	特別選抜	帰国子女	若干名	若干名
		社会人	若干名	若干名
		私費外国人留学生	若干名	若干名
	学科計		80	60
	学部計		140	

＜看護栄養学部＞

(単位:人)

区分				募集人員	
				看護栄養学部	
				看護学科	栄養健康学科
20 年度	特別選抜 (推薦 入試)	県内	衛生看護科以外	13	10 (区分なし)
			衛生看護科	1	
	一般選抜	前期日程		40	24
後期日程		6	6		
24 年度	特別選抜	帰国子女		若干名	若干名
		社会人		若干名	若干名
		私費外国人留学生		若干名	若干名
学科計				60	40
学部計				100	

入学志願者及び入学者数

【学部】[平成24年度]

(単位：人、倍、%)

区	分	定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D	
経済学部	A O	6	5	5	3	3	0.8	0.8	1.7	
	推薦	50	91	91	51	51	1.8	1.8	1.8	
	一般入試(前期)	70	132	119	96	69	1.9	1.7	1.2	
	一般入試(後期)	24	280	88	47	26	11.7	3.7	1.9	
	一般入試計	94	412	207	143	95	4.4	2.2	1.4	
	帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
	社会人	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
	留学生	若干名	9	8	3	1	—	—	2.7	
	小計	150	517	311	200	150	3.4	2.1	1.6	
	地域政策学科	A O	6	10	10	7	7	1.7	1.7	1.4
		推薦	50	77	77	53	53	1.5	1.5	1.5
		一般入試(前期)	70	166	156	96	71	2.4	2.2	1.6
		一般入試(後期)	24	180	50	33	26	7.5	2.1	1.5
		一般入試計	94	346	206	129	97	3.7	2.2	1.6
		帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—
		社会人	若干名	—	—	—	—	—	—	—
		留学生	若干名	1	1	1	1	—	—	1.0
		小計	150	434	294	190	158	2.9	2.0	1.5
		流通・経営学科	A O	6	15	11	3	3	2.5	1.8
	推薦		50	60	60	50	50	1.2	1.2	1.2
	一般入試(前期)		70	226	205	100	65	3.2	2.9	2.1
	一般入試(後期)		24	265	88	50	34	11.0	3.7	1.8
	一般入試計		94	491	293	150	99	5.2	3.1	2.0
	帰国子女		若干名	—	—	—	—	—	—	—
	社会人		若干名	3	3	3	2	—	—	1.0
	留学生		若干名	12	12	7	2	—	—	1.7
	小計		150	581	379	213	156	3.9	2.5	1.8
	学部計		450	1,532	984	603	464	3.4	2.2	1.6
	国際情報学部	A O	8	11	9	9	9	1.4	1.1	1.0
		推薦	25	49	49	27	27	2.0	2.0	1.8
		一般入試(前期)	40	107	104	51	42	2.7	2.6	2.0
		一般入試(後期)	7	206	76	10	7	29.4	10.9	7.6
		一般入試計	47	313	180	61	49	6.7	3.8	3.0
		帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—
		社会人	若干名	—	—	—	—	—	—	—
		留学生	若干名	3	1	0	0	—	—	—
小計		80	376	239	97	85	4.7	3.0	2.5	
情報メディア学科		A O	5	23	15	6	6	4.6	3.0	2.5
		推薦	14	27	27	14	14	1.9	1.9	1.9
		一般入試(前期)	34	88	83	39	37	2.6	2.4	2.1
		一般入試(後期)	7	130	64	8	6	18.6	9.1	8.0
		一般入試計	41	218	147	47	43	5.3	3.6	3.1
		帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—
		社会人	若干名	1	1	1	1	—	—	1.0
		留学生	若干名	1	0	0	0	—	—	—
		小計	60	270	190	68	64	4.5	3.2	2.8
	学部計	140	646	429	165	149	4.6	3.1	2.6	
看護栄養学部	推薦	14	51	51	15	15	3.6	3.6	3.4	
	一般入試(前期)	40	123	121	40	35	3.1	3.0	3.0	
	一般入試(後期)	6	143	69	15	14	23.8	11.5	4.6	
	一般入試計	46	266	190	55	49	5.8	4.1	3.5	
	帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
	社会人	若干名	3	2	0	0	—	—	—	
	留学生	若干名	1	1	1	1	—	—	1.0	
	小計	60	321	244	71	65	5.4	4.1	3.4	
	栄養健康学科	推薦	10	38	38	10	10	3.8	3.8	3.8
		一般入試(前期)	24	93	87	28	27	3.9	3.6	3.1
		一般入試(後期)	6	102	45	6	4	17.0	7.5	7.5
		一般入試計	30	195	132	34	31	6.5	4.4	3.9
		帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—
		社会人	若干名	1	1	1	1	—	—	1.0
留学生		若干名	—	—	—	—	—	—	—	
小計	40	234	171	45	42	5.9	4.3	3.8		
学部計	100	555	415	116	107	5.6	4.2	3.6		
A O 計	31	64	50	28	28	2.1	1.6	1.8		
推薦 計	213	393	393	220	220	1.8	1.8	1.8		
一般入試(前期) 計	348	935	875	450	346	2.7	2.5	1.9		
一般入試(後期) 計	98	1,306	480	169	117	13.3	4.9	2.8		
一般入試 合計	446	2,241	1,355	619	463	5.0	3.0	2.2		
帰国子女 計	若干名	0	0	0	0	—	—	0.0		
社会人 計	若干名	8	7	5	4	—	—	1.4		
留学生 計	若干名	27	23	12	5	—	—	1.9		
合計	690	2,733	1,828	884	720	4.0	2.6	2.1		
看護学科3年次編入学	10	8	5	3	2	0.8	0.5	1.7		
総合計	700	2,741	1,833	887	722	3.9	2.6	2.1		

※A O入試の受験者数は2次選考受験者数

【 大学院 】

[平成24年度]

(単位：人、倍、%)

区 分		定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D	
経済学研究科	産業経済・経済開発専攻(修士課程)	12	25	25	17	16	2.1	2.1	1.5	
国際情報学 研究科	国際交流学専攻(修士課程)	6	5	5	5	5	0.8	0.8	1.0	
	情報メディア学専攻(修士課程)	4	5	5	5	5	1.3	1.3	1.0	
	研究科 計	10	10	10	10	10	1.0	1.0	1.0	
人間健康科学 研究科	看護学専攻(修士課程)	一般選抜	8	1	1	1	0.5	0.5	1.0	
		社会人特別選抜		3	3	2			2	1.5
		専攻 計		4	4	3			3	0.5
	栄養科学専攻	博士前期課程	一般選抜	8	2	2	2	0.3	0.3	1.0
			社会人特別選抜	若干名	0	—	—	—	—	—
			外国人留学生特別選抜	若干名	0	—	—	—	—	—
			前期課程 計	8	2	2	2	0.3	0.3	1.0
		博士後期課程	一般選抜	3	3	3	3	1.0	1.0	1.0
			外国人留学生特別選抜	若干名	0	—	—	—	—	—
		後期課程 計	3	3	3	3	1.0	1.0	1.0	
	研究科 計		19	9	9	8	8	0.5	0.5	1.1
大学院 計		41	44	44	35	34	1.1	1.1	1.3	

オープンキャンパス参加者数

(単位:人、校)

年度	キャンパス名	開催日	区分	県内 高校生	県外 高校生	その他 (保護者 等)	計	合計
20 年度	佐世保校	7月20日	参加者	169	54	139	362	1134
			(高校)	(38)	(36)	—		
	シーボルト校	7月20日	参加者	464	121	187	772	
			(高校)	(23)	(23)	—		
21 年度	佐世保校	7月19日	参加者	196	92	159	447	1311
			(高校)	(46)	(55)	—		
	シーボルト校	7月19・20日	参加者	421	123	320	864	
			(高校)	(58)	(69)	—		
22 年度	佐世保校	7月18日	参加者	188	83	140	411	1496
			(高校)	(42)	(49)	—		
	シーボルト校	7月18・19日	参加者	633	151	301	1085	
			(高校)	(47)	(72)	—		
23 年度	佐世保校	7月17日	参加者	150	78	142	370	1337
			(高校)	(43)	(43)	—		
	シーボルト校	7月17・18日	参加者	619	111	237	967	
			(高校)	(52)	(61)	—		
24 年度	佐世保校	7月15日	参加者	182	61	109	352	1390
			(高校)	(40)	(38)	—		
	シーボルト校	7月15・16日	参加者	636	141	261	1038	
			(高校)	(41)	(39)	—		

平成25年 3月13日

平成27年度長崎県立大学入学者選抜について（予告）

平成27年度より長崎県立大学入学者選抜方法等について、以下のとおり変更を予定しています。具体的な変更内容は、別紙1～4で確認してください。

1. 一般入試における大学入試センター試験教科利用方法及び個別学力検査の変更

以下の学部において、変更します。詳細は、[別紙1](#)のとおりとします。

経済学部（経済学科，地域政策学科，流通・経営学科）：

国語、数学、英語から高得点2教科を必須とする3教科3科目、3教科4科目または、3教科5科目を利用する。

※ 個別学力検査は変更ありません。

国際情報学部（情報メディア学科）：

- ① 大学入試センター試験の教科・科目の配点を変更する。
- ② 個別学力検査出題科目を総合問題から科目試験へ変更する。

2. 大学入試センター試験数学・理科の利用方法

平成24年度から実施されている新高等学校学習指導要領による数学・理科の平成27年度大学入試センター試験の利用教科・科目は、[別紙2](#)及び[別紙3](#)のとおりとします。

なお、変更内容は現時点のものであり、大学入試センターからの配点等公表後に変更する場合がありますので、ご注意ください。

3. AO入試募集停止

経済学部において、平成27年度入試よりAO入試の募集を停止します。その募集人員は、一般入試（後期日程）に移行します。

なお、一部区分は、特別選抜（推薦入試）に移行し、引続き募集いたします。

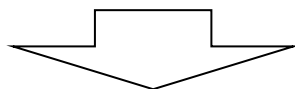
詳細は、[別紙4](#)のとおりとします。

経済学部（経済学科，地域政策学科，流通・経営学科）

【現 行】

	センター試験							個別学力検査				配点 合計
	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小計	小論文	英語	数学	小計	
前期日程	※ 200	※ 200	※ 200	※必 200	※ 200	※必 200	600	200	/	/	200	800
後期日程	※ 200	※ 200	※ 200	※必 200	※ 200	※必 200	600	※ 200	※ 200	※ 200	200	800

○ 配点に「※」印を付してある教科は選択教科を表す（センター試験は3教科，個別学力検査は1教科選択）。但し、「※必」を付してある教科は、いずれか高得点の教科を必須として合否判定を行う。



【変更後】

	センター試験							個別学力検査				配点 合計
	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小計	小論文	英語	数学	小計	
前期日程	※必 200	※ 200	※ 200	※必 200	※ 200	※必 200	600	200	/	/	200	800
後期日程	※必 200	※ 200	※ 200	※必 200	※ 200	※必 200	600	※ 200	※ 200	※ 200	200	800

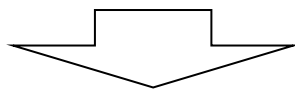
○ 配点に「※」印を付してある教科は選択教科を表す（センター試験は3教科，個別学力検査は1教科選択）。但し、「※必」を付してある教科は、いずれか高得点2教科を必須として合否判定を行う。

国際情報学部 情報メディア学科

【現 行】

	センター試験							個別学力検査				配点 合計
	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小計	総合問題	—	—	小計	
前期日程	100	※ 100	※ 100	100	100	100	500	300	/	/	300	800
後期日程	100	※ 100	※ 100	100	100	100	500	200	/	/	200	700

○ 配点に「※」印を付してある教科は選択教科を表す（センター試験は1教科選択）。



【変更後】

	センター試験							個別学力検査				配点 合計
	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小計	英語	国語	数学	小計	
前期日程	200	※ 100	※ 100	200	100	250	850	200	※ 200	※ 200	400	1250
後期日程	100	※ 50	※ 50	100	50	125	425	200	※ 200	※ 200	400	825

○ 配点に「※」印を付してある教科は選択教科を表す（センター試験は1教科，個別学力検査は1教科選択）。

平成27年度 大学入試センター試験利用教科・科目（数学・理科）について

		大学入試センター試験の利用教科・科目名	
学部	学科	日程	教科
経済	経済 地域政策 流通・経営	前期・後期	①数Ⅰ、数Ⅰ・数Ⅱから1
			②数Ⅱ、数Ⅱ・数Ⅲ、工業数理基礎、簿記・会計、情報関係基礎から1 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 または 物理、化学、生物、地学から1
国際情報	国際交流	前期・後期	数Ⅰ・数ⅡA、数Ⅱ・数Ⅲから1
			物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 または 物理、化学、生物、地学から1
国際情報	情報メディア	前期・後期	数Ⅰ・数ⅡAと数Ⅱ・数Ⅲ
			物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 または 物理、化学、生物、地学から1
看護	看護	前期・後期	数Ⅰ・数ⅡAと数Ⅱ・数Ⅲ
			物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 または 物理、化学、生物から1
看護	栄養健康	前期	数Ⅰ・数ⅡAと数Ⅱ・数Ⅲ
			物理、化学、生物、地学から2
看護	栄養健康	後期	数Ⅰ・数ⅡAと数Ⅱ・数Ⅲ
			物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 または 物理、化学、生物、地学から1

平成27年度 大学入試センター試験利用教科・科目名(新旧対照表)

※下線部分が変更点です。

学部	学科	区分 学力 検査 日程 等の	平成27年度		平成25年度	
			大学入試センター試験の利用教科・科目名		大学入試センター試験の利用教科・科目名	
			教科	科目名等	教科	科目名等
経済	経済／地域政策／流通・経営	前期	国 地歴 公民 数 理	国 世A,世B,日A,日B 地理A,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } ①:数I,「数I・数A」から1 ②:数II,「数II・数B」,工,簿,情報から1 ① 物理基礎,化学基礎,生物基礎,地学基礎 } ①から2 ② 物理,化学,生物,地学 } または②から1	国 地歴 公民 数 理	国 世A,世B,日A,日B 地理A,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } ①:数I,「数I・数A」から1 ②:数II,「数II・数B」,工,簿,情報から1 理総A,理総B, } から1 物,化,生,地学 }
		後期	外	英<リスニング>必須>, 独,仏,中,韓から1 [3教科3科目又は4科目 <u>又は5科目</u>] (国,地歴又は公民,数①及び数②,理,外から3教科を用いる。 但し, <u>3教科のうち2教科は,国・数・外のいずれか2教科を必須</u>)	外	英<リスニング>必須>, 独,仏,中,韓から1 [3教科3科目又は3教科4科目] (国,地歴又は公民,数①及び数②,理,外 から3教科を用いる。 但し,3教科のうち1教科は,数又は外の どちらかの教科を必須)
国際情報	国際交流	前期	国 地歴 公民 数理	国 世B,日B,地理Bから1 現社,倫,政経,倫・政経から1 数I・数A,数II・数Bから1 ① 物理基礎,化学基礎,生物基礎,地学基礎 } ①から2 ② 物理,化学,生物,地学 } または②から1	国 地歴 公民 数理	国 世B,日B,地理Bから1 現社,倫,政経,倫・政経から1 数I・数A,数II・数Bから1 物,化,生,地学から1 } から2
		後期	外	英<リスニング>必須>, 独,仏,中,韓から1 [4教科4科目 <u>又は5科目</u>]	外	英<リスニング>必須>, 独,仏,中,韓から1 [4教科4科目]
国際情報	情報メディア	前期	国 地歴 公民 数理	国 世B,日B,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 数I・数Aと数II・数B } ① 物理基礎,化学基礎,生物基礎,地学基礎 } ①から2 ② 物理,化学,生物,地学 } または②から1	国 地歴 公民 数理	国 世B,日B,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 数I・数Aと数II・数B } 物,化,生,地学から1
		後期	外	英<リスニング>必須> [5教科6科目 <u>又は7科目</u>]	外	英<リスニング>必須> [5教科6科目]
看護	看護	前期	国 地歴 公民 数理	国 世B,日B,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 数I・数Aと数II・数B } ① 物理基礎,化学基礎,生物基礎,地学基礎 } ①から2 ② 物理,化学,生物 } または②から1	国 地歴 公民 数理	国 世B,日B,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 数I・数Aと数II・数B } 物,化,生から1
		後期	外	英<リスニング>必須> [5教科6科目 <u>又は7科目</u>]	外	英<リスニング>必須> [5教科6科目]
看護	栄養健康	前期	国 地歴 公民 数理	国 世B,日B,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 数I・数Aと数II・数B } 物理,化学,生物,地学から2	国 地歴 公民 数理	国 世B,日B,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 数I・数Aと数II・数B } 物,化,生,地学から2
		後期	外	英<リスニング>必須> [5教科7科目]	外	英<リスニング>必須> [5教科7科目]
看護	栄養健康	前期	国 地歴 公民 数理	国 世B,日B,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 数I・数Aと数II・数B } ① 物理基礎,化学基礎,生物基礎,地学基礎 } ①から2 ② 物理,化学,生物,地学 } または②から1	国 地歴 公民 数理	国 世B,日B,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 数I・数Aと数II・数B } 物,化,生,地学から1
		後期	外	英<リスニング>必須> [5教科6科目 <u>又は7科目</u>]	外	英<リスニング>必須> [5教科6科目]

平成27年度入試より経済学部におけるAO入試の募集を停止します。
特別選抜（推薦入試）の区分としてアカウンティングプログラム枠を設けます。
募集人員は以下のとおりとなります。

【現 行】

(単位：人)

区 分		募 集 人 員			
		経済学科	地域政策 学科	流通・経営 学科	
AO入試 ※1		6	6	6	
特別選抜 (推薦入試)	県内	普通科	17	17	17
		専門学科	10	10	10
		総合学科	5	5	5
		離島高校	2	2	2
	県外	普通科等	10	10	10
		商業科・ 総合学科等	6	6	6
一般入試	前期日程		70	70	70
	後期 日程	Aコース(※2)	8	8	8
		Bコース(※2)	8	8	8
		Cコース(※2)	8	8	8
特別選抜	帰国子女		若干名	若干名	若干名
	社会人		若干名	若干名	若干名
	私費外国人留学生		若干名	若干名	若干名
学 科 計		150	150	150	
学 部 計		450			

【変更後】

(単位：人)

区 分			募 集 人 員		
			経済学科	地域政策 学科	流通・経営 学科
特別選抜 (推薦入試)	県内	普通科	17	17	17
		専門学科	10	10	10
		総合学科	5	5	5
		離島高校	2	2	2
	県外	普通科等	10	10	10
		商業科・ 総合学科等	6	6	6
	県内外	アカウンティング プログラム枠 (全科対象)	-	-	3
一般入試	前期日程		70	70	70
	後期 日程	Aコース(※2)	10	10	9
		Bコース(※2)	10	10	9
		Cコース(※2)	10	10	9
特別選抜	帰国子女		若干名	若干名	若干名
	社会人		若干名	若干名	若干名
	私費外国人留学生		若干名	若干名	若干名
学 科 計			150	150	150
学 部 計			450		

※1 現行のAO入試募集人員18名の内訳は、英語プログラム10名程度、中国語プログラム5名程度、アカウンティングプログラム3名程度です。

※2 後期日程Aコースは「小論文」、後期日程Bコースは「英語」、後期日程Cコースは「数学」で個別学力検査等を実施するものであり、出願時にコース選択を行う必要があります。

聴講生・科目等履修生の受入状況

○聴講生

(学則第54条) 本学の特定の授業科目を聴講するために入学を許可された者

(単位:人、科目)

年度	キャンパス名	聴講生(のべ)			受講科目
		計	男	女	
20年度	佐世保校	0	—	—	—
	シーボルト校	1	0	1	1
21年度	佐世保校	2	0	2	2
	シーボルト校	1	0	1	2
22年度	佐世保校	4	0	4	6
	シーボルト校	0	—	—	—
23年度	佐世保校	6	2	4	6
	シーボルト校	1	0	1	1
24年度	佐世保校	2	0	2	3
	シーボルト校	6	1	5	6

○科目等履修生

(学則第55条) 本学の特定の授業科目を履修し単位を修得するために入学を許可された者

(単位:人、科目)

年度	キャンパス名	科目等履修生(のべ)			受講科目
		計	男	女	
20年度	佐世保校	7	3	4	12
	シーボルト校	3	1	2	4
21年度	佐世保校	11	4	7	26
	シーボルト校	0	—	—	—
22年度	佐世保校	8	3	5	26
	シーボルト校	2	0	2	2
23年度	佐世保校	5	0	5	15
	シーボルト校	1	1	0	2
24年度	佐世保校	7	0	7	12
	シーボルト校	2	2	0	2

I. NICEキャンパス長崎について

1. NICEキャンパス長崎とは

(1) NICEキャンパス長崎(大学間単位互換制度)

「NICEキャンパス長崎」は、平成13年度からスタートした単位互換制度で、長崎県内全ての大学、短期大学及び高等専門学校が参加しています。

「NICE」の名称は、Nagasaki Intercollegiate(大学間) Credit(単位) Exchange(互換)の頭文字をとってつけられました。

単位互換制度は、各大学等が提供している授業科目(コーディネート科目、教養科目、専門科目)の中から、希望する科目を履修し、科目開設大学で単位を修得すれば所属大学の単位として認定される制度です。また、認定された単位のうち、所定の要件を満たすものについては、卒業要件単位(大学によって扱いは異なります。)として活用することもできます。

自分の大学にない分野の科目を学びたい、自分の専攻を深めたい人など、本制度を利用していろいろな可能性にチャレンジしてください。

(2) NICEキャンパス長崎を利用した受講生の声

NICEキャンパス長崎には、他大学の単位が自大学の単位として取得できるほかにも、様々なメリットがあります。昨年度NICEキャンパス長崎を利用した単位互換履修生からは、次のような感想が寄せられています。

これまでに受講した方の感想

- 自分の所属学部に限らず、興味のある科目を学ぶことができる点が良かったです。
- 自分の大学にない分野を受講することができる上に、単位にもなるのでとても良い制度だと思います。
- 様々な先生がその専門の話しをしてくれたので、期待や興味を持って楽しく学べました。
- 他大学の教授の話しを聞けたり、他大学の雰囲気があって面白かったです。
- 長崎について様々な視点から学ぶことができました。
- 地域の方々とも一緒に参加できて勉強になりました。
- 他大学の学生や社会人の方々とも意見交換しあえるところが良かったです。

このように、NICEキャンパス長崎では所属大学だけでは学べない分野について学びの機会や、他大学の講師陣・学生との交流、社会人の方々との交流を深める機会などを提供しています。

また、コーディネート科目では長崎に関係する話題を中心に、各大学が独自の視点から講義を構成しています。

長崎について様々な視点から学びたい方、交流を深めたい方は、是非この機会を活用してみたいかがでしょうか。

平成24年度後期 授業評価アンケート集計

長崎県立大学佐世保校

授業評価アンケート結果について

I 調査概要について

平成24年度後期の授業評価アンケートは、通常分については平成25年1月7日から25日までに、また、集中講義については随時実施された。

対象科目数は372科目、履修登録者数はのべ19,111名に対し、回答科目数は335科目、回答者数は、のべ12,125名であった。

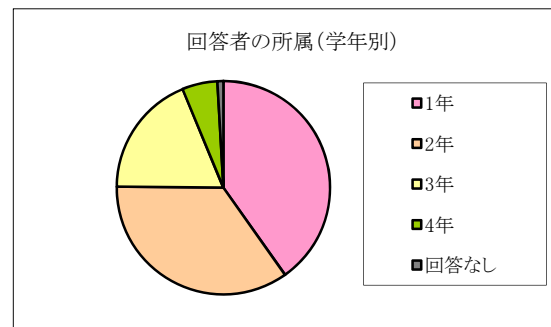
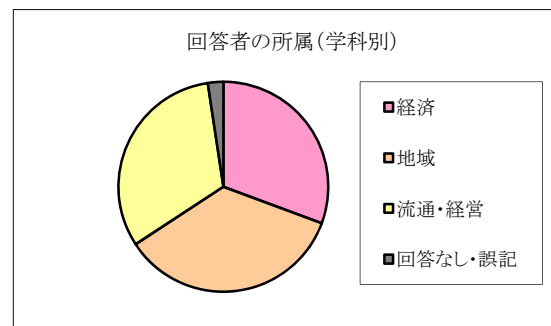
II 回答状況について

①出席状況について

	回答者数	履修登録者数	回答率
全体	12,125 人	19,111 人	63.4 %

②回答者の所属について

		回答者数	所属割合
学科別	経済	3,719 人	30.7 %
	地域	4,258 人	35.1 %
	流通・経営	3,859 人	31.8 %
	回答なし・誤記	289 人	2.4 %
学年別	1年	4,873 人	40.2 %
	2年	4,238 人	35.0 %
	3年	2,259 人	18.6 %
	4年	643 人	5.3 %
	回答なし	112 人	0.9 %
全体		12,125 人	100.0 %

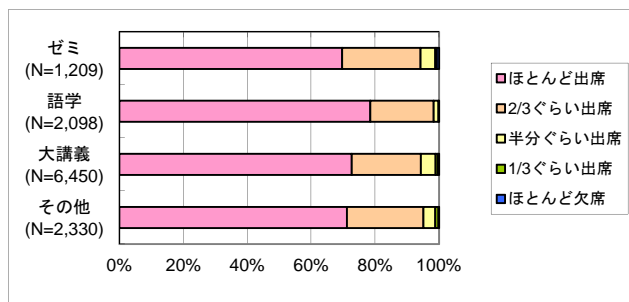
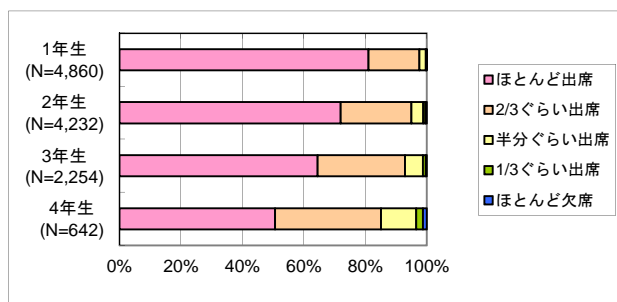
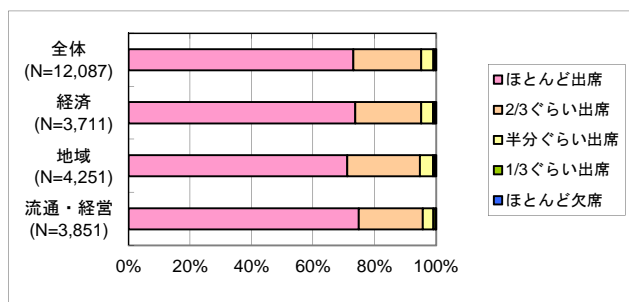


Ⅲ アンケート回答結果について

1. この授業への出席率はどれくらいですか。

単位:%

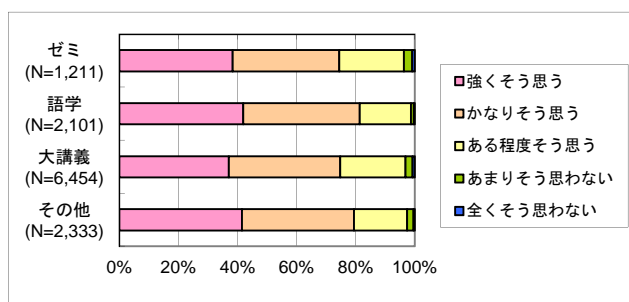
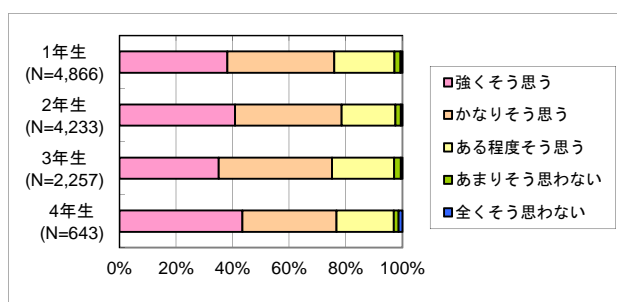
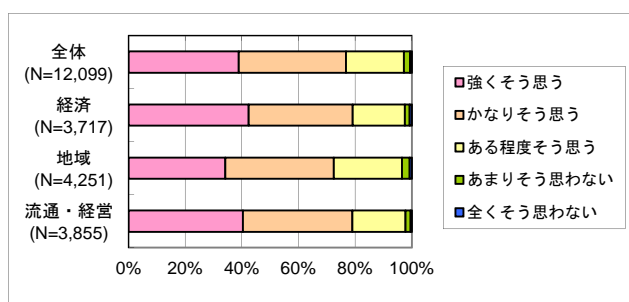
	全体 (N=12,087)	経済 (N=3,711)	地域 (N=4,251)	流通・経営 (N=3,851)	1年生 (N=4,860)	2年生 (N=4,232)	3年生 (N=2,254)	4年生 (N=642)	ゼミ (N=1,209)	語学 (N=2,098)	大講義 (N=6,450)	その他 (N=2,330)
ほとんど出席	73.1	73.7	71.1	74.9	81.0	72.0	64.5	50.6	69.6	78.5	72.7	71.2
2/3ぐらい出席	22.0	21.5	23.6	20.8	16.5	23.0	28.4	34.4	24.6	19.9	21.6	23.9
半分ぐらい出席	3.9	3.8	4.4	3.5	2.1	3.8	5.9	11.5	4.5	1.5	4.6	3.8
1/3ぐらい出席	0.6	0.6	0.6	0.6	0.2	0.8	0.9	2.2	0.6	0.0	0.7	0.9
ほとんど欠席	0.3	0.4	0.4	0.2	0.1	0.4	0.4	1.2	0.7	0.2	0.4	0.2



2. この授業を遅刻や私語をせず、真剣に受講しましたか。

単位:%

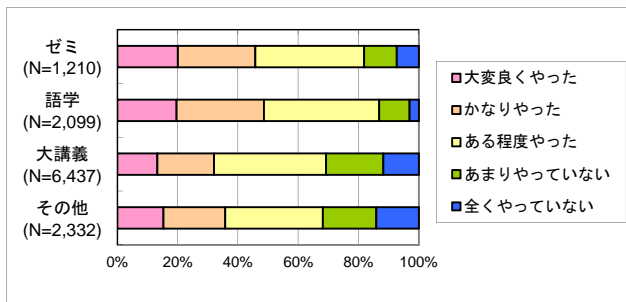
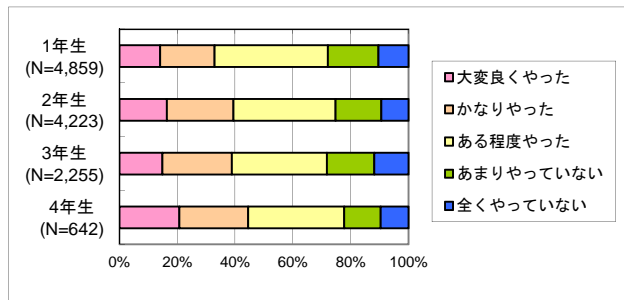
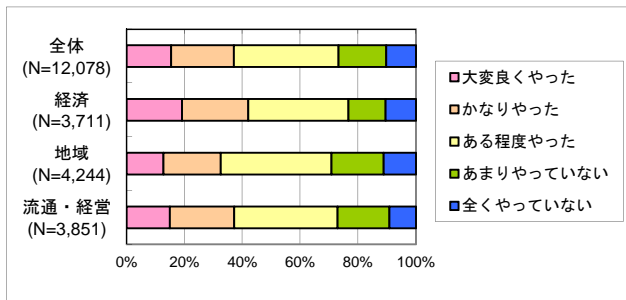
	全体 (N=12,099)	経済 (N=3,717)	地域 (N=4,251)	流通・経営 (N=3,855)	1年生 (N=4,866)	2年生 (N=4,233)	3年生 (N=2,257)	4年生 (N=643)	ゼミ (N=1,211)	語学 (N=2,101)	大講義 (N=6,454)	その他 (N=2,333)
強くそう思う	38.9	42.4	34.2	40.3	38.2	40.9	35.1	43.4	38.4	41.9	37.1	41.5
かなりそう思う	37.8	36.7	38.2	38.8	37.8	37.6	40.0	33.3	36.1	39.5	37.6	37.8
ある程度そう思う	20.5	18.4	24.1	18.7	21.2	19.1	22.0	20.2	21.8	17.4	22.2	18.0
あまりそう思わない	2.1	1.7	2.7	1.9	2.1	1.9	2.4	1.7	2.8	0.9	2.4	2.1
全くそう思わない	0.6	0.8	0.8	0.4	0.7	0.5	0.5	1.4	0.9	0.3	0.8	0.5



3. この授業について予習・復習を行いましたか。

単位:%

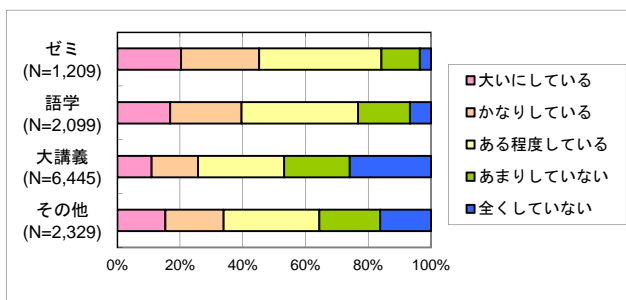
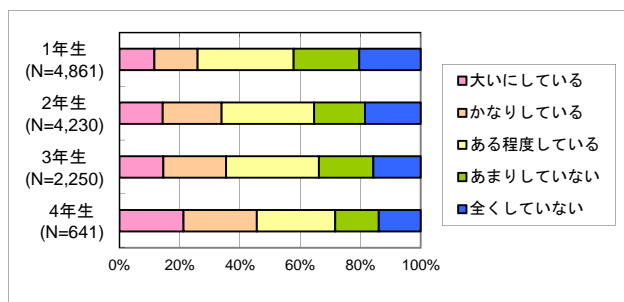
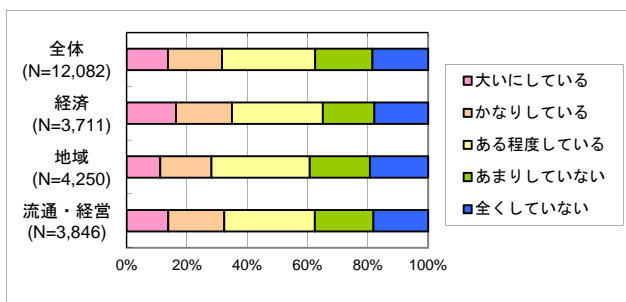
	全体 (N=12,078)	経済 (N=3,711)	地域 (N=4,244)	流通・経営 (N=3,851)	1年生 (N=4,859)	2年生 (N=4,223)	3年生 (N=2,255)	4年生 (N=642)	ゼミ (N=1,210)	語学 (N=2,099)	大講義 (N=6,437)	その他 (N=2,332)
大変良くやった	15.4	19.1	12.7	14.9	14.1	16.4	14.9	20.7	20.1	19.6	13.3	15.2
かなりやった	21.6	23.0	19.8	22.2	18.8	23.1	24.0	23.8	25.6	29.0	18.8	20.5
ある程度やった	36.3	34.5	38.3	35.7	39.2	35.3	32.9	33.2	36.1	38.3	37.1	32.4
あまりやっていない	16.4	12.9	18.1	18.0	17.5	15.8	16.5	12.6	10.9	10.1	19.0	17.7
全くやっていない	10.3	10.5	11.1	9.1	10.5	9.4	11.8	9.7	7.3	3.1	11.8	14.2



4. 授業内容について質問や発言をしていますか。

単位:%

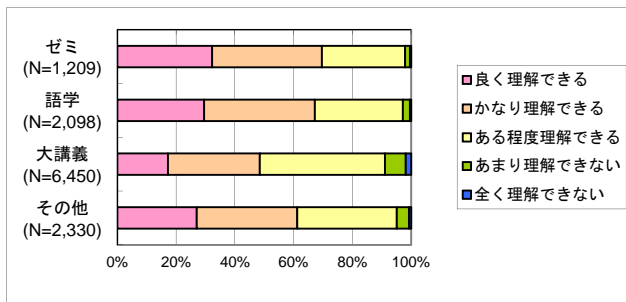
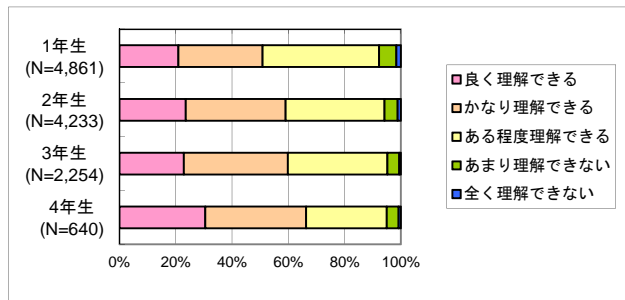
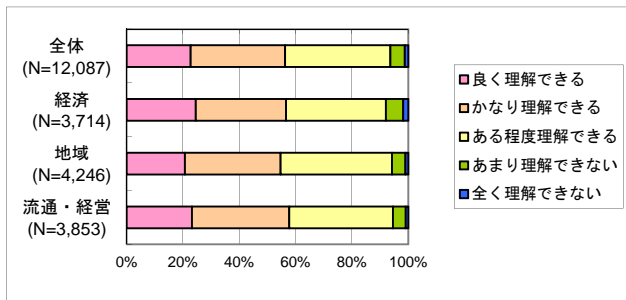
	全体 (N=12,082)	経済 (N=3,711)	地域 (N=4,250)	流通・経営 (N=3,846)	1年生 (N=4,861)	2年生 (N=4,230)	3年生 (N=2,250)	4年生 (N=641)	ゼミ (N=1,209)	語学 (N=2,099)	大講義 (N=6,445)	その他 (N=2,329)
大いにしている	13.7	16.3	11.2	13.8	11.6	14.4	14.6	21.2	20.3	16.8	10.9	15.3
かなりしている	17.9	18.6	16.9	18.6	14.4	19.5	20.8	24.3	24.9	22.7	14.8	18.5
ある程度している	30.9	30.2	32.6	30.0	31.8	30.7	30.8	26.1	39.0	37.2	27.5	30.5
あまりしていない	19.0	17.1	20.0	19.4	21.8	16.9	18.1	14.5	12.2	16.6	20.9	19.4
全くしていない	18.5	17.8	19.3	18.1	20.4	18.5	15.7	13.9	3.6	6.7	25.9	16.3



5. 授業内容は良く理解できますか。

単位:%

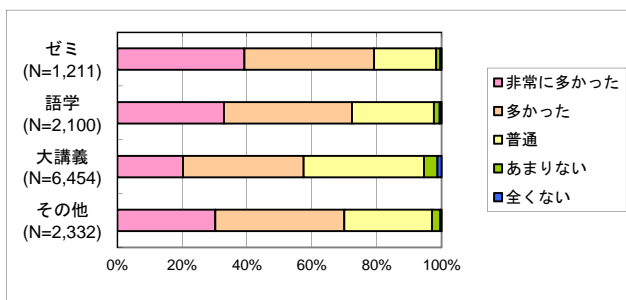
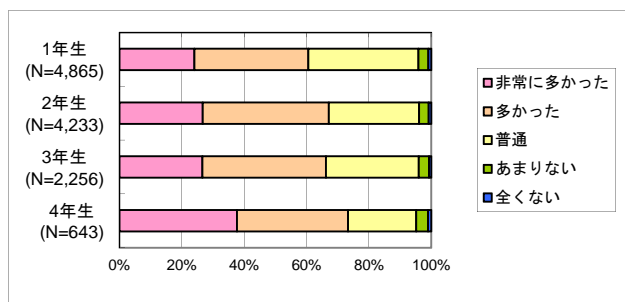
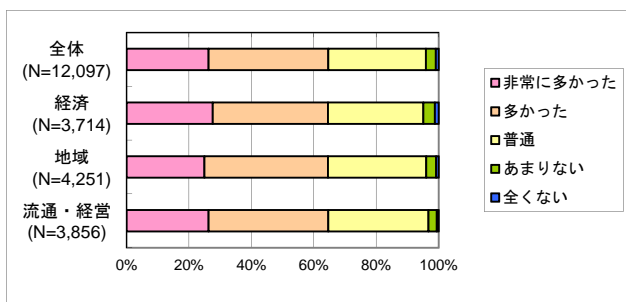
	全体 (N=12,087)	経済 (N=3,714)	地域 (N=4,246)	流通・経営 (N=3,853)	1年生 (N=4,861)	2年生 (N=4,233)	3年生 (N=2,254)	4年生 (N=640)	ゼミ (N=1,209)	語学 (N=2,098)	大講義 (N=6,450)	その他 (N=2,330)
良く理解できる	22.7	24.6	20.7	23.2	20.9	23.5	22.8	30.5	32.3	29.6	17.2	27.0
かなり理解できる	33.5	32.0	34.0	34.6	30.0	35.5	37.0	35.8	37.4	37.7	31.3	34.2
ある程度理解できる	37.3	35.4	39.5	36.8	41.3	35.2	35.3	28.8	28.3	30.0	42.7	33.9
あまり理解できない	5.1	6.1	4.8	4.4	6.2	4.6	4.2	4.2	1.6	2.3	7.0	4.1
全く理解できない	1.3	1.9	1.0	1.0	1.6	1.2	0.6	0.8	0.5	0.5	1.9	0.8



6. この授業によって得たものは多かったですか

単位:%

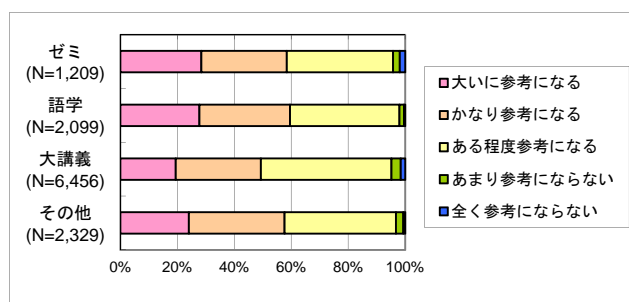
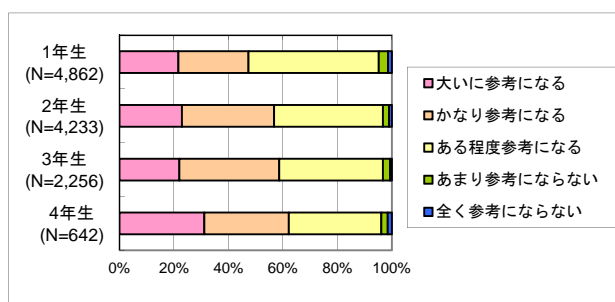
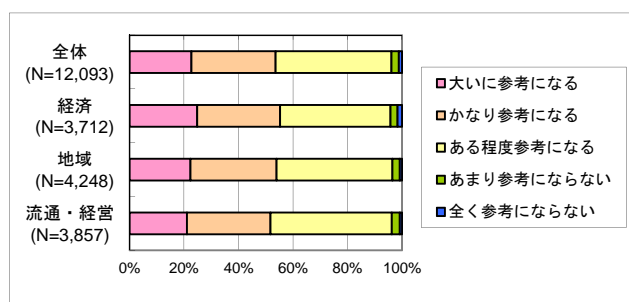
	全体 (N=12,097)	経済 (N=3,714)	地域 (N=4,251)	流通・経営 (N=3,856)	1年生 (N=4,865)	2年生 (N=4,233)	3年生 (N=2,256)	4年生 (N=643)	ゼミ (N=1,211)	語学 (N=2,100)	大講義 (N=6,454)	その他 (N=2,332)
非常に多かった	26.2	27.6	25.0	26.2	24.1	26.6	26.6	37.6	39.1	32.8	20.2	30.2
多かった	38.4	37.0	39.5	38.4	36.4	40.5	39.6	35.6	40.0	39.5	37.2	39.7
普通	31.3	30.6	31.5	32.1	35.3	29.0	29.7	21.9	19.2	25.3	37.1	27.1
あまりない	3.2	3.7	3.2	2.6	3.2	3.0	3.3	3.7	1.3	1.8	4.2	2.6
全くない	0.9	1.2	0.8	0.7	1.0	0.9	0.7	1.1	0.4	0.6	1.3	0.4



7. 授業科目の選択に際して、シラバスは参考になりましたか。

単位:%

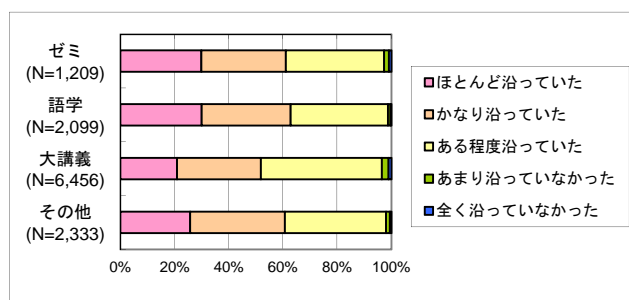
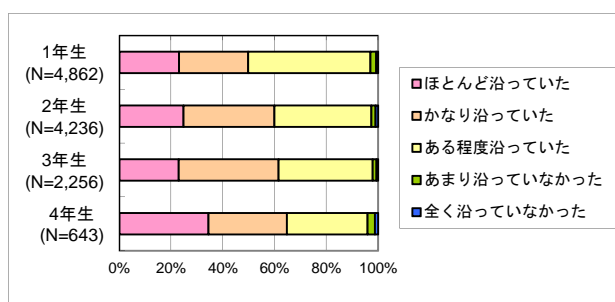
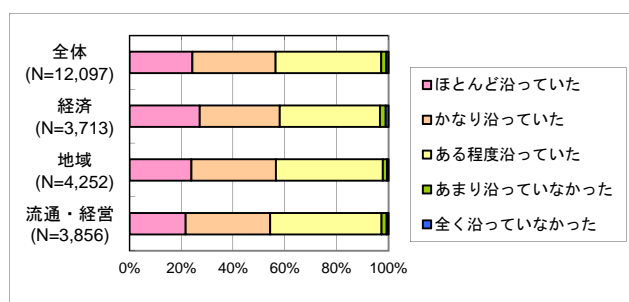
	全体 (N=12,093)	経済 (N=3,712)	地域 (N=4,248)	流通・経営 (N=3,857)	1年生 (N=4,862)	2年生 (N=4,233)	3年生 (N=2,256)	4年生 (N=642)	ゼミ (N=1,209)	語学 (N=2,099)	大講義 (N=6,456)	その他 (N=2,329)
大いに参考になる	22.7	24.8	22.3	21.0	21.7	22.9	21.9	31.2	28.4	27.7	19.5	24.0
かなり参考になる	30.9	30.5	31.6	30.7	25.7	33.9	36.7	31.0	30.0	31.9	29.9	33.6
ある程度参考になる	42.5	40.5	42.5	44.6	47.9	39.9	38.1	34.0	37.4	38.4	45.9	39.1
あまり参考にならない	2.7	2.6	2.7	2.9	3.3	2.2	2.6	2.3	2.4	1.6	3.2	2.6
全く参考にならない	1.2	1.7	0.9	0.9	1.4	1.0	0.7	1.6	1.8	0.4	1.5	0.6



8. 授業内容はシラバスに沿っていましたか。

単位:%

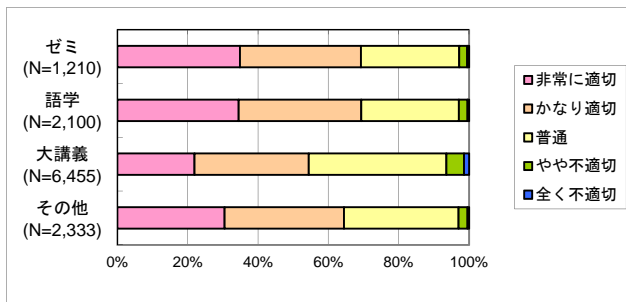
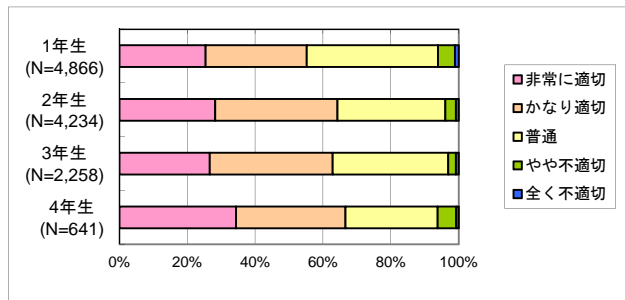
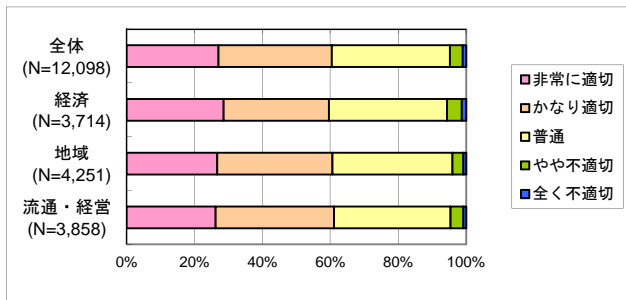
	全体 (N=12,097)	経済 (N=3,713)	地域 (N=4,252)	流通・経営 (N=3,856)	1年生 (N=4,862)	2年生 (N=4,236)	3年生 (N=2,256)	4年生 (N=643)	ゼミ (N=1,209)	語学 (N=2,099)	大講義 (N=6,456)	その他 (N=2,333)
ほとんど沿っていた	24.3	27.1	23.9	21.6	23.0	24.8	22.9	34.4	29.9	30.0	20.9	25.8
かなり沿っていた	32.1	30.9	32.6	32.7	26.8	35.1	38.7	30.3	31.2	32.8	31.0	35.0
ある程度沿っていた	40.9	38.7	41.3	43.0	47.3	37.6	36.3	31.3	36.2	35.9	44.6	37.3
あまり沿っていません	1.9	2.3	1.6	2.0	2.3	1.6	1.5	2.8	1.8	1.0	2.4	1.4
全く沿っていません	0.8	1.1	0.6	0.7	0.7	0.9	0.6	1.2	0.9	0.3	1.1	0.6



9. 授業のテンポ・速度は適切ですか。

単位：%

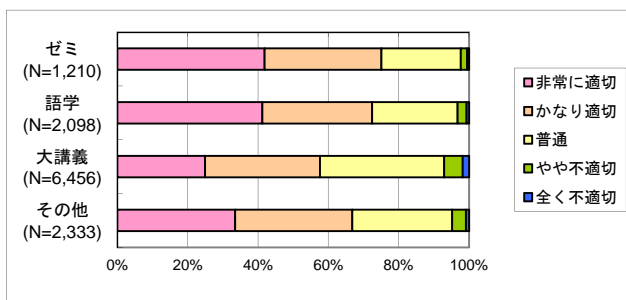
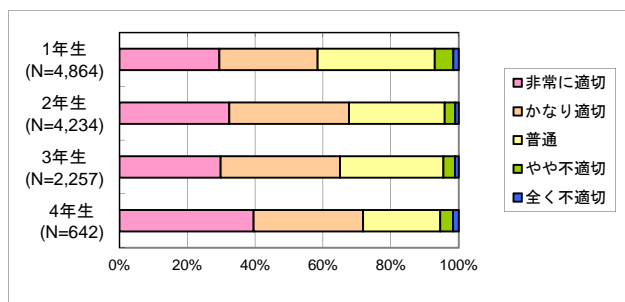
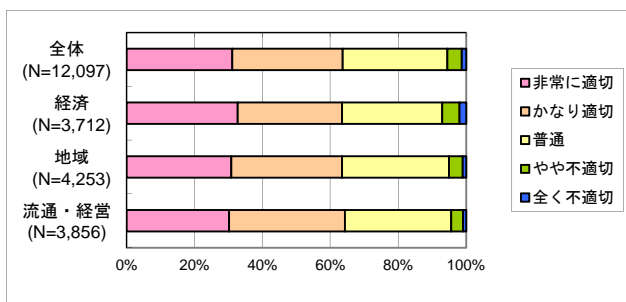
	全体 (N=12,098)	経済 (N=3,714)	地域 (N=4,251)	流通・経営 (N=3,858)	1年生 (N=4,866)	2年生 (N=4,234)	3年生 (N=2,258)	4年生 (N=641)	ゼミ (N=1,210)	語学 (N=2,100)	大講義 (N=6,455)	その他 (N=2,333)
非常に適切	27.1	28.6	26.7	26.2	25.4	28.2	26.7	34.3	34.9	34.5	22.0	30.5
かなり適切	33.3	31.0	33.9	34.9	29.9	36.0	36.2	32.3	34.4	34.8	32.5	33.9
普通	34.8	34.7	35.3	34.3	38.7	31.9	34.1	27.1	27.9	27.8	39.2	32.6
やや不適切	3.8	4.4	3.2	3.8	5.0	3.1	2.2	5.5	2.2	2.4	5.0	2.5
全く不適切	1.0	1.3	0.8	0.9	1.2	0.9	0.9	0.8	0.6	0.5	1.4	0.5



10. 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいですか。

単位：%

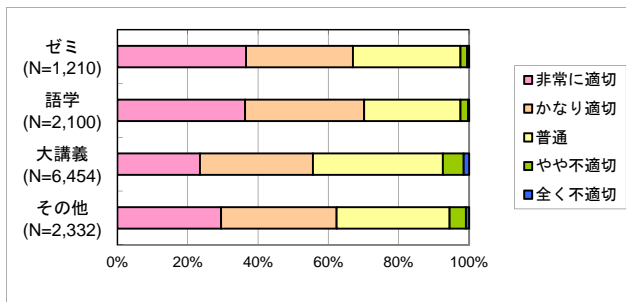
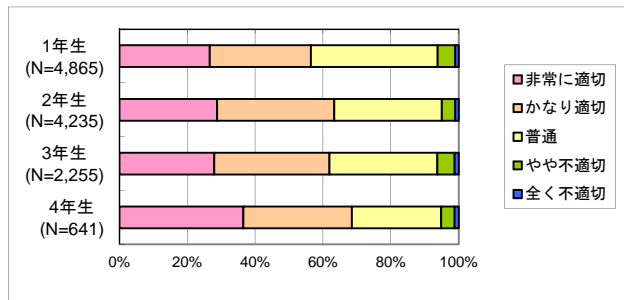
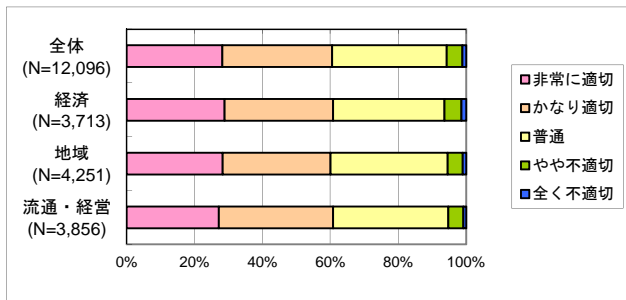
	全体 (N=12,097)	経済 (N=3,712)	地域 (N=4,253)	流通・経営 (N=3,856)	1年生 (N=4,864)	2年生 (N=4,234)	3年生 (N=2,257)	4年生 (N=642)	ゼミ (N=1,210)	語学 (N=2,098)	大講義 (N=6,456)	その他 (N=2,333)
非常に適切	31.1	32.7	30.8	30.1	29.4	32.4	29.9	39.6	41.8	41.2	24.9	33.4
かなり適切	32.6	30.8	32.6	34.2	29.0	35.3	35.2	32.2	33.2	31.2	32.6	33.3
普通	30.8	29.4	31.5	31.3	34.4	28.2	30.4	22.7	22.6	24.3	35.4	28.4
やや不適切	4.2	5.1	4.1	3.4	5.5	3.2	3.5	3.7	1.8	2.6	5.3	3.9
全く不適切	1.3	2.0	1.0	1.0	1.6	1.0	1.1	1.7	0.5	0.7	1.8	0.9



11. 授業内容の表示方法(板書・映像画面等)は適切ですか。

単位:%

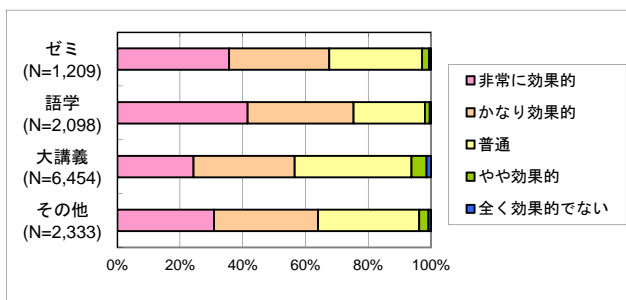
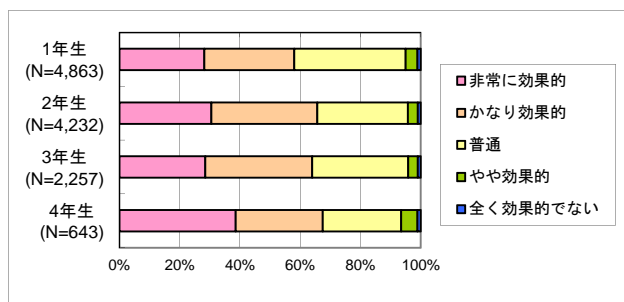
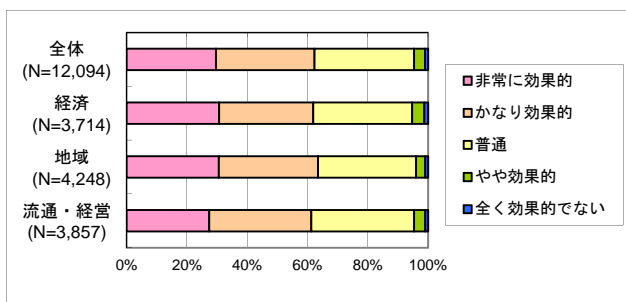
	全体 (N=12,096)	経済 (N=3,713)	地域 (N=4,251)	流通・経営 (N=3,856)	1年生 (N=4,865)	2年生 (N=4,235)	3年生 (N=2,255)	4年生 (N=641)	ゼミ (N=1,210)	語学 (N=2,100)	大講義 (N=6,454)	その他 (N=2,332)
非常に適切	28.2	28.9	28.3	27.1	26.7	28.8	27.9	36.5	36.5	36.3	23.5	29.5
かなり適切	32.4	31.9	31.7	33.7	29.8	34.5	33.9	32.0	30.4	33.9	32.1	32.9
普通	33.7	32.8	34.5	33.9	37.3	31.7	31.8	26.4	30.6	27.4	36.9	32.1
やや不適切	4.6	5.0	4.4	4.5	5.2	3.9	5.1	3.9	1.9	2.1	6.0	4.6
全く不適切	1.1	1.4	1.0	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	0.6	0.3	1.5	0.9



12. 教材(テキスト・配付資料・視聴覚機器等)を効果的に用いていますか。

単位:%

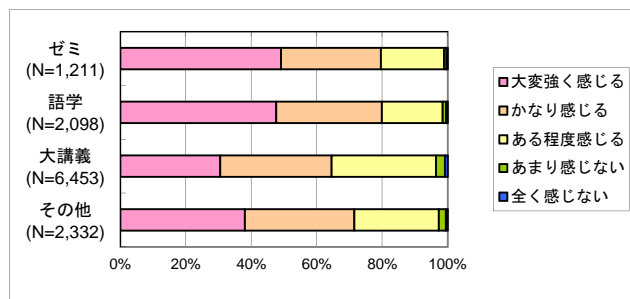
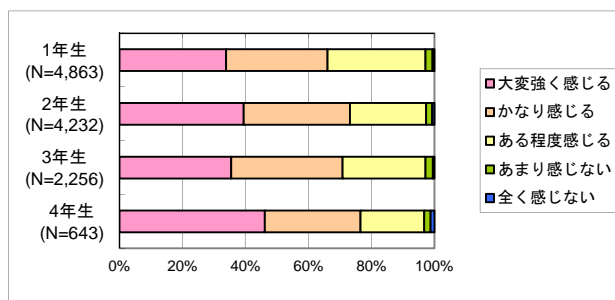
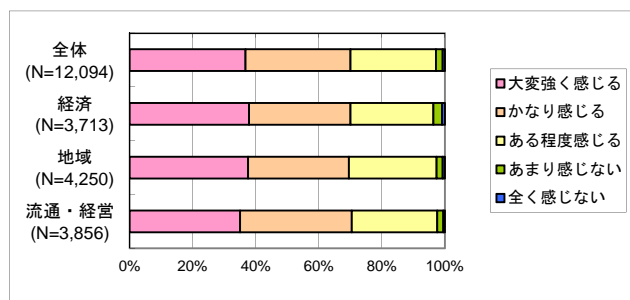
	全体 (N=12,094)	経済 (N=3,714)	地域 (N=4,248)	流通・経営 (N=3,857)	1年生 (N=4,863)	2年生 (N=4,232)	3年生 (N=2,257)	4年生 (N=643)	ゼミ (N=1,209)	語学 (N=2,098)	大講義 (N=6,454)	その他 (N=2,333)
非常に効果的	29.6	30.7	30.6	27.5	28.2	30.6	28.4	38.6	35.6	41.6	24.2	30.8
かなり効果的	32.7	31.2	32.9	33.9	29.8	35.1	35.5	28.9	31.9	33.7	32.3	33.2
普通	33.0	32.8	32.4	34.1	37.0	30.1	31.8	26.0	29.6	22.7	37.3	32.3
やや効果的	3.6	4.0	3.1	3.7	3.9	3.3	3.2	5.4	2.2	1.5	4.8	2.9
全く効果的でない	1.0	1.3	0.9	0.9	1.1	1.0	1.0	1.1	0.6	0.4	1.4	0.9



13. 授業に対する教員の熱意が感じられますか。

単位：%

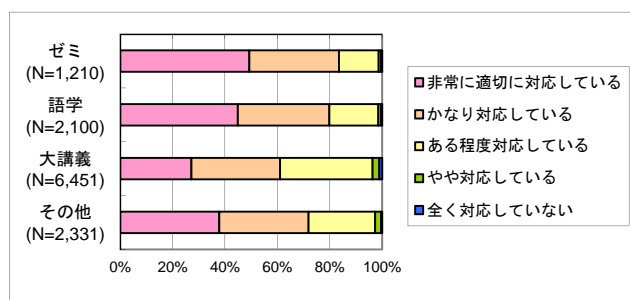
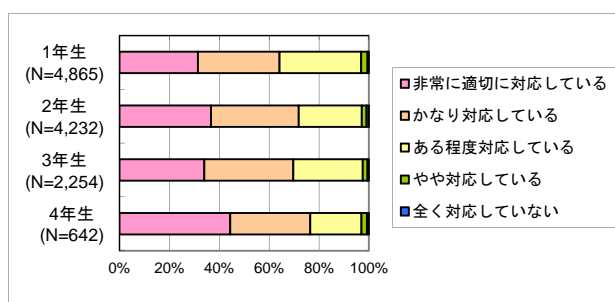
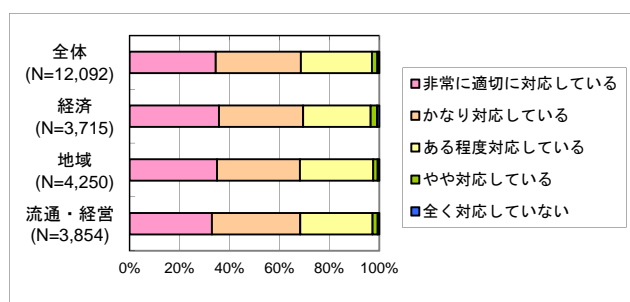
	全体 (N=12,094)	経済 (N=3,713)	地域 (N=4,250)	流通・経営 (N=3,856)	1年生 (N=4,863)	2年生 (N=4,232)	3年生 (N=2,256)	4年生 (N=643)	ゼミ (N=1,211)	語学 (N=2,098)	大講義 (N=6,453)	その他 (N=2,332)
大変強く感じる	36.8	37.9	37.6	35.0	33.8	39.4	35.5	46.2	49.1	47.6	30.5	38.0
かなり感じる	33.3	32.2	32.0	35.5	32.2	33.8	35.3	30.3	30.6	32.2	34.0	33.4
ある程度感じる	27.1	26.3	27.8	27.1	31.1	24.2	26.3	20.2	19.2	18.6	31.8	25.8
あまり感じない	2.1	2.7	1.9	1.9	2.2	1.9	2.3	2.0	0.7	1.1	2.8	2.1
全く感じない	0.7	0.9	0.7	0.5	0.6	0.7	0.5	1.2	0.4	0.4	0.9	0.6



14. 学生の質問に適切に対応していますか。

単位：%

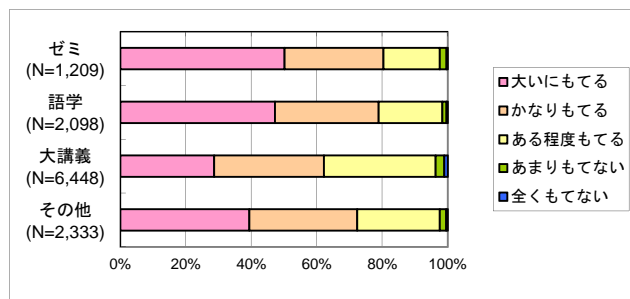
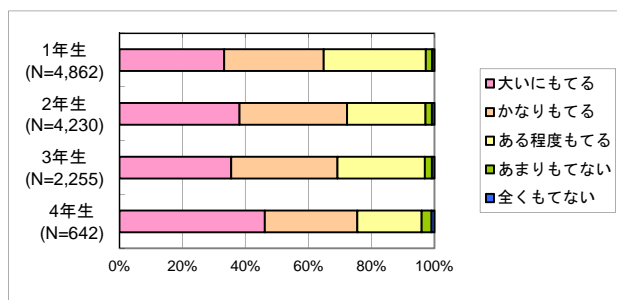
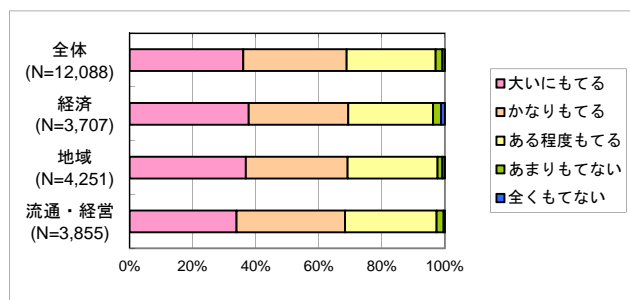
	全体 (N=12,092)	経済 (N=3,715)	地域 (N=4,250)	流通・経営 (N=3,854)	1年生 (N=4,865)	2年生 (N=4,232)	3年生 (N=2,254)	4年生 (N=642)	ゼミ (N=1,210)	語学 (N=2,100)	大講義 (N=6,451)	その他 (N=2,331)
非常に適切に対応している	34.4	35.8	35.0	33.0	31.4	36.7	34.0	44.4	49.3	44.8	27.1	37.8
かなり対応している	34.1	33.7	33.2	35.3	32.8	35.2	35.7	32.1	34.2	35.0	33.9	34.1
ある程度対応している	28.5	27.1	29.3	29.0	32.7	25.2	27.8	20.6	15.1	18.7	35.3	25.5
やや対応している	2.2	2.5	1.8	2.1	2.5	1.9	1.9	2.2	1.0	1.1	2.7	2.2
全く対応していない	0.8	0.9	0.7	0.6	0.6	1.0	0.6	0.8	0.4	0.4	1.1	0.4



15. 公平に学生に対応し、信頼感がもてますか。

単位：%

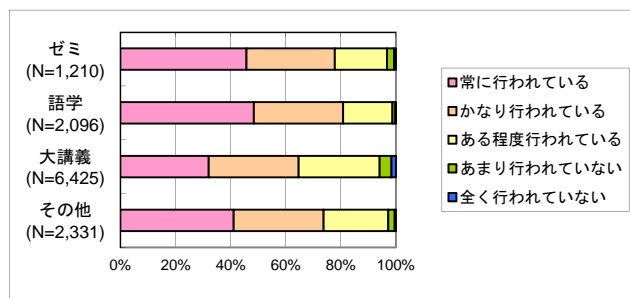
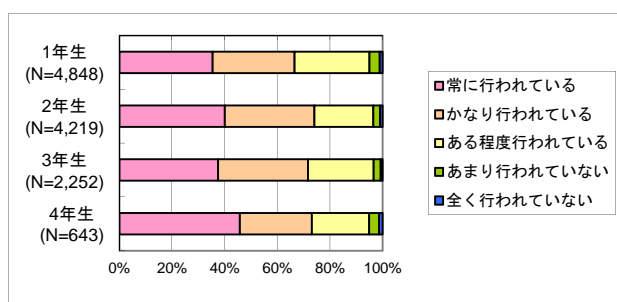
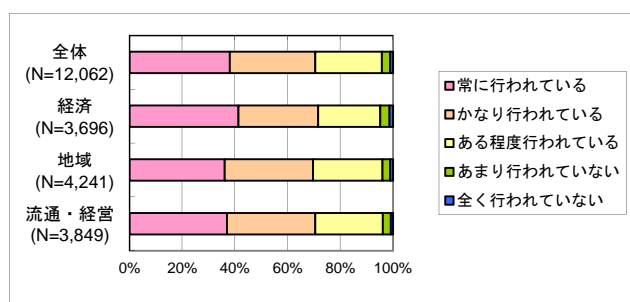
	全体 (N=12,088)	経済 (N=3,707)	地域 (N=4,251)	流通・経営 (N=3,855)	1年生 (N=4,862)	2年生 (N=4,230)	3年生 (N=2,255)	4年生 (N=642)	ゼミ (N=1,209)	語学 (N=2,098)	大講義 (N=6,448)	その他 (N=2,333)
大いにもてる	36.1	37.8	36.9	33.9	33.3	38.2	35.4	46.1	50.1	47.2	28.7	39.4
かなりもてる	32.8	31.6	32.3	34.4	31.6	34.1	33.8	29.4	30.3	31.7	33.5	33.0
ある程度もてる	28.2	26.9	28.5	29.0	32.4	24.8	27.7	20.4	17.2	19.5	34.2	25.2
あまりもてない	2.2	2.6	1.6	2.2	2.0	2.1	2.3	3.1	2.0	1.3	2.6	1.9
全くもてない	0.8	1.2	0.7	0.4	0.7	0.8	0.8	0.9	0.4	0.3	1.1	0.5



16. 授業は決められた時間通りに行われていますか。

単位：%

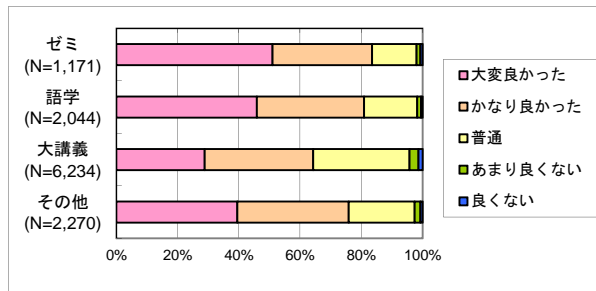
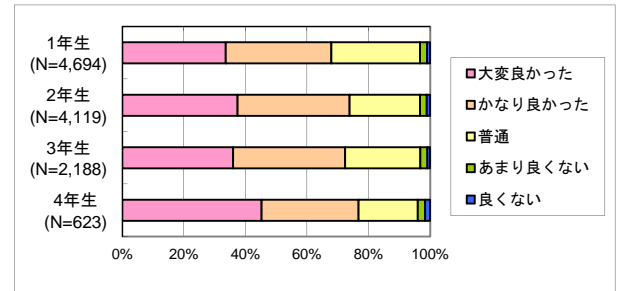
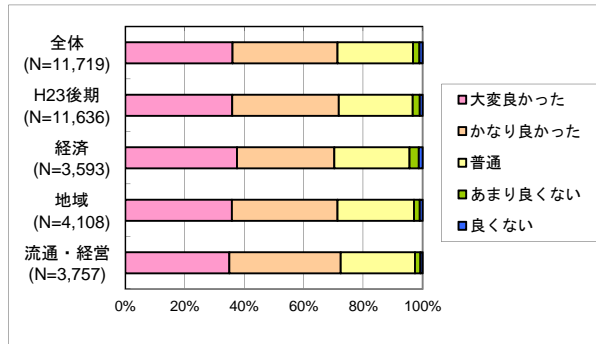
	全体 (N=12,062)	経済 (N=3,696)	地域 (N=4,241)	流通・経営 (N=3,849)	1年生 (N=4,848)	2年生 (N=4,219)	3年生 (N=2,252)	4年生 (N=643)	ゼミ (N=1,210)	語学 (N=2,096)	大講義 (N=6,425)	その他 (N=2,331)
常に行われている	38.0	41.4	36.1	37.0	35.4	40.1	37.5	45.7	45.7	48.4	32.0	41.1
かなり行われている	32.5	30.2	33.5	33.5	31.2	34.0	34.2	27.4	32.1	32.3	32.6	32.6
ある程度行われている	25.2	23.6	26.3	25.6	28.4	22.3	24.9	21.8	18.9	17.9	29.4	23.4
あまり行われていない	3.2	3.6	3.0	3.0	3.9	2.6	2.7	3.7	2.5	1.0	4.3	2.4
全く行われていない	1.1	1.3	1.1	0.8	1.2	1.0	0.8	1.4	0.7	0.3	1.6	0.5



17. 総合的に見て、この授業は良い講義でしたか。

単位：%

	全体 (N=11,719)	H23後期 (N=11,636)	経済 (N=3,593)	地域 (N=4,108)	流通・経営 (N=3,757)	1年生 (N=4,694)	2年生 (N=4,119)	3年生 (N=2,188)	4年生 (N=623)	ゼミ (N=1,171)	語学 (N=2,044)	大講義 (N=6,234)	その他 (N=2,270)
大変良かった	36.1	35.9	37.6	35.8	35.0	33.6	37.5	36.0	45.3	51.0	45.9	28.8	39.4
かなり良かった	35.3	35.9	32.7	35.5	37.5	34.3	36.4	36.4	31.5	32.5	34.9	35.5	36.4
普通	25.4	24.8	25.3	25.8	24.9	28.9	22.9	24.4	19.3	14.6	17.4	31.5	21.5
あまり良くない	2.3	2.4	3.1	1.9	1.8	2.3	2.2	2.3	2.4	1.2	1.2	2.9	1.9
良くない	1.0	1.0	1.3	0.9	0.8	1.0	1.1	0.9	1.6	0.8	0.6	1.3	0.8



平成 24 年度後期 授業評価アンケート集計

長崎県立大学シーボルト校

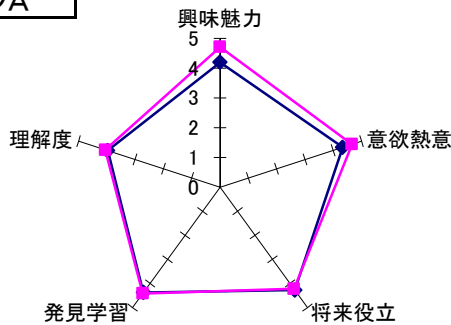
集計区分	全体
------	----

履修登録者数	6,898人	有効回答者数	4,494人
回答者数	4,519人	無効回答者数	25人

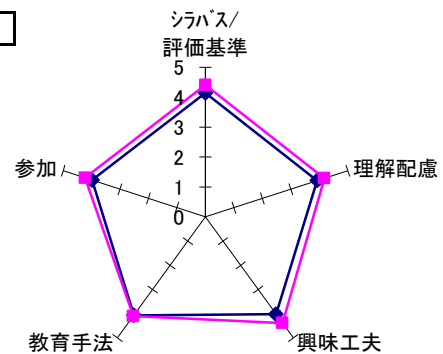
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答	
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)								
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答			
グラフA	興味魅力	この授業は内容が興味深く、魅力的である。	1,791人 39.9%	1,951人 43.4%	593人 13.2%	134人 3.0%	23人 0.5%	1人 0.0%	4.2	4.7
	意欲熱意	この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。	2,217人 49.3%	1,680人 37.4%	487人 10.8%	94人 2.1%	15人 0.3%	1人 0.0%	4.3	4.7
	将来役立	この授業は今後役立つと思う。	2,100人 46.7%	1,671人 37.2%	595人 13.2%	112人 2.5%	15人 0.3%	1人 0.0%	4.3	4.2
	発見学習	この授業では新しいことを学べている。	2,351人 52.3%	1,607人 35.8%	438人 9.7%	84人 1.9%	13人 0.3%	1人 0.0%	4.4	4.4
	理解度	自分はこの授業の目的・内容を理解できている。	1,282人 28.5%	2,050人 45.6%	936人 20.8%	196人 4.4%	29人 0.6%	1人 0.0%	4.0	4.1
グラフB	シラバス/ 評価基準	この授業はシラバスに示された内容を満たし、かつ、評価基準も明確である。	1,673人 37.2%	1,927人 42.9%	772人 17.2%	102人 2.3%	18人 0.4%	2人 0.0%	4.1	4.4
	理解配慮	教員は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	1,468人 32.7%	1,648人 36.7%	1,019人 22.7%	307人 6.8%	50人 1.1%	2人 0.0%	3.9	4.2
	興味工夫	教員は学生に興味がわくように工夫した進め方をしている。	1,679人 37.4%	1,604人 35.7%	867人 19.3%	286人 6.4%	56人 1.2%	2人 0.0%	4.0	4.4
	教育手法	教員の板書・話し方・教材等の利用は適切である。	1,710人 38.1%	1,687人 37.5%	808人 18.0%	241人 5.4%	46人 1.0%	2人 0.0%	4.1	4.1
	参加	教員は学生が授業に積極的に参加できるよう配慮している。	1,590人 35.4%	1,606人 35.7%	952人 21.2%	290人 6.5%	53人 1.2%	3人 0.1%	4.0	4.2

(加重平均得点)

グラフA



グラフB



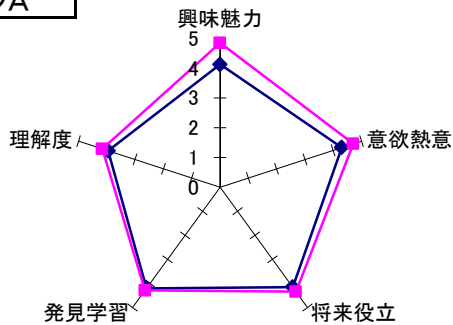
集計区分	学部 全学教育科目
------	-----------

履修登録者数	2,044人	有効回答者数	1,391人
回答者数	1,396人	無効回答者数	5人

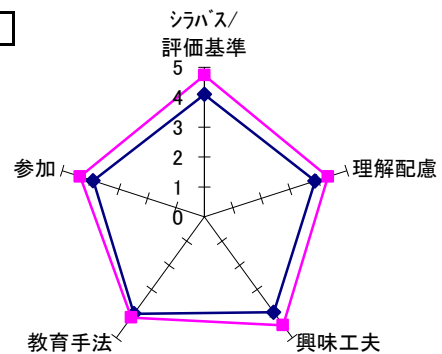
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答	
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)								
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答			
グラフA	興味魅力	この授業は内容が興味深く、魅力的である。	518人 37.2%	606人 43.6%	195人 14.0%	59人 4.2%	11人 0.8%	1人 0.1%	4.1	4.8
	意欲熱意	この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。	674人 48.5%	504人 36.2%	174人 12.5%	33人 2.4%	5人 0.4%	1人 0.1%	4.3	4.7
	将来役立	この授業は今後役立つと思う。	555人 39.9%	556人 40.0%	225人 16.2%	46人 3.3%	8人 0.6%	1人 0.1%	4.2	4.3
	発見学習	この授業では新しいことを学べている。	608人 43.7%	534人 38.4%	187人 13.4%	52人 3.7%	9人 0.6%	1人 0.1%	4.2	4.3
	理解度	自分はこの授業の目的・内容を理解できている。	390人 28.0%	631人 45.4%	296人 21.3%	57人 4.1%	16人 1.2%	1人 0.1%	4.0	4.2
グラフB	シラバス/ 評価基準	この授業はシラバスに示された内容を満たし、かつ、評価基準も明確である。	492人 35.4%	590人 42.4%	265人 19.1%	34人 2.4%	9人 0.6%	1人 0.1%	4.1	4.7
	理解配慮	教員は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	461人 33.1%	472人 33.9%	317人 22.8%	118人 8.5%	22人 1.6%	1人 0.1%	3.9	4.3
	興味工夫	教員は学生に興味がわくように工夫した進め方をしている。	501人 36.0%	455人 32.7%	307人 22.1%	105人 7.5%	22人 1.6%	1人 0.1%	3.9	4.5
	教育手法	教員の板書・話し方・教材等の利用は適切である。	512人 36.8%	498人 35.8%	275人 19.8%	80人 5.8%	25人 1.8%	1人 0.1%	4.0	4.2
	参加	教員は学生が授業に積極的に参加できるよう配慮している。	485人 34.9%	454人 32.6%	313人 22.5%	113人 8.1%	24人 1.7%	2人 0.1%	3.9	4.4

(加重平均得点)

グラフA



グラフB



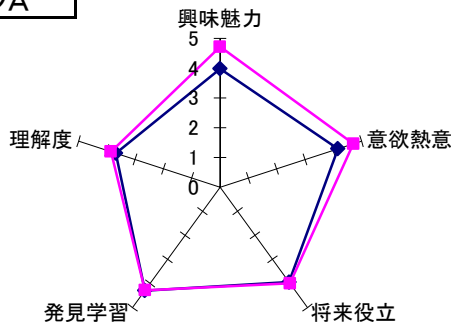
集計区分	学部 専門科目(国際情報学部共通科目)
------	---------------------

履修登録者数	552人	有効回答者数	357人
回答者数	358人	無効回答者数	1人

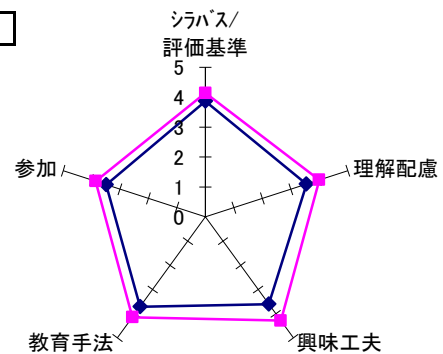
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力 この授業は内容が興味深く、魅力的である。	92人 25.8%	184人 51.5%	67人 18.8%	10人 2.8%	4人 1.1%	0人 0.0%	4.0	4.7
	意欲熱意 この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。	129人 36.1%	162人 45.4%	61人 17.1%	5人 1.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.2	4.7
	将来役立 この授業は今後役立つと思う。	97人 27.2%	157人 44.0%	91人 25.5%	11人 3.1%	1人 0.3%	0人 0.0%	3.9	4.0
	発見学習 この授業では新しいことを学べている。	160人 44.8%	149人 41.7%	42人 11.8%	6人 1.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.3	4.3
	理解度 自分はこの授業の目的・内容を理解できている。	53人 14.8%	166人 46.5%	111人 31.1%	26人 7.3%	1人 0.3%	0人 0.0%	3.7	3.9
グラフB	シラバス/ 評価基準 この授業はシラバスに示された内容を満たし、かつ、評価基準も明確である。	83人 23.2%	158人 44.3%	103人 28.9%	12人 3.4%	1人 0.3%	0人 0.0%	3.9	4.1
	理解配慮 教員は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	61人 17.1%	123人 34.5%	129人 36.1%	39人 10.9%	5人 1.4%	0人 0.0%	3.5	4.0
	興味工夫 教員は学生に興味がわくように工夫した進め方をしている。	66人 18.5%	134人 37.5%	114人 31.9%	36人 10.1%	7人 2.0%	0人 0.0%	3.6	4.3
	教育手法 教員の板書・話し方・教材等の利用は適切である。	78人 21.8%	143人 40.1%	95人 26.6%	36人 10.1%	5人 1.4%	0人 0.0%	3.7	4.1
	参加 教員は学生が授業に積極的に参加できるよう配慮している。	59人 16.5%	117人 32.8%	125人 35.0%	51人 14.3%	5人 1.4%	0人 0.0%	3.5	3.9

(加重平均得点)

グラフA



グラフB

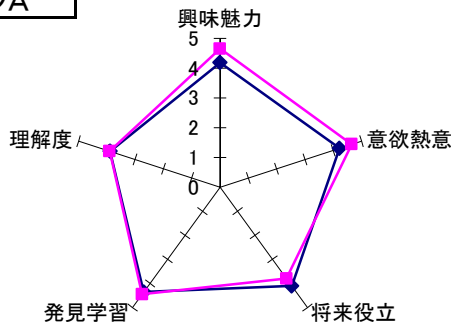


集計区分	学部 専門科目(国際交流学科)	履修登録者数	931人	有効回答者数	449人
		回答者数	454人	無効回答者数	5人

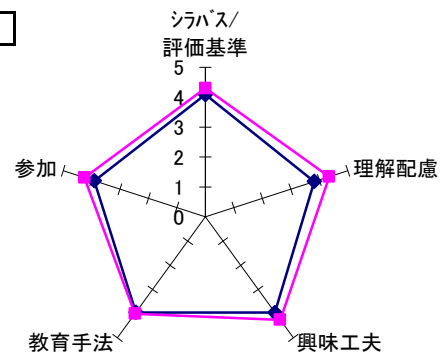
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力 この授業は内容が興味深く、魅力的である。	172人 38.3%	202人 45.0%	61人 13.6%	14人 3.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.2	4.7
	意欲熱意 この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。	189人 42.1%	188人 41.9%	56人 12.5%	14人 3.1%	2人 0.4%	0人 0.0%	4.2	4.7
	将来役立 この授業は今後役立つと思う。	147人 32.7%	218人 48.6%	71人 15.8%	10人 2.2%	3人 0.7%	0人 0.0%	4.1	3.8
	発見学習 この授業では新しいことを学んでいる。	209人 46.5%	197人 43.9%	38人 8.5%	5人 1.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.4	4.5
	理解度 自分はこの授業の目的・内容を理解できている。	110人 24.5%	206人 45.9%	106人 23.6%	25人 5.6%	2人 0.4%	0人 0.0%	3.9	3.9
グラフB	シラバス/ 評価基準 この授業はシラバスに示された内容を満たし、かつ、評価基準も明確である。	156人 34.7%	195人 43.4%	81人 18.0%	16人 3.6%	1人 0.2%	0人 0.0%	4.1	4.3
	理解配慮 教員は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	126人 28.1%	162人 36.1%	120人 26.7%	40人 8.9%	1人 0.2%	0人 0.0%	3.8	4.4
	興味工夫 教員は学生に興味がわくように工夫した進め方をしている。	149人 33.2%	168人 37.4%	98人 21.8%	31人 6.9%	3人 0.7%	0人 0.0%	4.0	4.3
	教育手法 教員の板書・話し方・教材等の利用は適切である。	144人 32.1%	176人 39.2%	93人 20.7%	34人 7.6%	2人 0.4%	0人 0.0%	3.9	4.0
	参加 教員は学生が授業に積極的に参加できるよう配慮している。	136人 30.3%	176人 39.2%	100人 22.3%	31人 6.9%	6人 1.3%	0人 0.0%	3.9	4.3

(加重平均得点)

グラフA



グラフB

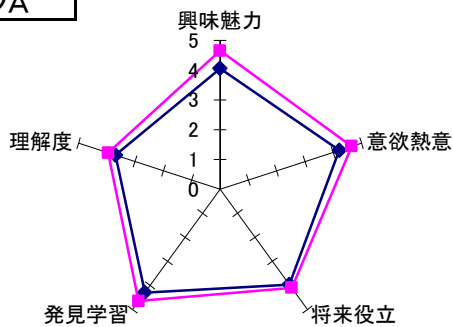


集計区分	学部 専門科目(情報メディア学科)	履修登録者数	927人	有効回答者数	573人
		回答者数	576人	無効回答者数	3人

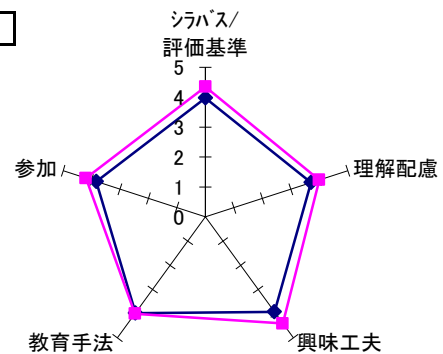
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力 この授業は内容が興味深く、魅力的である。	181人 31.6%	270人 47.1%	99人 17.3%	17人 3.0%	6人 1.0%	0人 0.0%	4.1	4.7
	意欲熱意 この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。	221人 38.6%	269人 46.9%	73人 12.7%	7人 1.2%	3人 0.5%	0人 0.0%	4.2	4.7
	将来役立 この授業は今後役立つと思う。	159人 27.7%	268人 46.8%	115人 20.1%	28人 4.9%	3人 0.5%	0人 0.0%	4.0	4.1
	発見学習 この授業では新しいことを学べている。	250人 43.6%	253人 44.2%	64人 11.2%	4人 0.7%	2人 0.3%	0人 0.0%	4.3	4.7
	理解度 自分はこの授業の目的・内容を理解できている。	102人 17.8%	249人 43.5%	173人 30.2%	42人 7.3%	7人 1.2%	0人 0.0%	3.7	4.0
グラフB	シラバス/ 評価基準 この授業はシラバスに示された内容を満たし、かつ、評価基準も明確である。	158人 27.6%	261人 45.5%	139人 24.3%	13人 2.3%	2人 0.3%	0人 0.0%	4.0	4.4
	理解配慮 教員は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	122人 21.3%	229人 40.0%	170人 29.7%	41人 7.2%	11人 1.9%	0人 0.0%	3.7	4.0
	興味工夫 教員は学生に興味がわくように工夫した進め方をしている。	172人 30.0%	245人 42.8%	106人 18.5%	39人 6.8%	11人 1.9%	0人 0.0%	3.9	4.4
	教育手法 教員の板書・話し方・教材等の利用は適切である。	176人 30.7%	246人 42.9%	115人 20.1%	31人 5.4%	5人 0.9%	0人 0.0%	4.0	4.0
	参加 教員は学生が授業に積極的に参加できるよう配慮している。	141人 24.6%	251人 43.8%	135人 23.6%	36人 6.3%	10人 1.7%	0人 0.0%	3.8	4.2

(加重平均得点)

グラフA



グラフB

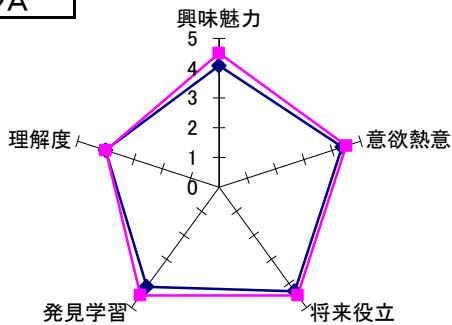


集計区分	学部 専門科目(看護栄養学部共通科目)	履修登録者数	188人	有効回答者数	139人
		回答者数	140人	無効回答者数	1人

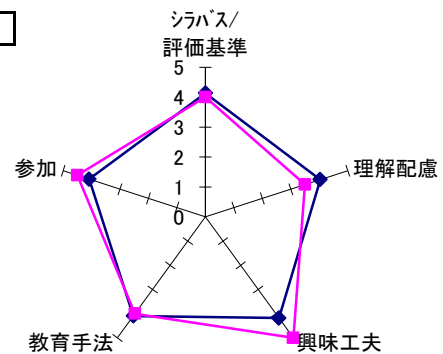
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答	
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)								
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答			
グラフA	興味魅力	この授業は内容が興味深く、魅力的である。	40人 28.8%	75人 54.0%	20人 14.4%	3人 2.2%	1人 0.7%	0人 0.0%	4.1	4.5
	意欲熱意	この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。	75人 54.0%	46人 33.1%	11人 7.9%	6人 4.3%	1人 0.7%	0人 0.0%	4.4	4.5
	将来役立	この授業は今後役立つと思う。	62人 44.6%	62人 44.6%	13人 9.4%	2人 1.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.3	4.5
	発見学習	この授業では新しいことを学べている。	63人 45.3%	43人 30.9%	23人 16.5%	9人 6.5%	1人 0.7%	0人 0.0%	4.1	4.5
	理解度	自分はこの授業の目的・内容を理解できている。	35人 25.2%	76人 54.7%	24人 17.3%	2人 1.4%	2人 1.4%	0人 0.0%	4.0	4.0
グラフB	シラバス/ 評価基準	この授業はシラバスに示された内容を満たし、かつ、評価基準も明確である。	48人 34.5%	67人 48.2%	20人 14.4%	3人 2.2%	1人 0.7%	0人 0.0%	4.1	4.0
	理解配慮	教員は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	48人 34.5%	58人 41.7%	25人 18.0%	6人 4.3%	2人 1.4%	0人 0.0%	4.0	3.5
	興味工夫	教員は学生に興味がわくように工夫した進め方をしている。	66人 47.5%	45人 32.4%	18人 12.9%	7人 5.0%	3人 2.2%	0人 0.0%	4.2	5.0
	教育手法	教員の板書・話し方・教材等の利用は適切である。	51人 36.7%	62人 44.6%	17人 12.2%	6人 4.3%	3人 2.2%	0人 0.0%	4.1	4.0
	参加	教員は学生が授業に積極的に参加できるよう配慮している。	54人 38.8%	53人 38.1%	23人 16.5%	8人 5.8%	1人 0.7%	0人 0.0%	4.1	4.5

(加重平均得点)

グラフA



グラフB

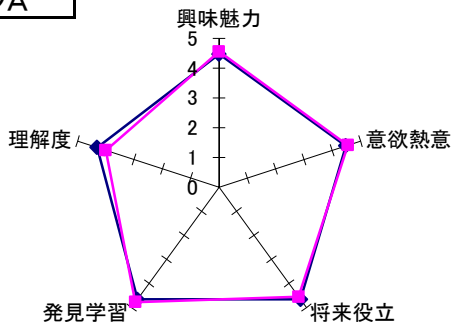


集計区分	学部 専門科目(看護学科)	履修登録者数	1,249人	有効回答者数	858人
		回答者数	863人	無効回答者数	5人

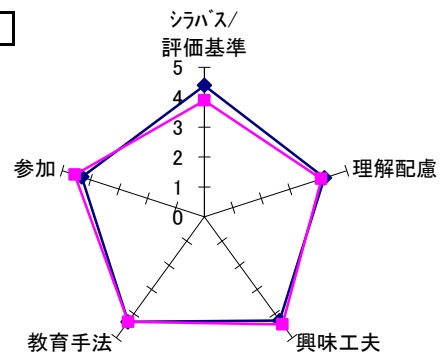
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力 この授業は内容が興味深く、魅力的である。	491人 57.2%	293人 34.1%	60人 7.0%	13人 1.5%	1人 0.1%	0人 0.0%	4.5	4.6
	意欲熱意 この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。	520人 60.6%	258人 30.1%	58人 6.8%	19人 2.2%	3人 0.3%	0人 0.0%	4.5	4.6
	将来役立 この授業は今後役立つと思う。	611人 71.2%	209人 24.4%	35人 4.1%	3人 0.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.7	4.6
	発見学習 この授業では新しいことを学べている。	610人 71.1%	211人 24.6%	33人 3.8%	3人 0.3%	1人 0.1%	0人 0.0%	4.7	4.8
	理解度 自分はこの授業の目的・内容を理解できている。	375人 43.7%	385人 44.9%	87人 10.1%	10人 1.2%	1人 0.1%	0人 0.0%	4.3	4.0
グラフB	シラバス/ 評価基準 この授業はシラバスに示された内容を満たし、かつ、評価基準も明確である。	438人 51.0%	336人 39.2%	66人 7.7%	13人 1.5%	4人 0.5%	1人 0.1%	4.4	3.9
	理解配慮 教員は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	396人 46.2%	301人 35.1%	120人 14.0%	33人 3.8%	7人 0.8%	1人 0.1%	4.2	4.1
	興味工夫 教員は学生に興味がわくように工夫した進め方をしている。	430人 50.1%	285人 33.2%	102人 11.9%	32人 3.7%	8人 0.9%	1人 0.1%	4.3	4.4
	教育手法 教員の板書・話し方・教材等の利用は適切である。	453人 52.8%	276人 32.2%	98人 11.4%	25人 2.9%	5人 0.6%	1人 0.1%	4.3	4.3
	参加 教員は学生が授業に積極的に参加できるよう配慮している。	445人 51.9%	263人 30.7%	122人 14.2%	21人 2.4%	6人 0.7%	1人 0.1%	4.3	4.6

(加重平均得点)

グラフA



グラフB

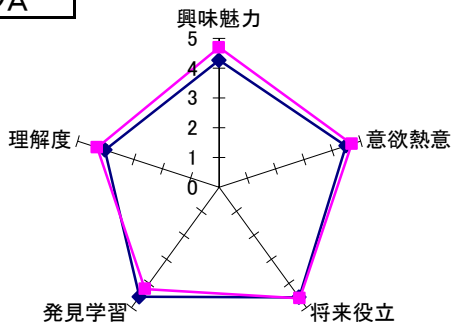


集計区分	学部 専門科目(栄養健康学科)	履修登録者数	885人	有効回答者数	677人
		回答者数	682人	無効回答者数	5人

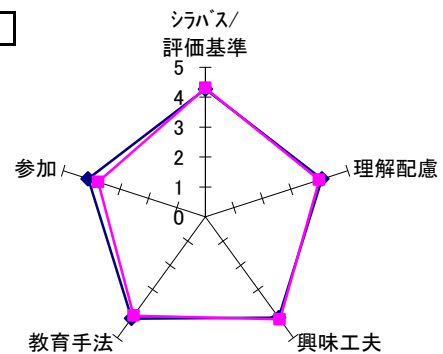
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力 この授業は内容が興味深く、魅力的である。	287人 42.4%	298人 44.0%	76人 11.2%	16人 2.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.3	4.7
	意欲熱意 この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。	395人 58.3%	225人 33.2%	48人 7.1%	8人 1.2%	1人 0.1%	0人 0.0%	4.5	4.7
	将来役立 この授業は今後役立つと思う。	447人 66.0%	184人 27.2%	37人 5.5%	9人 1.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.6	4.6
	発見学習 この授業では新しいことを学べている。	430人 63.5%	198人 29.2%	45人 6.6%	4人 0.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.6	4.2
	理解度 自分はこの授業の目的・内容を理解できている。	206人 30.4%	315人 46.5%	127人 18.8%	29人 4.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.0	4.3
グラフB	シラバス/ 評価基準 この授業はシラバスに示された内容を満たし、かつ、評価基準も明確である。	285人 42.1%	296人 43.7%	88人 13.0%	8人 1.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.3	4.3
	理解配慮 教員は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	241人 35.6%	286人 42.2%	125人 18.5%	25人 3.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.1	4.0
	興味工夫 教員は学生に興味がわくように工夫した進め方をしている。	287人 42.4%	250人 36.9%	107人 15.8%	32人 4.7%	1人 0.1%	0人 0.0%	4.2	4.2
	教育手法 教員の板書・話し方・教材等の利用は適切である。	285人 42.1%	268人 39.6%	95人 14.0%	29人 4.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.2	4.1
	参加 教員は学生が授業に積極的に参加できるよう配慮している。	256人 37.8%	273人 40.3%	122人 18.0%	26人 3.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.1	3.8

(加重平均得点)

グラフA



グラフB



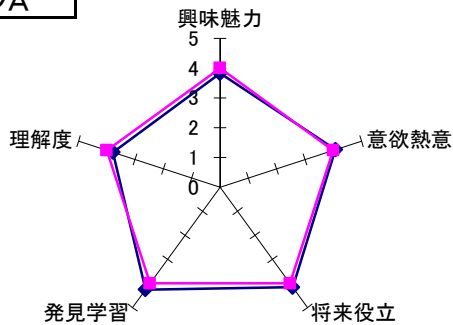
集計区分	学部 教職科目
------	---------

履修登録者数	122人	有効回答者数	50人
回答者数	50人	無効回答者数	0人

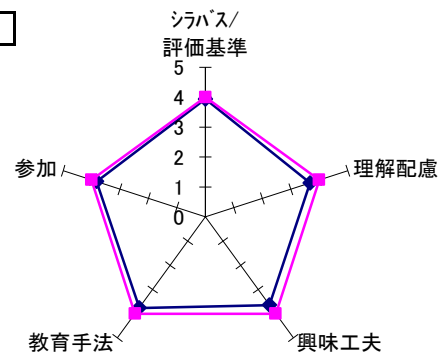
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答	
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)								
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答			
グラフA	興味魅力	この授業は内容が興味深く、魅力的である。	10人 20.0%	23人 46.0%	15人 30.0%	2人 4.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3.8	4.0
	意欲熱意	この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。	14人 28.0%	28人 56.0%	6人 12.0%	2人 4.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.1	4.0
	将来役立	この授業は今後役立つと思う。	22人 44.0%	17人 34.0%	8人 16.0%	3人 6.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.2	4.0
	発見学習	この授業では新しいことを学べている。	21人 42.0%	22人 44.0%	6人 12.0%	1人 2.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.3	4.0
	理解度	自分はこの授業の目的・内容を理解できている。	11人 22.0%	22人 44.0%	12人 24.0%	5人 10.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3.8	4.0
グラフB	シラバス/ 評価基準	この授業はシラバスに示された内容を満たし、かつ、評価基準も明確である。	13人 26.0%	24人 48.0%	10人 20.0%	3人 6.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3.9	4.0
	理解配慮	教員は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	13人 26.0%	17人 34.0%	13人 26.0%	5人 10.0%	2人 4.0%	0人 0.0%	3.7	4.0
	興味工夫	教員は学生に興味がわくように工夫した進め方をしている。	8人 16.0%	22人 44.0%	15人 30.0%	4人 8.0%	1人 2.0%	0人 0.0%	3.6	4.0
	教育手法	教員の板書・話し方・教材等の利用は適切である。	11人 22.0%	18人 36.0%	20人 40.0%	0人 0.0%	1人 2.0%	0人 0.0%	3.8	4.0
	参加	教員は学生が授業に積極的に参加できるよう配慮している。	14人 28.0%	19人 38.0%	12人 24.0%	4人 8.0%	1人 2.0%	0人 0.0%	3.8	4.0

(加重平均得点)

グラフA



グラフB

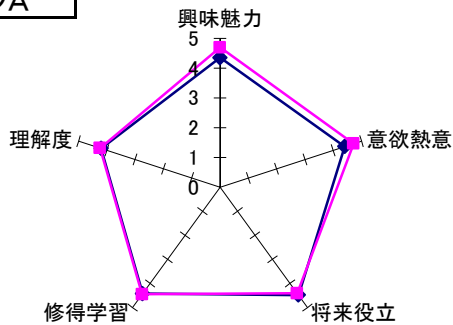


集計区分	全体	履修登録者数	2,700人	有効回答者数	1,511人
		回答者数	1,521人	無効回答者数	10人

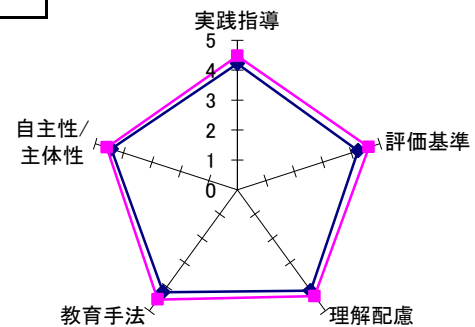
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答	
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)								
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答			
グラフA	興味魅力	この授業は目的・目標・内容が興味深く、魅力的である。	756人 50.0%	562人 37.2%	154人 10.2%	35人 2.3%	3人 0.2%	1人 0.1%	4.3	4.7
	意欲熱意	この授業を担当している教員および指導者の意欲や熱意を感じる。	841人 55.7%	488人 32.3%	143人 9.5%	35人 2.3%	3人 0.2%	1人 0.1%	4.4	4.7
	将来役立	この授業は今後役立つと思う。	909人 60.2%	450人 29.8%	131人 8.7%	17人 1.1%	3人 0.2%	1人 0.1%	4.5	4.4
	修得学習	この授業では新たな手法や技能(内容)を学んでいる。	863人 57.1%	469人 31.0%	139人 9.2%	34人 2.3%	5人 0.3%	1人 0.1%	4.4	4.5
	理解度	自分はこの授業の目的・目標・内容を理解できている。	619人 41.0%	619人 41.0%	234人 15.5%	34人 2.3%	4人 0.3%	1人 0.1%	4.2	4.2
グラフB	実践指導	この授業での実践的学習の方向づけや学習方法の説明・指導は適切である。	692人 45.8%	539人 35.7%	214人 14.2%	54人 3.6%	11人 0.7%	1人 0.1%	4.2	4.5
	評価基準	この授業の評価基準は明確である。	675人 44.7%	573人 37.9%	225人 14.9%	31人 2.1%	6人 0.4%	1人 0.1%	4.2	4.6
	理解配慮	教員および指導者は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	695人 46.0%	477人 31.6%	247人 16.3%	72人 4.8%	19人 1.3%	1人 0.1%	4.2	4.4
	教育手法	教員および指導者の説明や指導の方法は適切である。	719人 47.6%	506人 33.5%	209人 13.8%	60人 4.0%	16人 1.1%	1人 0.1%	4.2	4.5
	自主性/ 主体性	この授業に自分は積極的に参加した。	839人 55.5%	499人 33.0%	153人 10.1%	17人 1.1%	1人 0.1%	2人 0.1%	4.4	4.6

(加重平均得点)

グラフA



グラフB



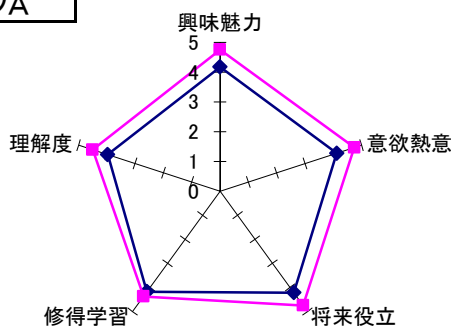
集計区分	学部 全学教育科目
------	-----------

履修登録者数	332人	有効回答者数	195人
回答者数	198人	無効回答者数	3人

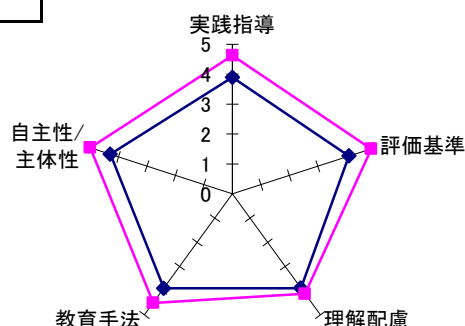
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答	
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)								
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答			
グラフA	興味魅力	この授業は目的・目標・内容が興味深く、魅力的である。	79人 40.5%	79人 40.5%	30人 15.4%	5人 2.6%	2人 1.0%	0人 0.0%	4.2	4.8
	意欲熱意	この授業を担当している教員および指導者の意欲や熱意を感じる。	77人 39.5%	76人 39.0%	32人 16.4%	9人 4.6%	1人 0.5%	0人 0.0%	4.1	4.8
	将来役立	この授業は今後役立つと思う。	92人 47.2%	66人 33.8%	28人 14.4%	6人 3.1%	3人 1.5%	0人 0.0%	4.2	4.8
	修得学習	この授業では新たな手法や技能(内容)を學べている。	92人 47.2%	62人 31.8%	28人 14.4%	10人 5.1%	3人 1.5%	0人 0.0%	4.2	4.4
	理解度	自分はこの授業の目的・目標・内容を理解できている。	61人 31.3%	76人 39.0%	50人 25.6%	7人 3.6%	1人 0.5%	0人 0.0%	4.0	4.5
グラフB	実践指導	この授業での実践的学習の方向づけや学習方法の説明・指導は適切である。	66人 33.8%	69人 35.4%	38人 19.5%	18人 9.2%	4人 2.1%	0人 0.0%	3.9	4.6
	評価基準	この授業の評価基準は明確である。	77人 39.5%	69人 35.4%	42人 21.5%	5人 2.6%	2人 1.0%	0人 0.0%	4.1	4.9
	理解配慮	教員および指導者は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	72人 36.9%	63人 32.3%	33人 16.9%	21人 10.8%	6人 3.1%	0人 0.0%	3.9	4.1
	教育手法	教員および指導者の説明や指導の方法は適切である。	70人 35.9%	62人 31.8%	44人 22.6%	12人 6.2%	7人 3.6%	0人 0.0%	3.9	4.5
	自主性/ 主体性	この授業に自分は積極的に参加した。	93人 47.7%	68人 34.9%	31人 15.9%	3人 1.5%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.3	5.0

(加重平均得点)

グラフA



グラフB

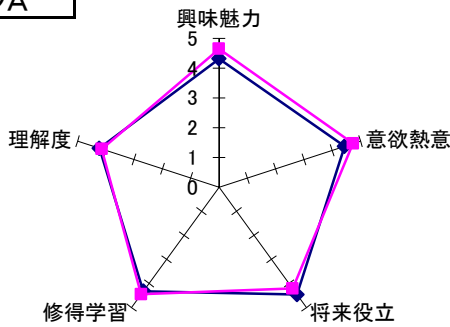


集計区分	学部 専門科目(国際交流学科)	履修登録者数	745人	有効回答者数	447人
		回答者数	448人	無効回答者数	1人

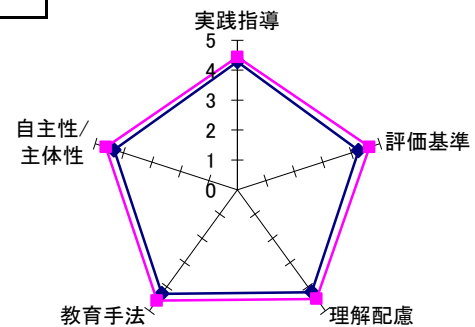
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力 この授業は目的・目標・内容が興味深く、魅力的である。	215人 48.1%	173人 38.7%	43人 9.6%	16人 3.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.3	4.6
	意欲熱意 この授業を担当している教員および指導者の意欲や熱意を感じる。	257人 57.5%	139人 31.1%	39人 8.7%	12人 2.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.4	4.7
	将来役立 この授業は今後役立つと思う。	263人 58.8%	134人 30.0%	44人 9.8%	6人 1.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.5	4.2
	修得学習 この授業では新たな手法や技能(内容)を学んでいる。	224人 50.1%	155人 34.7%	57人 12.8%	10人 2.2%	1人 0.2%	0人 0.0%	4.3	4.5
	理解度 自分はこの授業の目的・目標・内容を理解できている。	184人 41.2%	194人 43.4%	57人 12.8%	10人 2.2%	2人 0.4%	0人 0.0%	4.2	4.1
グラフB	実践指導 この授業での実践的学習の方向づけや学習方法の説明・指導は適切である。	220人 49.2%	153人 34.2%	59人 13.2%	12人 2.7%	3人 0.7%	0人 0.0%	4.3	4.4
	評価基準 この授業の評価基準は明確である。	221人 49.4%	139人 31.1%	72人 16.1%	12人 2.7%	3人 0.7%	0人 0.0%	4.3	4.6
	理解配慮 教員および指導者は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	233人 52.1%	114人 25.5%	70人 15.7%	26人 5.8%	4人 0.9%	0人 0.0%	4.2	4.5
	教育手法 教員および指導者の説明や指導の方法は適切である。	233人 52.1%	134人 30.0%	59人 13.2%	20人 4.5%	1人 0.2%	0人 0.0%	4.3	4.6
	自主性/ 主体性 この授業に自分は積極的に参加した。	221人 49.4%	164人 36.7%	54人 12.1%	7人 1.6%	1人 0.2%	0人 0.0%	4.3	4.6

(加重平均得点)

グラフA



グラフB

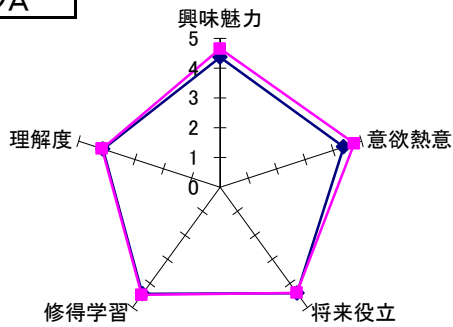


集計区分	学部 専門科目(情報メディア学科)	履修登録者数	377人	有効回答者数	230人
		回答者数	232人	無効回答者数	2人

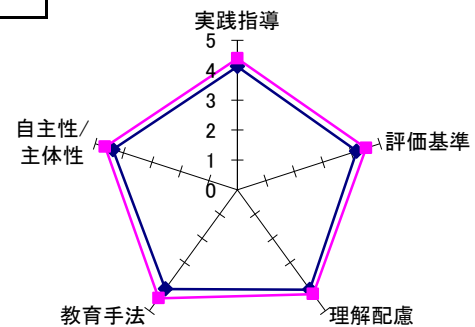
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力	106人 46.1%	101人 43.9%	21人 9.1%	1人 0.4%	0人 0.0%	1人 0.4%	4.4	4.7
	意欲熱意	113人 49.1%	91人 39.6%	22人 9.6%	3人 1.3%	0人 0.0%	1人 0.4%	4.4	4.7
	将来役立	118人 51.3%	88人 38.3%	21人 9.1%	2人 0.9%	0人 0.0%	1人 0.4%	4.4	4.4
	修得学習	126人 54.8%	80人 34.8%	19人 8.3%	4人 1.7%	0人 0.0%	1人 0.4%	4.4	4.5
	理解度	82人 35.7%	102人 44.3%	39人 17.0%	6人 2.6%	0人 0.0%	1人 0.4%	4.1	4.2
グラフB	実践指導	84人 36.5%	99人 43.0%	37人 16.1%	9人 3.9%	0人 0.0%	1人 0.4%	4.1	4.4
	評価基準	88人 38.3%	100人 43.5%	38人 16.5%	3人 1.3%	0人 0.0%	1人 0.4%	4.2	4.5
	理解配慮	91人 39.6%	84人 36.5%	46人 20.0%	6人 2.6%	2人 0.9%	1人 0.4%	4.1	4.3
	教育手法	81人 35.2%	101人 43.9%	36人 15.7%	9人 3.9%	2人 0.9%	1人 0.4%	4.1	4.5
	自主性/ 主体性	112人 48.7%	90人 39.1%	27人 11.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.4%	4.4	4.7

(加重平均得点)

グラフA



グラフB



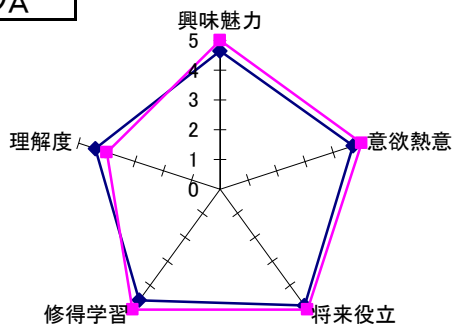
集計区分	学部 専門科目(看護栄養学部共通科目)
------	---------------------

履修登録者数	142人	有効回答者数	97人
回答者数	97人	無効回答者数	0人

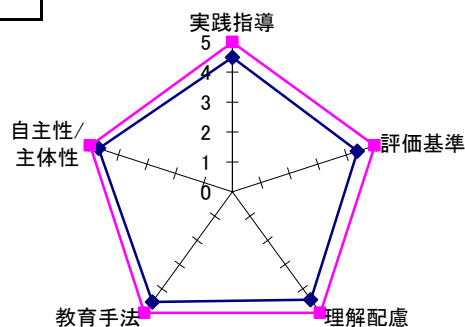
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力 この授業は目的・目標・内容が興味深く、魅力的である。	65人 67.0%	29人 29.9%	3人 3.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.6	5.0
	意欲熱意 この授業を担当している教員および指導者の意欲や熱意を感じる。	68人 70.1%	29人 29.9%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.7	5.0
	将来役立 この授業は今後役立つと思う。	82人 84.5%	14人 14.4%	1人 1.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.8	5.0
	修得学習 この授業では新たな手法や技能(内容)を学んでいる。	63人 64.9%	31人 32.0%	3人 3.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.6	5.0
	理解度 自分はこの授業の目的・目標・内容を理解できている。	44人 45.4%	48人 49.5%	5人 5.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.4	4.0
グラフB	実践指導 この授業での実践的学習の方向づけや学習方法の説明・指導は適切である。	52人 53.6%	41人 42.3%	4人 4.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.5	5.0
	評価基準 この授業の評価基準は明確である。	45人 46.4%	45人 46.4%	7人 7.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.4	5.0
	理解配慮 教員および指導者は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	51人 52.6%	39人 40.2%	7人 7.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.5	5.0
	教育手法 教員および指導者の説明や指導の方法は適切である。	58人 59.8%	34人 35.1%	5人 5.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.5	5.0
	自主性/ 主体性 この授業に自分は積極的に参加した。	70人 72.2%	25人 25.8%	2人 2.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.7	5.0

(加重平均得点)

グラフA



グラフB

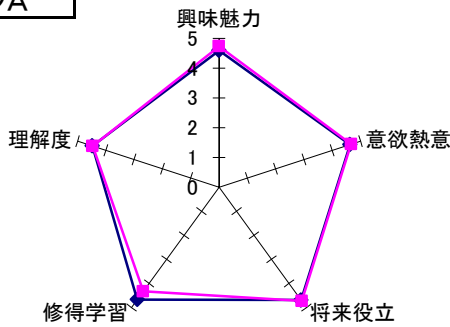


集計区分	学部 専門科目(看護学科)	履修登録者数	645人	有効回答者数	253人
		回答者数	254人	無効回答者数	1人

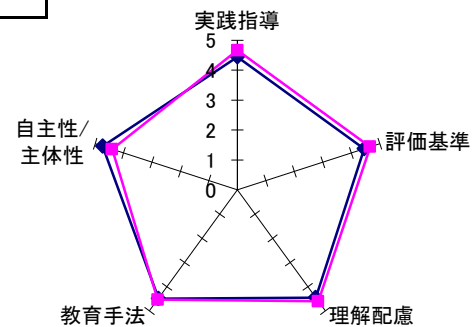
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力 この授業は目的・目標・内容が興味深く、魅力的である。	164人 64.8%	76人 30.0%	11人 4.3%	2人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.6	4.7
	意欲熱意 この授業を担当している教員および指導者の意欲や熱意を感じる。	178人 70.4%	59人 23.3%	14人 5.5%	1人 0.4%	1人 0.4%	0人 0.0%	4.6	4.7
	将来役立 この授業は今後役立つと思う。	187人 73.9%	53人 20.9%	13人 5.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.7	4.7
	修得学習 この授業では新たな手法や技能(内容)を学んでいる。	183人 72.3%	58人 22.9%	10人 4.0%	2人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.7	4.3
	理解度 自分はこの授業の目的・目標・内容を理解できている。	144人 56.9%	86人 34.0%	22人 8.7%	1人 0.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.5	4.5
グラフB	実践指導 この授業での実践的学習の方向づけや学習方法の説明・指導は適切である。	149人 58.9%	75人 29.6%	23人 9.1%	5人 2.0%	1人 0.4%	0人 0.0%	4.4	4.7
	評価基準 この授業の評価基準は明確である。	135人 53.4%	101人 39.9%	15人 5.9%	2人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.5	4.7
	理解配慮 教員および指導者は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	150人 59.3%	76人 30.0%	20人 7.9%	5人 2.0%	2人 0.8%	0人 0.0%	4.5	4.6
	教育手法 教員および指導者の説明や指導の方法は適切である。	156人 61.7%	73人 28.9%	16人 6.3%	7人 2.8%	1人 0.4%	0人 0.0%	4.5	4.5
	自主性/ 主体性 この授業に自分は積極的に参加した。	192人 75.9%	55人 21.7%	6人 2.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.7	4.4

(加重平均得点)

グラフA



グラフB



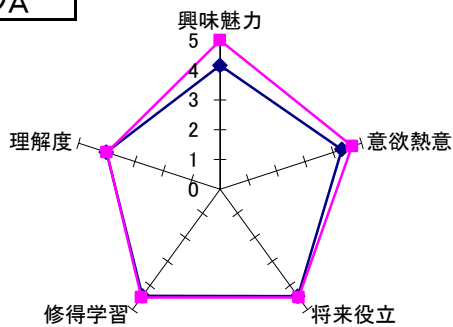
集計区分	学部 専門科目(栄養健康学科)
------	-----------------

履修登録者数	410人	有効回答者数	262人
回答者数	265人	無効回答者数	3人

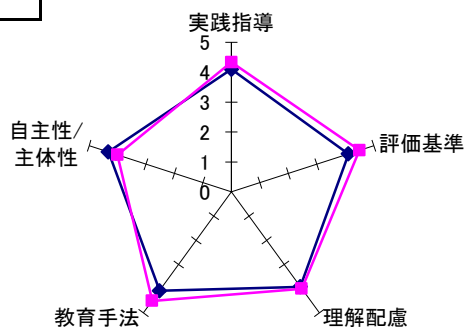
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力 この授業は目的・目標・内容が興味深く、魅力的である。	111人 42.4%	94人 35.9%	45人 17.2%	11人 4.2%	1人 0.4%	0人 0.0%	4.2	5.0
	意欲熱意 この授業を担当している教員および指導者の意欲や熱意を感じる。	136人 51.9%	82人 31.3%	34人 13.0%	9人 3.4%	1人 0.4%	0人 0.0%	4.3	4.7
	将来役立 この授業は今後役立つと思う。	148人 56.5%	88人 33.6%	23人 8.8%	3人 1.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.5	4.5
	修得学習 この授業では新たな手法や技能(内容)を學べている。	156人 59.5%	75人 28.6%	22人 8.4%	8人 3.1%	1人 0.4%	0人 0.0%	4.4	4.5
	理解度 自分はこの授業の目的・目標・内容を理解できている。	87人 33.2%	104人 39.7%	60人 22.9%	10人 3.8%	1人 0.4%	0人 0.0%	4.0	4.0
グラフB	実践指導 この授業での実践的学習の方向づけや学習方法の説明・指導は適切である。	105人 40.1%	92人 35.1%	53人 20.2%	9人 3.4%	3人 1.1%	0人 0.0%	4.1	4.3
	評価基準 この授業の評価基準は明確である。	97人 37.0%	106人 40.5%	50人 19.1%	9人 3.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.1	4.5
	理解配慮 教員および指導者は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	88人 33.6%	88人 33.6%	68人 26.0%	13人 5.0%	5人 1.9%	0人 0.0%	3.9	4.0
	教育手法 教員および指導者の説明や指導の方法は適切である。	107人 40.8%	91人 34.7%	48人 18.3%	11人 4.2%	5人 1.9%	0人 0.0%	4.1	4.5
	自主性/ 主体性 この授業に自分は積極的に参加した。	132人 50.4%	89人 34.0%	33人 12.6%	7人 2.7%	0人 0.0%	1人 0.4%	4.3	4.0

(加重平均得点)

グラフA



グラフB



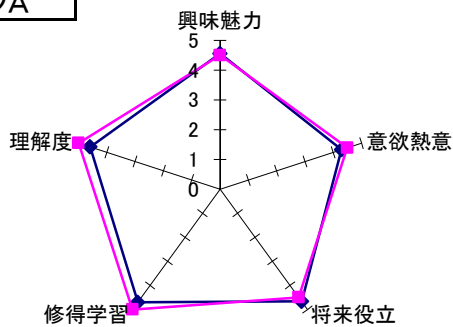
集計区分	学部 教職科目
------	---------

履修登録者数	49人	有効回答者数	27人
回答者数	27人	無効回答者数	0人

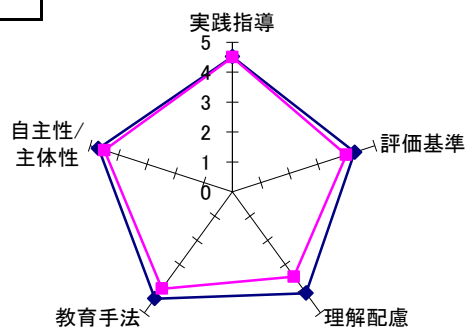
設問項目	設問文	学生回答						平均値	教員回答
		上段:回答数(人)、下段:回答率(%)							
		5 強く思う	4 やや思う	3 どちらとも いえない	2 あまり 思わない	1 全く 思わない	無効回答		
グラフA	興味魅力 この授業は目的・目標・内容が興味深く、魅力的である。	16人 59.3%	10人 37.0%	1人 3.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.6	4.5
	意欲熱意 この授業を担当している教員および指導者の意欲や熱意を感じる。	12人 44.4%	12人 44.4%	2人 7.4%	1人 3.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.3	4.5
	将来役立 この授業は今後役立つと思う。	19人 70.4%	7人 25.9%	1人 3.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.7	4.5
	修得学習 この授業では新たな手法や技能(内容)を學べている。	19人 70.4%	8人 29.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.7	5.0
	理解度 自分はこの授業の目的・目標・内容を理解できている。	17人 63.0%	9人 33.3%	1人 3.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.6	5.0
グラフB	実践指導 この授業での実践的学習の方向づけや学習方法の説明・指導は適切である。	16人 59.3%	10人 37.0%	0人 0.0%	1人 3.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.5	4.5
	評価基準 この授業の評価基準は明確である。	12人 44.4%	13人 48.1%	1人 3.7%	0人 0.0%	1人 3.7%	0人 0.0%	4.3	4.0
	理解配慮 教員および指導者は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。	10人 37.0%	13人 48.1%	3人 11.1%	1人 3.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.2	3.5
	教育手法 教員および指導者の説明や指導の方法は適切である。	14人 51.9%	11人 40.7%	1人 3.7%	1人 3.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.4	4.0
	自主性/ 主体性 この授業に自分は積極的に参加した。	19人 70.4%	8人 29.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4.7	4.5

(加重平均得点)

グラフA



グラフB



H24年度実施FD研修会一覧

全学FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
シーボルト校	8月8・9日	136名(8日), 134名(9日)	統一テーマ「学習への支援と評価」, 外部講師として高千穂大学岡田先生, 山口大学小川先生を招聘, 8日に講演会, 8・9日に分科会、平和講演が行われた。

学部FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経済学部	11月20日	19名	大分大学高等教育開発センター牧野先生を招聘、公開授業(授業相互参観)と意見交換会を行った。
国際情報学部	6月18日～6月29日 12月3日～12月7日 1月15日	延べ39名 (公開授業の参観者数)	教員相互の授業参観を実施した。公開された授業は79科目(前期39、後期40)で、1月15日に意見交換会を行った。
看護栄養学部	6月20日、7月5日 11月26日、12月19日	68名	教員相互の授業参観と意見交換会を行った。前期2回、後期2回。

学科FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経済学科	7月24日	10名	「教育懇親会について」「新入生セミナー」をテーマに検討を行った。
	12月11日	11名	「新入生セミナー欠席規程」「アクティブ・ラーニング」をテーマに検討を行った。
地域政策学科	7/11,11/7, 11/9,14,16,21,22,30	毎回5,6名程度	各ゼミごとに卒業論文発表会を行った。
	4/25,6/27, 10/24,12/19	毎回5,6名程度	学科研究会として臨床心理士、保健師をアドバイザーとしてゼミ運営に関するテーマで意見交換を行った。
	2月14日	12名	優秀卒業論文報告会を行い、優秀論文10名の発表会を行った。
	11月28日	毎回5,6名程度	フィールドワーク報告会を行った。
流通・経営学科	4/17,24,5/17,29, 6/12,7/17,8/7, 10/9,12/4	毎回12名程度	学科FD研修会としてゼミ運営等のテーマを決めて勉強会・意見交換会を行った。
	11/13,11/20,11/27 12/4,12/11	12名程度	合同新入生セミナーを開催し、教員相互の授業参観・評価を実施した。
国際交流学科	2月19日	16名	昨年度に引き続き、初年次教育についてのFDを行った。下野先生が提案者となり、23年度と24年度では基礎演習の指導形式を変更したので、その結果について考察がなされた。また、「しまプロジェクト」のより効果的な実施方法についての報告もなされた。
情報メディア学科	3月4日	19名	学科FD研修会として石井宏祐氏を招聘し「ブリーフコーチングについて」講演し、授業改善方法について意見交換会を行った。
看護学科	12月18日	13名	FD研修会と位置付けた「在宅医療、福祉コンソーシアム」キックオフシンポジウムの基調講演に参加した。
栄養健康学科	5月29日	14名	学科FD研修会として「学科専門科目WG」「学科専門基礎科目分野WG」に分かれ検討会を行った。
	7月2日	14名	学科FD研修会として「学科専門科目WG」「学科専門基礎科目分野WG」に分かれ検討会を行った。

大学院FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経済学研究科	6月19日	20名	「学位論文作成要領及び指導方法」をテーマにけんFD研修会を開催した。
	1月22日	20名	「学位論文作成要領及び指導方法」をテーマにけんFD研修会を開催した。
国際情報学研究科	11月2日	20名	「FDの一環としてのTA活用方策について」をテーマに立命館大学の坂田教授を招聘し研修を行った。
人間健康学研究科	7月20日	22名	「研究者の倫理とは何かー予防倫理を越えてー」金沢工業大学の札幌野順教授を招聘し研修を行った。

模擬授業(授業評価)

学部	開催月日	参加人数	模擬授業担当者	概要
経済学部	11月20日	19名	水野先生	外部FDerとして大分大学牧野先生を招聘,当日意見交換会を実施。
国際情報学部	6月18日～6月29日 12月3日～12月7日 1月15日	延べ39名 (公開授業の参加者数)	79科目/65名 (国際交流 41/34, 情報メ ディア38/31)	教員相互の授業参観を実施し,1月15日に意見交換会を行った。
看護栄養学部	6月20日、7月5日 11月26日、12月19日	68名		教員相互の授業参観と意見交換会を行った。前期2回、後期2回。

就職状況

<佐世保校>

(単位:%)

項目	経済学部			計 (①+②+③)
	経済学科 ①	地域政策学科 ②	流通・経営学科 ③	
20年度	90.2	94.6	96.2	93.8
21年度	90.5	94.5	88.4	91.1
22年度	88.2	85.7	89.7	87.9
23年度	91.8	89.0	90.5	90.4
24年度	91.7	90.3	94.6	92.2

<シーボルト校>

(単位:%)

項目	国際情報学部			看護栄養学部			合計 (①+②+③+④)
	国際交流学科 ①	情報メディア学科 ②	計 (①+②)	看護学科 ③	栄養健康学科 ④	計 (③+④)	
20年度	95.8	96.6	96.1	100.0	100.0	100.0	97.7
21年度	93.0	91.7	92.4	100.0	97.1	98.9	95.2
22年度	96.5	86.7	91.5	100.0	97.1	99.0	94.9
23年度	95.7	90.7	93.5	100.0	94.6	98.1	95.6
24年度	98.2	94.2	96.3	100.0	91.2	96.7	96.5

課外講座実施状況

<佐世保校>

(単位:人)

	講座名	受講者
20 年度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	34
	3級販売士養成講習	18
	2級販売士養成講習	9
	簿記3級講座	39
	簿記2級講座	14
	秘書技能検定2級直前対策	22
	秘書技能検定準1級	11
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	70
	計	217
21 年度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	32
	3級販売士養成講習	21
	2級販売士養成講習	8
	簿記3級講座	24
	簿記2級講座	18
	秘書技能検定2級直前対策	36
	秘書技能検定準1級	20
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	70
	計	229
22 年度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	49
	3級販売士養成講習	11
	2級販売士養成講習	12
	簿記3級講座	36
	簿記2級講座	18
	秘書技能検定2級直前対策	40
	秘書技能検定準1級	22
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	70
	計	258
23 年度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	41
	ファイナンシャル・プランニング技能検定2級直前対策講座	5
	3級販売士養成講習	23
	2級販売士養成講習	12
	簿記3級講座	36
	簿記2級講座	21
	秘書技能検定2級直前対策	50
	秘書技能検定準1級	16
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	119
計	323	
24 年度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	29
	ファイナンシャル・プランニング技能検定2級対策講座	20
	3級販売士養成講習	14
	2級販売士養成講習	17
	簿記2級講座	19
	秘書技能検定2級直前対策	65
	秘書技能検定準1級	13
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	129
計	306	

※後援会及び大学生協と連携して開講したもののみ記載。

<シーボルト校>

(単位:人)

資料No.13

	講 座 名	受講者
20 年度	英語(TOEFL)対策講座	21
	MOS(Excel)対策講座	42
	MOS(Word)対策講座	41
	公務員(教養試験)対策講座	43
	公務員(専門試験:看護師・栄養士)対策講座	12
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	9
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	36
	計	204
21 年度	英語(TOEFL)対策講座	18
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	53
	パソコンスキル(Microsoft認定Word)講座	22
	通訳案内士	43
	秘書検定講座(準1級・2級)	31
	公務員(教養試験)対策講座	13
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	5
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	18
	基本情報技術者試験対策講座	29
計	232	
22 年度	英語(TOEFL)対策講座	24
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	54
	秘書検定講座(準1級・2級)	54
	マナー検定	45
	公務員(教養試験)対策講座	22
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	3
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	5
	教員試験(教養)対策講座	17
	基本情報技術者試験対策講座	28
計	252	
23 年度	英語(TOEFL)対策講座	13
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	41
	パソコンスキル(Microsoft認定Word)講座	23
	秘書検定講座(準1級・2級)	17
	公務員(教養試験)対策講座	14
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	-
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	10
	教員試験(教養)対策講座	8
	養護教諭対策講座	5
	基本情報技術者試験対策講座(春・秋)	19
計	150	
24 年度	英語(TOEFL)対策講座	20
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	46
	パソコンスキル(Microsoft認定Word)講座	17
	秘書検定講座(2級)	12
	公務員(教養試験)対策講座	15
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	-
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	12
	教員試験(教養)対策講座	11
	養護教諭対策講座	6
	基本情報技術者試験対策講座	28
計	167	

※後援会及び大学生協と連携して開講したもののみ記載。

インターンシップの実施状況

(単位:人、社)

区分		参加者 (のべ)	うち履修登録者	うち単位修得者	受入企業
20年度	佐世保校	62	26	26	36
	シーボルト校	34	14	13	21
21年度	佐世保校	76	57	57	44
	シーボルト校	52	30	30	29
22年度	佐世保校	51	36	36	34
	シーボルト校	66	34	34	36
23年度	佐世保校	54	53	52	31
	シーボルト校	44	18	18	25
24年度	佐世保校	41	28	28	32
	シーボルト校	64	27	27	36

○主な受入企業(24年度実績)

<佐世保校>

- ・佐世保市役所
- ・十八銀行
- ・(株)佐世保玉屋
- ・佐世保市九十九島動植物園
- ・(株)月華荘

他

<シーボルト校>

- ・長崎市役所
- ・(株)長崎新聞社
- ・(株)イズミ 長崎店夢彩都
- ・(株)ルネサンス スポーツクラブルネサンス
- ・(株)テレビ長崎

他

学長裁量研究実績一覧

資料No. 15

(単位: 件、千円)

平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
53	41,033	53	39,201	49	36,702	78	74,623	61	46,399

[平成24年度の取り組み]

研究領域	研究代表者		研究課題
	所属	氏名	
重点課題研究	「離島」に関する研究	共同	国際情報 松尾 晋一 対馬宗家文書資料群の構造解明とその活用
		共同	看護栄養 吉田 恵理子 高齢化の進む離島で生活する住民の終の棲家に対する意識と健康関連行動に関する調査
		共同	看護栄養 稗圃 砂千子 離島看護の特性を活かした看護研修プログラムの開発
	「東アジア」に関する研究	共同	看護栄養 正木 基文 テロメア長と健康に関する研究—日本と韓国との比較
		個人	経済 西島 博樹 東アジア地域における長崎県産品の流通実態調査
			経済 中村 和敏 インドネシアにおける経済格差の発生要因
			経済 水野 倫理 東アジアにおける電気電子産業およびその流通に対する競争政策の分析
			経済 楊 光洙 東アジアFTA・TPPと日本の選択に関する調査研究
			国際情報 吉光 正絵 「ファン」から考える東アジアの地域間交流—情報消費社会における女性役割の変遷との関連から—
			国際情報 P.ピヤ アジアのテレビ広告におけるジェンダー役割の変容—日本・中国・タイの国際比較研究
			国際情報 小原 篤次 WTO加盟後の中国における金融システムの対外開放に関する研究
			国際情報 祁 建民 中国における高級合作社の成立から見る国家の統治能力
			国際情報 河又 貴洋 東アジア地域のイノベーションにおける産業ダイナミズム戦略の行方
			国際情報 小長谷 英代 文化戦略としての「ユネスコ無形文化遺産」—東アジアの課題—
		「長崎の地域課題」に関する研究	共同
共同	経済 石川 雄一 都市縮小の時代におけるこれからの中規模都市の都市政策について—佐世保市・長崎市と国内外他都市との比較—		
共同	経済 綱 辰幸 佐世保市における産業人材育成支援策に関する研究		
共同	看護栄養 李 節子 実践力を高める医療通訳士養成に関する基盤研究—医療通訳士養成モジュールの開発		
共同	看護栄養 古場 一哲 長崎県産の大豆および黒大豆の機能性に関する研究		
共同	看護栄養 田中 一成 緑茶三番茶葉とピワ葉を混合した発酵茶の特定保健用食品表示許可取得に向けた取り組み		
共同	看護栄養 田丸 静香 三番茶葉と摘果ミカンからなる「ミカン茶」の特性と機能性に関する研究		
共同	看護栄養 田辺 賢一 ピワの葉抽出物の機能性探索に関する研究—ピワ葉抽出物の血糖上昇抑制効果ならびに生体防御作用を中心に—		
個人	経済 奥山 忠裕 長崎県を中心とした九州ゴールデンルートの構築に関する研究		
個人	経済 畑田 和佳奈 長崎県内市町村によるNPO支援政策の規定要因に関する実証研究		
個人	国際情報 辺見 一男 ICTを用いた浜町商店街活性化のための基礎研究		
個人	国際情報 村上 雅通 長崎原爆に関する報道の功罪と水俣病報道との比較・検証		
個人	看護栄養 大塚 一徳 地域の高齢者の認知的加齢がワーキングメモリに及ぼす影響に関する基礎的研究—高齢者間のワーキングメモリにおける領域固有性の検討—		

研究領域	研究代表者		研究課題
	所属	氏名	
重点課題研究	本学の個性創出	共同	国際情報 山内 ひさ子 効果的海外語学研修プログラム開発の研究
		共同	看護栄養 四童子 好廣 非環式レチノイドによる脳由来栄養因子受容体遺伝子のエピジェネティックな発現調節
		個人	経済 山崎 祐一 英語学習と異文化理解に関する国際サービスラーニングの展開
		個人	国際情報 森田 均 高度道路交通システム構築の実践から情報社会論の新たな研究手法を獲得する試み
		個人	看護栄養 上田 成一 輸入土壌改良材に潜在する耐熱性カビの探索と分離株の耐熱性
一般課題研究	共同	経済 竹田 範義 会計のグローバル化は地場製造業をどう変えるか？	
		国際情報 C.ソムチャイ 抽出対象のレイアウトに着目したオフィス文書のメタデータの自動抽出手法に関する研究	
		看護栄養 大重 育美 乳幼児の不慮の事故予防教育システム開発を目指した父親の育児行動に関する研究	
		看護栄養 森田 茂樹 各種食品中のヨウ素測定法の確立ならびに同微量元素に関する研究	
		看護栄養 西明 眞理 食事摂取リズムの違いがラットのエネルギー代謝と腹部脂肪蓄積に及ぼす影響	
		看護栄養 中尾 八重子 地域の健康づくりのための地区組織と行政との協働	
		看護栄養 飛奈 卓郎 PGC-1 α の遺伝子多型は運動による持久力並びに糖・脂質代謝の変化に影響するか	
		看護栄養 駿河 和仁 アルコール摂取によるビタミンA吸収・代謝変動に及ぼす食品成分摂取の影響に関する研究	
		看護栄養 山口 範晃 ビタミンA摂取量の違いによる脂肪組織の各種代謝に及ぼす影響	
		看護栄養 中村 禎子 糖尿病患者在宅支援システムへ搭載する栄養素摂取状態評価システムの構築に関する研究	
		看護栄養 加藤 滋子 皮下脂肪とアディポサイトカインの関連について	
		個人	経済 長濱 幸一 19世紀末ボヘミアの二大商工会議所の経済利害と民族利害
			経済 岩清水 由美子 『チャンス』に見るフェミニストの肖像
			経済 村上 則夫 ICTを利活用した新たな地域コミュニティ形成に関する一研究
			経済 山田 千香子 多文化社会における日系移民の適応への考察—カナダ日系移民にとっての「老い」と「暮らしやすさ」、支援ボランティア組織活動を中心として
	国際情報 永野 哲也 フィンズラー幾何学の線形平行移動と曲率		
	国際情報 河野 健一 「欧州債務危機で中東欧に広がるEUへの幻滅感と右派政治勢力の伸張—ケーススタディとしてルーマニアの政治・経済変動を検証する」		
	国際情報 實原 隆志 私生活の核心領域の絶対的な保護をめぐる検討		
	国際情報 関谷 融 「教職履修カルテ」の作成及び運用		
	国際情報 福島 涼史 平和論のキリスト教的淵源—長崎の遺産へのもう一つの道		
	国際情報 荻野 晃 ポストモダン時代の軍隊と社会 —ヨーロッパ諸国の徴兵制度の比較分析—		
	看護栄養 山口 多恵 脳血管疾患患者の患者参画型目標設定モデルに関する基礎的研究—ナーシングパスへの試み—		
	看護栄養 永峯 卓哉 看護実践における気づきに影響する集団思考と個人特性、注意スタイルとの関連性の検証		
	看護栄養 藤野 裕子 子どもが誕生後1年間の育児生活における家族機能類型別の父母の相互作用のプロセスに関する質的研究		
	看護栄養 河口 朝子 認知症高齢者の喫煙状況と禁煙行動への影響要因に関する研究		
	看護栄養 山澄 直美 院内教育の研修評価システム構築に向けた測定用具開発		
	基礎調査研究	個人	経済 山本 裕 離島交通と物流の展望
			国際情報 下野 孝文 遠藤周作論: i)母像形成の軌跡、ii)トマス・アキナス、及びアウグスティヌス神学との関係
			看護栄養 新田 祥子 看護系大学における英語による専門科目授業の実施状況に関する研究—日本と韓国の現状から—

佐世保市と長崎県立大学の包括連携協定について

項目	内容
協定締結日	平成22年 4月 7日
目的	大学と佐世保市が、相互の資源を活用した連携を推進することで、県北地域における学術研究機能の向上、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	① 共同研究・受託研究に関すること ② 地域貢献の取り組みに関すること ③ 人材育成・交流に関すること ④ その他、本協定の目的を達成するために必要な事項

【事業一覧】

○平成22年度

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	石川 雄一	佐世保市の地理空間情報を活用した地域課題の調査・研究事業
地域政策学科	西村 千尋	事業所における健康づくり状況調査（入力・集計・分析事業）
経済学科	伊達木 瀧之助	地域経済動向分析
流通・経営学科	宮地 晃輔 山口 夕妃子	黒島オリーブを活用した製品開発について
栄養健康学科	田中 一成	バイオマス利活用に関する摘果みかんの機能性成分分析
地域政策学科 〃 経済学科 〃	石川 雄一 車 相龍 伊達木 瀧之助 綱 辰幸	佐世保市の統計調査結果を活用した分析手法の検討

○平成23年度

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	石川 雄一	佐世保市の地理空間情報を活用した地域課題の調査・研究事業
経済学科	伊達木 瀧之助	地域経済動向分析
地域政策学科 〃 経済学科 〃	石川 雄一 車 相龍 伊達木 瀧之助 綱 辰幸	佐世保市の統計調査結果を活用した分析手法の検討
地域政策学科 経済学科	畑田 和佳奈 水野 倫理	佐世保市協働推進政策に関するアンケート調査事業
地域政策学科 〃 経済学科	石川 雄一 車 相龍 綱 辰幸	佐世保市の広域合併に関する効果と課題の検証事業
地域政策学科	山田 千香子 吉居 秀樹	黒島集落調査
地域政策学科	石川 雄一	名切地区住民意識調査

○平成 24 年度

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	石川 雄一	佐世保市の地理空間情報を活用した地域課題の調査・研究事業
地域政策学科 経済学科 地域政策学科	石川 雄一 綱 辰幸 車 相龍	佐世保市の広域合併に関する研究及び都市計画マスタープランにおける中心市街地等の機能に関する研究
流通・経営学科 〃 経済学科	金綱 基志 宮地 晃輔 綱 辰幸	産業人材育成実態調査及び支援策にかかる共同研究
地域政策学科	西村 千尋	佐世保市ウォーキングモデルコースマップ集改訂業務

新上五島町と長崎県立大学の包括連携協定について

項目	内容
協定締結日	平成19年11月 2日
目的	大学と新上五島町は、相互の発展のため、地域振興、教育、健康福祉及び学術等の分野で協力する。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	① 地域政策、まちづくりに関すること ② 教育及び人材育成に関すること ③ 生涯学習に関すること ④ 地域産業の振興に関すること ⑤ 健康福祉に関すること ⑥ 地域情報化に関すること ⑦ 学術研究に関すること ⑧ インターンシップ等現地学習に関すること ⑨ 施設の利用に関すること ⑩ その他両者の協議により定める事項

【実績一覧】

○平成22年度

学科	担当教員	事業名
情報メディア学科	吉光 正絵	新上五島町SNS「してみっか」拡充事業
地域政策学科	畑田 和佳奈	協働のまちづくり推進事業
地域政策学科	阿部 律子	世界遺産登録推進事業
栄養健康学科	正木 基文	健康支援プログラムの開発

○平成23年度

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	正木 基文	健康支援プログラムの開発
看護学科	吉田 恵理子	日常生活圏域における地域と高齢者のアンケート調査と分析
看護学科	稗圃 砂千子 藤丸 知子	障害者へのアンケート調査と分析、打開策検討
地域政策学科	阿部 律子	世界遺産登録推進事業
地域連携センター	田中 一成	地域イントラネットを利用した人材交流事業
地域政策学科	畑田 和佳奈	協働のまちづくり推進事業
情報メディア学科	吉光 正絵	新上五島町SNS「してみっか」拡充事業

○平成24年度

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	阿部 律子	世界遺産登録推進事業
地域政策学科	奥山 忠裕	佐世保港を基点とする観光マーケティング事業
流通・経営学科	山本 裕	
看護学科	吉田 恵理子	日常生活圏域における地域と高齢者のアンケート調査と分析
〃	永峯 卓哉	

長与町と長崎県立大学の包括連携協定について

項 目	内 容
協定締結日	平成23年11月28日
目的	大学と長与町が、相互の資源を活用した連携を推進することで、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	① 地域政策、まちづくりに関すること ② 教育及び人材育成に関すること ③ 生涯学習に関すること ④ 地域産業の振興に関すること ⑤ 健康福祉に関すること ⑥ 地域情報化に関すること ⑦ 学術研究に関すること ⑧ 施設の利用に関すること ⑨ その他両者の協議により定める事項

○平成24年度

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	全員	スイーツコンテストの開催
栄養健康学科	永田 保夫	大豆を使った機能性食品の給食への活用

川棚町と長崎県立大学の受託研究について

【研究名称】

「くじゃく荘」の現状分析、及び経営分析と経営管理に係る調査研究

【研究目的】

町所有の施設である「国民宿舎くじゃく荘」は、指定管理者として川棚町観光協会が運営している。当該施設の利用客の低迷、収益の悪化から、施設建設時の起債償還は、住民の税金で補填されている状況である。当該施設が抱える問題点を明確にし、問題解消の手段として新しい方策を検討する。

【研究内容】

- ① 「くじゃく荘」の経営的分析と経営管理について
施設利用状況等のデータを基に、担当教員それぞれの専門分野から分析し、提言を取りまとめる。
- ② 「くじゃく荘」に関する現状分析・調査
施設の現状を分析するとともに、スポーツ施設を活用した観光地・宿泊施設等を視察し、川棚町の現状と比較し、提言する。
インターネットによるアンケート調査および聞き取り調査を実施し、「くじゃく荘」に対する意識を探る。アンケート調査を集計・分析し、「くじゃく荘」の運営改善について提言を行う。

【研究実施期間】

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

【受託研究担当者】

流通・経営学科 岩重 聡美

平成23年度「地域イノベーション戦略推進地域」及び「地域イノベーション戦略支援プログラム」の採択にかかる取り組みについて

- 文部科学省が、地域の特性を活かした持続的・発展的なイノベーション創出に向けた主体的な取組に対し、関係府省の施策を総動員して支援を行う「地域イノベーション戦略推進地域」について、長崎県を含む、24地域を選定。

【地域名】ながさき健康・医療・福祉システム開発地域

【目的】健康・医療・福祉分野での新産業の創出

【構成機関】

産：長崎県商工会議所連合会 長崎県商工会連合会 長崎県中小企業団体中央会
学：長崎大学(実施機関) 長崎県立大学 長崎総合科学大学 佐世保工業高等専門学校
金：十八銀行 親和銀行
官：長崎県 長崎県産業振興財団(総合調整機関および実施機関)

【国の支援(地域イノベーション戦略支援プログラム)内容について】

- (1)中核を担う研究者の集積にかかる経費支援
- (2)地域戦略実現のための人材育成にかかる経費支援
- (3)大学の知のネットワーク構築にかかる経費支援
- (4)地域の研究機関等での設備共用化支援にかかる経費支援

【支援期間】

5年

- 上記支援「(1)中核を担う研究者の集積」において、本学に1名研究者が配置
永田保夫氏(栄養生化学、医療用機能性食品の開発)
※雇用は長崎大学。

日時 平成25年1月24日(木)

15:00~18:00 受付14:30~

会場 長崎県立大学シーボルト校 長崎県西彼杵郡
長与町まなび野1-1-1
中央棟 1階 M103教室

長崎独自の新たな食品開発につなげることを目的として、県内の農林水産物を用いた新たな加工技術の開発、素材の機能性解明に向けた公設試験研究機関と大学の連携した取り組みなどをご紹介します。ぜひ、みなさまのご参加をお待ちしております。

Seminar Schedule

あいさつ

15:00~15:05

1 講演

15:05~15:45

『特定保健用食品 黒烏龍茶の開発経緯』

サントリーウエルネス株式会社 健康科学研究所 課長 中村 淳一氏

2 公設試および大学の機能性食品開発に向けた事例紹介 15:45~17:25

「食塩や糖類の濃度を自由に調整出来るねり製品の開発」

長崎県総合水産試験場 水産加工開発指導センター加工科 専門研究員 桑原 浩一氏

長崎県立大学 看護栄養学部栄養健康学科 助教 田丸 静香

「赤肉ばれいしょ(ドラゴンレッド)の加工品開発」

長崎県農林技術開発センター 食品加工研究室 室長 西 幸子氏

「LC/MS/MSを活用した機能性食品の開発」

長崎県立大学 看護栄養学部栄養健康学科 教授 田中 一成

「長崎県産物由来の植物性乳酸菌を活用した機能性を有する食品開発」

長崎県工業技術センター 応用技術部食品・環境科 科長 河村 俊哉氏

長崎大学 産学官連携戦略本部 教授、長崎県立大学看護栄養学部 客員教授 永田 保夫氏

「ツバキの機能性成分とツバキによる地域活性化の取り組み」

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 田中 隆氏

長崎県農林技術開発センター 森林研究部門 部門長 久林 高市氏

3 長崎県産農林水産物を用いた製品作りの取り組み 17:25~17:40

大豆(パン、うどん、おから)、ドラゴンレッド、ねり製品 他

長崎大学 産学官連携戦略本部 教授、長崎県立大学看護栄養学部 客員教授 永田 保夫氏

4 試作品試食および意見交換 17:40~18:00

お問い合わせ ナガサキ・イノベーション創出拠点 TEL.095・813・5500
長崎県立大学地域連携センター(総務企画課取次)

主催：長崎“新生”産学官金連携コンソーシアム(NRC)、長崎県農水商工連携プロデューサー協会

機能性食品開発セミナー・交流会

参加無料

お申し込みは
裏面の参加申込書
をご利用ください

○国から選定された「**長崎県EV・PHVタウン構想**」*の主要プロジェクトとして、世界遺産候補を有する五島地域において、EV(電気自動車)等とITS(Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム)が連動した未来型のドライブ観光システムを実現

*平成21年3月31日に全国から本県を含む8都府県を選定。平成22年12月6日、新たに全国から10府県が選定された。

目的: ①EVと観光ITSの実配備・運用、②地域発で全国に通用するルール化・標準化を行うプロジェクトの遂行、③環境、観光を軸とした地域振興・産業振興の実現、④エネルギーシステムとEVに係るモデル実証 等
 推進体制: 慶應義塾大学の川嶋弘尚名誉教授を会長に、学識経験者、自動車メーカー、カーナビ・電機メーカー、地場企業、業界団体、行政機関・地域等による連携組織「**長崎EV&ITSコンソーシアム(長崎エビッツ)**」*を立ち上げ、その中にワーキンググループ(WG)*を設置

*平成21年10月8日に99団体の賛意を得て設立。(H23.10.17現在、197団体)

*WG1「EV・充電設備関連」、WG2「ITSインフラ関連」、WG3「コンテンツ関連」、WG4「エコアイルド関連」の4つを設置。

★ プロジェクト概要

◎ 現状(平成22年度末)

- 五島地区のレンタカー等に、EVを117台、PHVを2台導入。
- 急速充電器を8箇所15基、200V充電設備を22箇所29基整備。
- 地元の観光情報をITSスポット対応カーナビを通じて発信。上・下五島に各10のおすすめ観光ルートを設定

◎ 平成23年度

- EVを21台追加導入。
- 急速充電器を6箇所12基整備。
- ITSスポット、観光情報プラットフォームを整備し、観光情報等を配信。
- これまでにレンタカーとして、12,146台の利用実績(平成23年8月末)

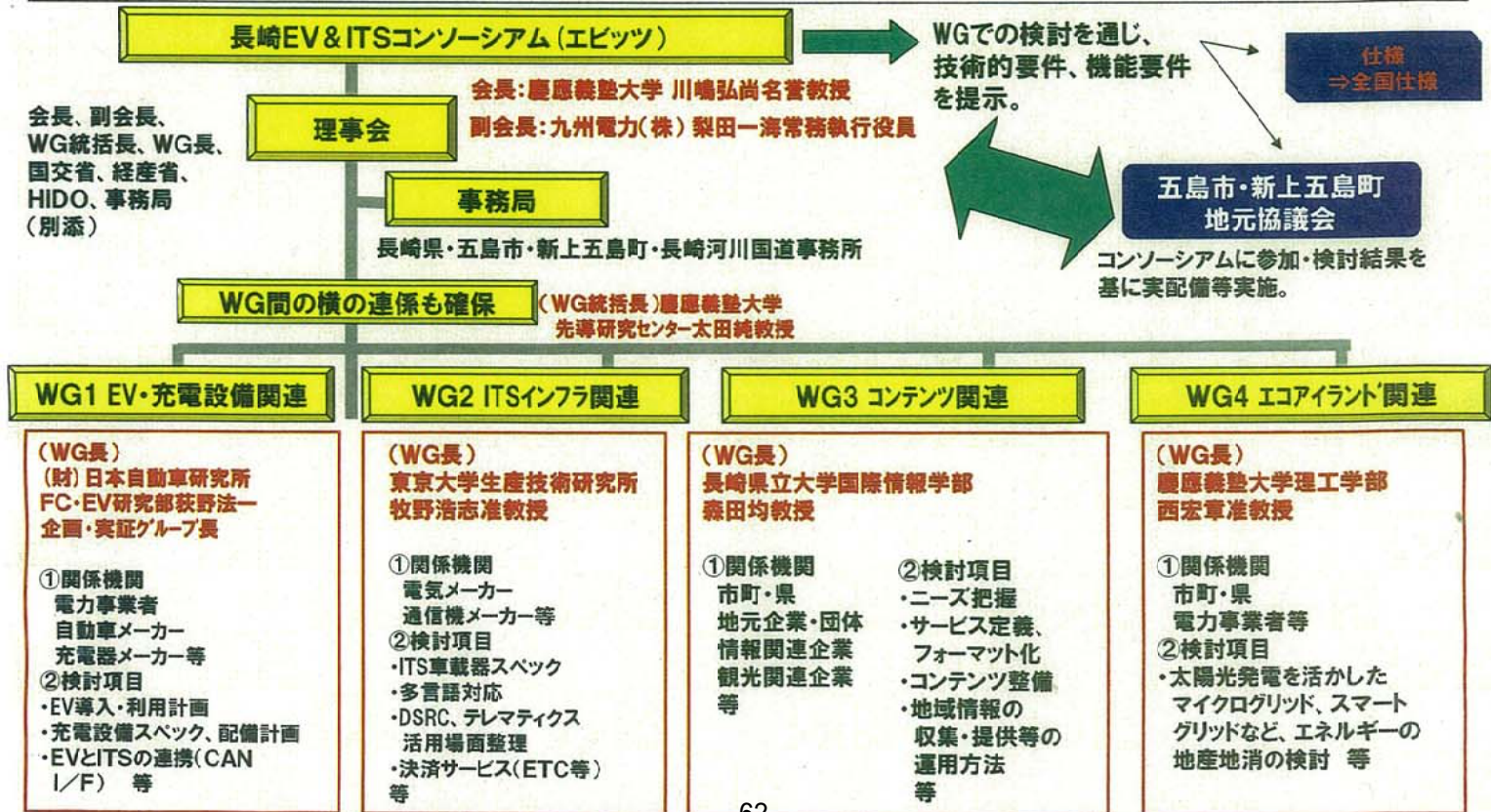
長崎EV&ITS(エビッツ):未来型ドライブ観光のイメージ

ITSで実現する地域主体の観光サービス



長崎EV&ITSコンソーシアム(長崎エビッツ)の目的と推進体制

目的: <EVと観光ITSの実配備・運用>、<地域発で全国に通用するルール化・標準化を行うプロジェクトの遂行>、<環境、観光を軸とした地域振興・産業振興の実現>、<エネルギーシステムとEVに係るモデル実証> 等



・各WGの参加メンバーを募集中

○事業名：平成 24 年度 E V 等事業化可能性調査 (F/S) 委託事業

○事業内容：県内の中小企業及び大学等が、EV、充電設備、ITS やその関連分野における研究開発、事業化、商品化を行うにあたって、事前に必要となる市場調査や事業化可能性調査を実施する。

○申請先：財団法人 長崎県産業振興財団

○担当教員：国際情報学部情報メディア学科 森田 均 教授

○ 提案した事業のテーマ

ITS と LRT をまちなか活性化に調和させる長崎発地域 ITS モデルの事業化可能性調査

※ ITS：高度道路交通システム (Intelligent Transport Systems)

IT を利用して交通の輸送効率や快適性の向上に寄与する一連のシステム群を指す総称名

LRT：次世代型路面電車システム (Light Rail Transit)

低床式車両 (LRV) の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する次世代の軌道系交通システムのことです。

○ 経費：2,659,397 円

○ 事業実施期間：平成 24 年 9 月～平成 25 年 1 月

○ 実施内容

1) 地域 ITS としての LRT の事業化

既存システムを高度化させ、スマートフォン用アプリを開発・評価して長崎 EV&ITS の統合観光情報プラットフォームを県内自治体等が円滑に活用するためのテンプレートとして提供する事業の検討

2) ITS デバイス/システムの事業化

観光スポットの位置情報と近距離センサーの活用によって地域発の ITS デバイス/システムを構築・評価し事業化を検討

3) これらを統合した長崎発の地域 ITS モデルの構築

1.)及び 2.)に関するユーザー意向調査を行う

さらに、長崎 EV&ITS 及び長崎市 LRT ナビゲーション推進協議会による実績を反映させて ITS を長崎の地域特産品とする方策を探る。

○ 協力企業名

・長崎電気軌道 株式会社、扇精光 株式会社、有限会社 宇宙模型

アグリビジネス マッチング 大作戦

参加
無料



産地自慢の農産物や加工食品の展示・試食と農林技術開発センターが開発した新技術を紹介し、新しいアグリビジネスを創造する異業種交流会と商談会を開催します！

開催日時	平成24年6月7日(木) 13:00~16:00			
開催場所	長崎県農林技術開発センター(諫早市貝津町3118)			
主催	長崎県農林部			
時間	会場 A	会場 B	会場 C	会場 D
13時 00分	開会 セレモニー			
30分	展示・ 商談エリア	バイヤー 個別商談会	アグリビジネス 検討会①	アグリビジネス セミナー① 調整中
14時 00分			未利用資源活用	
30分	技術相談エリア も併設	①オイシックス ②九州ムラコレ ③国分		アグリビジネス セミナー② 調整中
15時 00分	●大学 ●発明協会 ●センター		アグリビジネス 検討会② 輸出振興	
30分				
16時 00分	イベント終了			

■展示・商談エリア

イベント当日出展される産地、企業の皆様を募集しています。自慢の品を展示や試食していただくことで、販路の開拓、拡大や農商工連携による新商品の開発等が期待されます。

■バイヤー[オイシックス(株)、九州ムラコレ市場、国分(株)]個別商談会

「1品からでも購入可能」など消費者視点のサービスが支持されている「オイシックス(株)」と九州産品限定ネット通販「九州ムラコレ市場」、食品総合商社業界トップで創業300年の国分が当イベントに緊急参戦。この機会に農林産物や加工品を売り込んでみませんか！個別に商談できますのでぜひ申してください。

Oisix
おいしくす

ムラのおいしさ、お取り寄せ



ムラコレ市場



KOKUBU

「農林水産物を活用した機能性食品開発に向けた研究シーズ発表会」の開催について

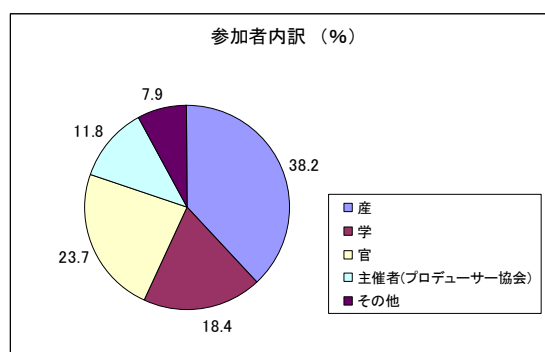
- ▽日 時 平成 24 年 9 月 21 日（金）13:00～16:00
- ▽場 所 長崎県立大学 シーボルト校西棟 1 階 W103 教室
※想定より参加者が多かったため、予定していた W101 教室より変更したもの。
- ▽主 催 長崎県立大学、長崎県農水商工連携プロデューサー協会
- ▽共 催 長崎“新生”産学官金連携コンソーシアム（NRC）
- ▽趣 旨 長崎県立大学の教員が有する農林水産物や微生物などの機能性に関するシーズを広く公表し、県内企業と共同で機能性食品や機能性を有する新商品の開発につなげることを目的とする。

▽内 容

- 主催者あいさつ 田中一成長崎県立大学地域連携センター長
- 趣 旨 説 明 山中孝友長崎県農水連携プロデューサー協会会長
- シ ー ズ 発 表
 - ・奥 恒行 名誉教授、中村 禎子 助教
「桑葉エキス末の糖質消化酵素阻害作用を利用した血糖上昇抑制食品の開発と普及」
 - ・西明 眞理 教授
「ニンニク成分による骨強度低下抑制剤の開発」
 - ・四童子 好廣 教授
「哺乳類に適用される出産率向上促進剤、哺乳類に適用される精神安定剤および家畜飼料 一家畜・ペットのブリーダーや畜産農家のために」
 - ・飛奈 卓郎 講師
「機能性食品が身体能力へ及ぼす効果の検証」
 - ・田丸 静香 助教
「長崎県産香酸カンキツ『ゆうこう』ならびに佐世保市産『摘果ミカン』の機能性」
 - ・永田 保夫 客員教授
「機能性食品の開発 ー大豆粉による試作品づくりー」
 - ・田中 一成 教授
「長崎県産水産物およびその加工品の機能性 ー冷凍すり身、クロナマコ、イカー」

▽参加者数 76 人

- (内訳) 産：29 人
学：14 人
官：18 人
主催者：9 人
※ プロデューサー協会関係者。
※ 発表者及び本学事務局担当者は除く。
その他：6 人



参加者からは実用化を視野に入れた様々な質問が出された。

以上

ホーム 附属図書館・センター・研究所 地域連携センター 活動状況 活動状況（産学官連携部会）
「農林水産物を活用した機能性食品開発に向けた研究シーズ発表会」を開催しました

附属図書館・センター・研究所

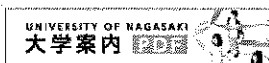
附属図書館

国際交流センター

地域連携センター

教育開発センター

東アジア研究所



入試に関する大学案内パンフレットのpdfファイルダウンロードできます。



大学広報誌クローバーのpdfファイルをダウンロードできます。



経済学部 / 経済学研究所など



国際情報学部 / 看護栄養学部 / 国際情報学研究所 / 人間健康科学研究所など

「農林水産物を活用した機能性食品開発に向けた研究シーズ発表会」を開催しました

平成24年9月21日、本学シーボルト校にて「農林水産物を活用した機能性食品開発に向けた研究シーズ発表会」（主催：長崎県立大学、長崎県農水商工連携プロデューサー協会、共催：長崎“新生”産学官金連携コンソーシアム（NRC））を開催しました。

発表会では、本学栄養健康学科の教員7名が各自の研究シーズについて、下記のとおり発表を行いました。

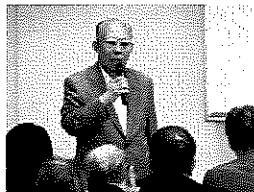
- ・ 奥 恒行 名誉教授、中村 禎子 助教
「桑葉エキス末の糖質消化酵素阻害作用を利用した血糖上昇抑制食品の開発と普及」
- ・ 西明 眞理 教授
「ニンニク成分による骨強度低下抑制剤の開発」
- ・ 四童子 好廣 教授
「哺乳類に適用される出産率向上促進剤、哺乳類に適用される精神安定剤および家畜飼料 一家畜・ペットのブリーダーや畜産農家のために」
- ・ 飛奈 卓郎 講師
「機能性食品が身体能力へ及ぼす効果の検証」
- ・ 田丸 静香 助教
「長崎県産香酸カンキツ『ゆうこう』ならびに佐世保市産『摘果ミカン』の機能性」
- ・ 永田 保夫 客員教授
「機能性食品の開発 ー大豆粉による試作品づくりー」
- ・ 田中 一成 教授
「長崎県産水産物およびその加工品の機能性 ー冷凍すり身、クロナマコ、イカー」

当日は民間企業や官公庁などから76名の参加があり、限られた時間の中ではありましたが、参加者からは実用化を視野に入れて様々な質問が出されました。

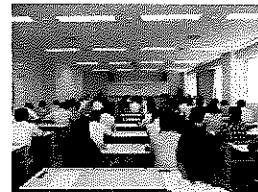
産物を活用した機能性食品開発に向けた研究シーズ発表会



▲主催者あいさつ
(田中一成地域連携センター長)



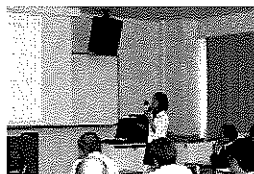
▲趣旨説明
(山中孝友農水商工連携プロデューサー協会会長)

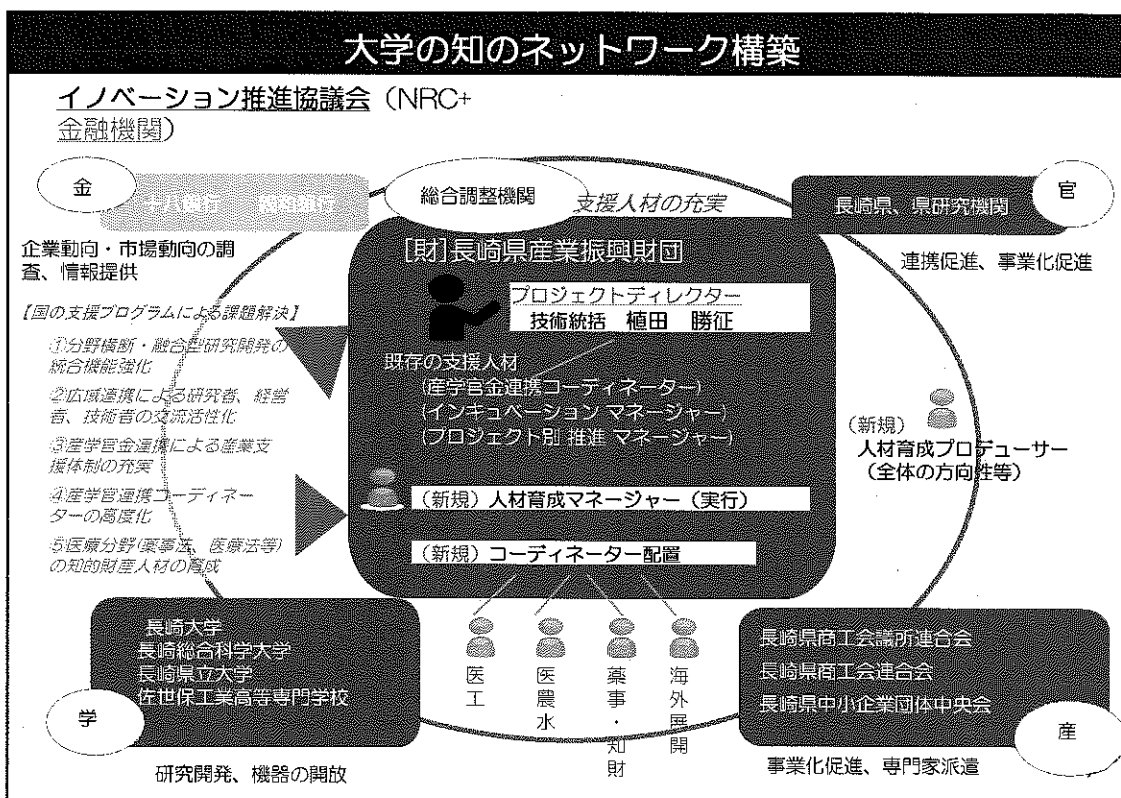
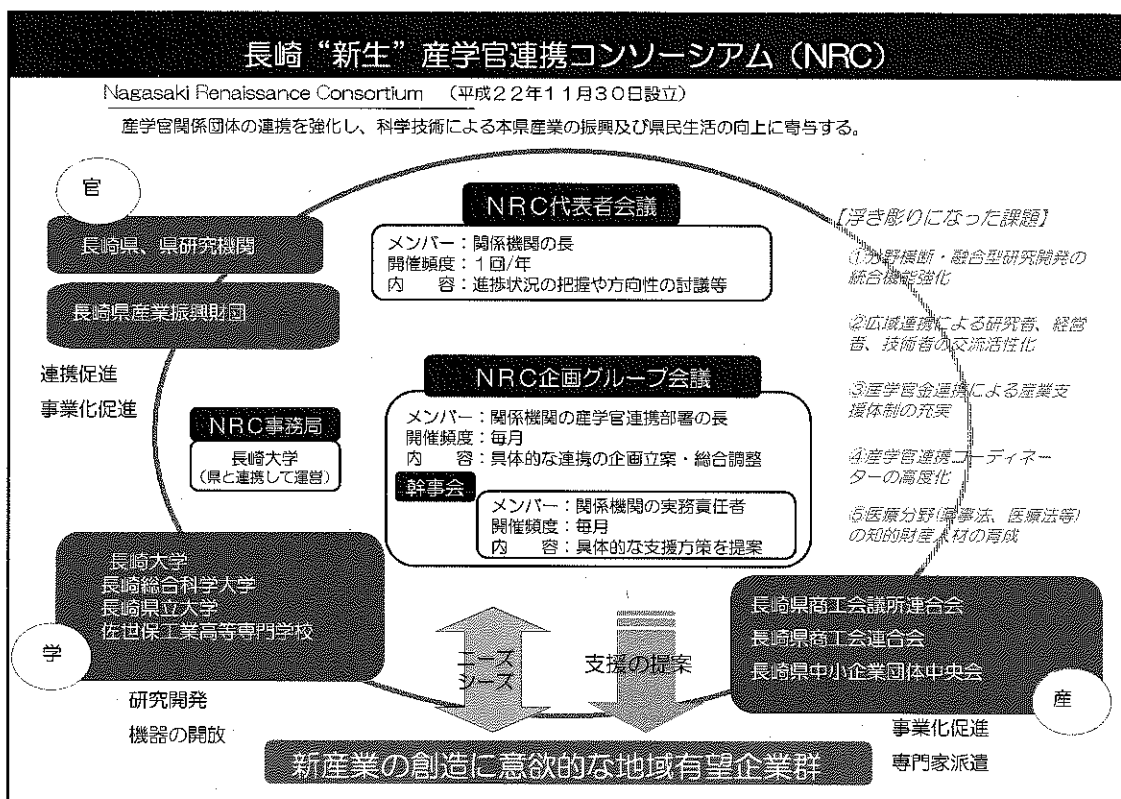


▲聴講の様子



▲▼ 発表及び質疑応答の様子 ▲▼





アジア・国際戦略に関する取組

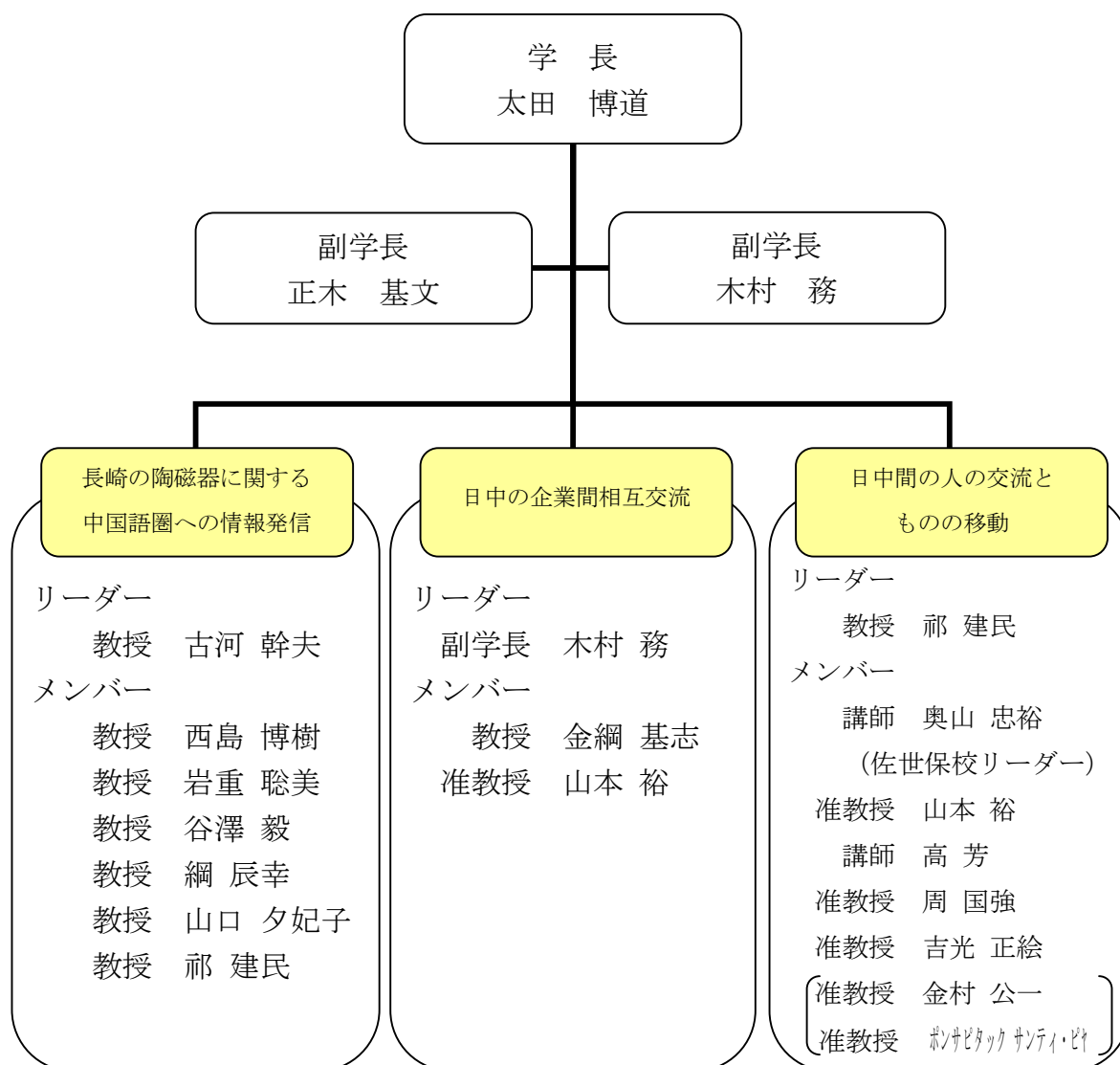
1. 学長プロジェクト研究

○趣旨

本学は、中期計画において、大学のシンクタンク機能を強化し、県や県内市町の政策課題への提言を行うことにより、地域貢献を果たしていくこととしている。「東アジア」に関する研究を重点課題研究としていることは、本学の特色の1つである。具体的には、東アジア研究所を設置し、東アジア地域の大学との連携を積極的に推進している。

一方、長崎県の政策課題の中でも、「アジア・国際戦略」は、最重要課題の1つである。これは本学にとって最も合致する政策課題であり、本学が県政推進に大きく寄与できる分野であるとする。そこで、学長を中心に、東アジアの中でも特に経済成長が著しい中国に特化して、本学の知を結集したプロジェクトを立ち上げ、研究に取り組んでいる。

○研究組織



2. 中国校友会総会の開催

中国上海市にて 2013 年長崎県立大学上海校友会総会、福建省泉州市にて 2013 年長崎県立大学福建校友会を開催した。両校友会は、会員相互の親睦を図り、中国と日本の相互友好及び友好促進、並びに本学の発展に寄与することを目的として平成 23 年度に発足した。上海市や福建省及びその周辺の地域に在住する本学の卒業生や本学への留学経験者等を会員とし、現在両校友会合わせて 60 名以上が会員として登録している。

- 長崎県立大学上海校友会総会
(H25. 3. 8 上海市)
- 長崎県立大学福建校友会総会
(H25. 3. 10 福建省泉州市)

3. その他

「佐世保市外国人観光客ウェルカム協議会」の委員に本学教員が就任し、外国人観光客の受入について協議するなど、本県への観光客誘致に尽力した。

受託研究・共同研究一覧

○実施件数

(単位:件)

年度	受託研究	共同研究	備考
20年度	10	13	
21年度	8	9	
22年度	12	12	
23年度	12	11	
24年度	15	10	
計	57	55	

※相手先や共同研究者に配慮し、件数のみ記載。

長崎県立大学プロジェクト研究費について

長崎県立大学の研究面でのより一層の活性化を目的として、両大学の今後の発展に資する学術研究を支援するため、期間3年を限度として本学の教員を対象とした公募により配分する研究費。対象となる研究は、①「科学研究費助成事業(新学術領域研究)」など国等の研究費の申請になり得る研究、②本学の活性化や地域の課題に即した研究となっている。

[配分実績]

(単位: 件)

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
2	1	1	1	1

研究者		研究期間	研究題目
学科名	教員氏名		
研究代表者		H20～H22	しまの健康を守ろう ～上五島活き活きプロジェクト
栄養健康	正木 基文		
研究分担者			
経済	綱 辰幸		
地域政策	阿部 律子		
国際交流	松尾 晋一		
情報メディア	河又 貴洋		
情報メディア	吉村 元秀		
看護	藤丸 知子		
看護	大塚 一徳		
看護	堀内 啓子		
栄養健康	四童子 好廣		
栄養健康	富永 美穂子		

※研究分担者は平成22年度の実績です。

研究者		研究期間	研究題目
学科名	教員氏名		
研究代表者		H23～H25	しま生態系における人々の活動および資源の活用としまの持続的発展に関する研究
栄養健康	正木 基文		
研究分担者			
地域政策	奥山 忠裕		
地域政策	雪丸 武彦		
流通・経営	山本 裕		
情報メディア	C. ソムチャイ		
看護	大塚 一徳		
看護	山澄 直美		
看護	稗圃 砂千子		
栄養健康	森田 茂樹		
栄養健康	富永 美穂子		
栄養健康	飛奈 卓郎		

※研究分担者は平成24年度の実績です。

交流協定校一覧

	大学名	協定締結日	協定事業内容					
			学生交流 〔派遣・受入人数 期間〕	教職員 交流	共同 研究	シンポジウム等	刊行物等 の 交換	
1	華僑大学	中国	1992年10月7日 (平成4年)	○ 〔計4名 規定なし〕	○	○	○ 〔年1回 交互に 開催〕	○
2	ウィスコンシン大学オシュコシュ校	アメリカ	2001年9月28日 (平成13年)	○ 〔各2名 半年又は1年〕	○	○		
3	上海外国語大学	中国	2002年10月17日 (平成14年)	○ 〔各3名 半年又は1年〕	○	○		
	上海外国語大学短期留学生プログラム協定		2011年6月30日 (平成23年)	○ 〔受入5名 派遣短期研修10名〕				
4	東亜大学校	韓国	2004年4月1日 (平成16年)	○ 〔各2名 半年又は1年〕	○	○	○	○
5	ニューカッスル大学	イギリス	2004年11月4日 (平成16年)	○ 〔派遣のみ (人数規定なし) 半年又は1年〕	○	○		○
6	高麗大学校	韓国	2004年12月2日 (平成16年)	○ 〔各2名 半年又は1年〕	○	○	○	○
	看護大学校		2006年2月9日 (平成18年)	○ 〔定期的な相互交流〕	○	○	○	
7	^{フメイ} 厦門大学 日本研究所	中国	2006年12月7日 (平成18年)	○ 〔規定なし〕	○	○	○	○
8	^{マカオ} 澳門大学 社会人文学部	中国	2009年5月20日 (平成21年)	○ 〔計1~3名 規定なし〕	個別に 協議			
9	西安外国語大学	中国	2011年3月1日 (平成23年)	○ 〔各2名 1年以内〕	○			
10	タマサート大学	タイ	2012年10月30日 (平成24年)	○ 〔学部の規定による〕	○	○		○
	ジャーナリズム・マスコミュニケーション学部		2013年3月18日 (平成25年)	○ 〔各2名 1年以内〕				
11	湖北大学	中国	2013年3月1日 (平成25年)	○ 〔各5名 1年以内〕	○	○	○	○

※東亜大学・華僑大学と2011年締結した協定については6年毎に更新。それ以外の協定は5年毎に更新。

シンポジウム・フォーラム開催実績一覧

年度	開催日	タイトル	場所	備考
20 年度	9月13日	第1回 長崎医療通訳フォーラム 「医療通訳の展望と可能性」 「日本における医療通訳の必要性」 「多文化共生時代の到来」	シーボルト校	主催：長崎県立大学 大阪大学 共催：(財)長崎県国際交流協 会、長崎県通訳案内士協会
	10月25日	国際学術交流シンポジウム 「東アジア企業の管理・経営問題」	華僑大学（中国）	華僑大学との合同開催
	11月1日	第2回 長崎医療通訳フォーラム 「医療通訳派遣制度・多言語医療受付支援システムM 3 IT実践報告」 「医療文化・ことばの壁を乗り越えながら」 「医療通訳の役割と心構え」	出島交流会館 （長崎市）	主催：長崎県立大学 大阪大学 共催：(財)長崎県国際交流協 会、長崎県通訳案内士協会
	1月10日	第3回 長崎医療通訳フォーラム 「長崎県通訳案内士の仕事～おもてなしの心」 「観光目的で来日した外国人重症患者のエンバート ング事例」 「地域特性と医療通訳体制－愛知県の事例から」	出島交流会館 （長崎市）	主催：長崎県立大学 大阪大学 共催：(財)長崎県国際交流協 会、長崎県通訳案内士協会
	2月27日	「長崎県立大学・離島研究シンポジウム in 上五島」	鯨賓館ホール （新上五島町）	主催：長崎県立大学 共催：新上五島町 後援：長崎新聞社
	3月22日	長崎県立大学メディアフォーラム 「生きるということ」	シーボルト校	主催：長崎県立大学国際情報 学部情報メディア学科
21 年度	11月15日	国際情報学部情報メディア学科主催シンポジウム 「新聞・テレビの現場で学び、考える」	シーボルト校	主催：長崎県立大学国際情報 学部情報メディア学科
	11月19日	国際学術交流シンポジウム 「地域経済活性化のための地域力の模索 －地域産業、地域流通、地域ブランド－」	佐世保校	華僑大学との合同開催
22 年度	11月22日	国際学術交流シンポジウム 「地域経済活性化のための地域力の模索」	華僑大学（中国）	華僑大学との合同開催
23 年度	5月12日	第5回東アジア世界化フォーラム 「東北アジア炭素関連市場と排出量取引制度」 －中国・日本・台湾・韓国の現状と展望－	東亜大学	主催：東亜大学
	11月10日	第1回東アジア学術交流フォーラム 「自然災害と東アジア」	佐世保校	本学・華僑大学・東亜大学 との合同開催
24 年度	11月15日	第2回東アジア学術交流フォーラム 「東アジアの高齢化と福祉」	東亜大学	本学・華僑大学・東亜大学 との合同開催
	11月22日	第1回東アジア研究セミナー 「鎖国体制における朝鮮貿易」	佐世保校	主催：東アジア研究所
	1月22日	第2回東アジア研究セミナー 「韓国における高齢者の健康増進」	シーボルト校	主催：東アジア研究所

東アジア研究所「東アジア研究ネットワーク」について**【趣旨及び目的】**

「東アジア研究ネットワーク」は、東アジア研究を幅広くかつ円滑に進めるため、東アジア研究所（以下、研究所という）を拠点に、世界の研究者及び機関との連携を図ることが目的である。（※本研究所における「東アジア」とは、東北アジア・東南アジアなど広く意味する。）

【研究者】

国内外の大学・機関に在職し、本研究所の研究活動に賛同する者とする。本学の研究者には「研究員 (Research Fellow)」、学外の国内研究者には「連携研究員 (Cooperative Research Fellow)」、海外の研究者には「海外研究員 (Overseas Research Fellow)」の称号を与え、共同研究の推進、研究者の紹介、情報や資料の交換、『東アジア評論』への投稿など、包括的な相互協力を行う。本学の研究員は、ネットワークの中で主導的に研究グループを形成し研究活動を行う。すべての研究者は、本研究所の研究者登録制度に基づいて研究者登録を行う。

【研究者登録制度】

研究者登録について、研究員は自薦とし、連携・海外研究員は研究員からの推薦によるものとする。すべての研究員は、指定の情報（プロフィール、研究業績一覧）を提供し、本人の許諾の上「東アジア研究者シート」を本研究所のホームページに公開する。登録の期限は一年とし、登録研究者から申し出がない限り、自動的に更新されるものとする。登録研究者間の仲介や連絡等については、関係の研究者同士または本研究所が行う。

【登録研究者への優遇措置】

- ・ 本研究所の各種研究会及び国際シンポジウムへの招待及び招聘
- ・ 本研究所の機関誌『東アジア評論』への掲載優先
- ・ 本研究所の刊行物の贈呈
- ・ 本研究所の事業や動向の個別案内

【主要研究部門】

研究内容は、東アジアと関係することを前提とし、下記の主要研究部門とする。

- ・ 貿易研究部門（政策、規制、関税、摩擦、自由化、WTO、FTA/EPA 等）
- ・ 金融研究部門（政策、制度、投資、為替、通貨統合等）
- ・ 産業研究部門（政策、規制、構造、集積、環境、連携、創出、国際観光等）
- ・ 企業研究部門（戦略、流通、物流、マーケティング、リスク、進出、R&D、M&A 等）
- ・ 地域研究部門（共同体、政治、外交、国際関係、法律、社会、文化等）

公開講座・地域公開講座・学術講演会実施状況

○公開講座

(単位:講座、人)

年度	佐世保校		シーボルト校		合計	
	講座	参加者	講座	参加者	講座	参加者
20年度	11	241	11	294	11	535
21年度	17	395	17	653	17	1048
22年度	13	283 [※]	13	415	13	698
23年度	10	261 [※]	10	333	10	594
24年度	13	386 [※]	13	530	13	916

※佐世保校参加者には、新上五島町での参加者を含む

○地域公開講座

(単位:講座、人)

年度	佐世保校		シーボルト校		合計	
	講座	参加者	講座	参加者	講座	参加者
20年度	20	507	17	829	37	1336
21年度	17	485	16	858	33	1343
22年度	11	341	22	908	33	1249
23年度	20	519	27	1,129	47	1648
24年度	18	940	43	2,142	61	3082

○学術講演会

(単位:講演、人)

年度	佐世保校		シーボルト校		合計	
	講演	参加者	講演	参加者	講演	参加者
20年度	3	114	3	76	3	190
21年度	3	80	3	165	3	245
22年度	3	381	3	341	3	722
23年度	3	221	9	453	9	674
24年度	4	183	6	316	7	499

教員の研究活動内容一覧(平成24年4月1日現在)

【経済学部】

●経済学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	木村 務	・持続可能な傾斜地農業(果樹・茶等)の産地システム ・離島農業の再生 ・農業協同組合の組織と事業方式
教授	古河 幹夫	・社会的価値と政策目標
教授	柳田 芳伸	・『マルサス人口論事典』の編集とマルサスの書誌的研究に取り組んでいる
教授	西 道彦	・貿易取引の電子化 ・グローバルSCM
教授	楊 光洙	・財政政策 ・地域観光 ・地域産業戦略
教授	綱 辰幸	・戦後わが国における租税政策 ・地方財政と介護保険
教授	青木 圭介	・通貨統合後の金融政策波及効果と最適通貨圏理論の考察
教授	矢野 生子	・R.Mundellの「貿易論」ならびに「国際金融論」に関する研究の考察
准教授	有馬 弥重	・環境問題などに関する規制政策について
准教授	尹 清洙	・中国経済の多地域動学的応用一般均衡モデルの開発(学術振興会若手研究B:平成22年度~23年度) ・統計学と社会認識:易学への数学的接近
准教授	中村 和敏	・インドネシアの労働市場分析 ・インドネシアの中小企業
准教授	植野 貴之	・確実性および不確実性の下での多段意思決定過程における多様な評価系 ・経済学における再帰的方法 ・動的オプション価格評価
講師	長濱 幸一	・19世紀後半のハプスブルク帝国・ボヘミアにおける工業化と民族問題
講師	水野 倫理	・産業組織論の理論的分析

●地域政策学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	秦 耕司	・インテンシブコースにおける中国語教材(教科書、副教材、補助教材)のあり方 ・老舎の作品に見られる中国語の表現 ・語学的視点より見た唐詩の解釈
教授	山田 千香子	・日系社会の文化変容 ・日系カナダ人のエスニシティ・多文化主義 ・島嶼の社会構造変容 ・エコツーリズムと地域づくり
教授	荻原 寛	・スペイン語とヴェネツィア方言との近似性の比較対照研究 ・マニラ湾沿岸部のスペイン語系クレオール形態・統語論および社会言語学的研究 ・在住外国人に対する言語サービスを始めとする多文化共生社会育成
教授	阿部 律子	・フランス18世紀啓蒙思想(ヴォルテール) ・フランス女性史、現代フランス女性論、現代フランス社会と文化 ・長崎とキリスト教
教授	上畑 良信	・ペスタロッチーに及ぼした啓蒙主義(J.G.ズルツァーほか)の影響に関する研究 ・教育者を事例とする人間形成の伝記的研究 ・人間形成と社会体験活動 ・戦後の教員養成教育 ・日本道徳教育史論
教授	宮崎 明人	・相対論的重力場の理論
教授	竹田津 進	・英語の語彙、文法の史的変化 ・電子コーパスを利用した言語変化 ・OED編集者の足跡と学風 ・英語教授法
教授	松岡 純子	・アジアの近代、「西欧の衝撃」 ・中国近現代文学における人間 ・日中比較文学
教授	吉居 秀樹	・英米法系(特にイギリス)における行政手続法(行政審判所、ADRを含む) ・情報法(情報公開・個人情報保護法)および地方自治法制の研究
教授	長沼 信之	・鉄鋼業における経営と労働 ・中小企業能力開発 ・高齢者問題と地域社会
教授	岩清水 由美子	・ジョウゼフ・コンラッドの小説におけるジェンダー
教授	石川 雄一	・都市圏の社会経済的地域構造変容 ・人口の都心回帰と離島地域におけるIターンの動向
教授	山崎 祐一	・異文化間コミュニケーションを視野に入れた英語教育 ・英語(外国語)教育における異文化理解と国際交流 ・英語(外国語)学習と異文化理解に関するサービスラーニングと地域貢献
教授	西村 千尋	・自然環境を活かした地域づくり・健康づくり-九十九島を中心に-
准教授	車 相龍	・国土、地域政策の観点から見るイノベーション・システムの日韓比較

職名	氏名	現在の研究のテーマ
講師	畑田 和佳奈	・自治体の政策形成過程、市民と行政の協働(理論・制度分析)
講師	奥山 忠裕	・政策評価 ・政策分析
講師	雪丸 武彦	・小・中学校長の力量形成に関する研究 ・戦後就学行政の変容過程の研究
講師(特任)	スティーブン・エドワード・ライフ	・聞き取り理解におけるイントネーションの重要性、言語習得
講師(特任)	高 芳	・中国語表現法 ・中国語の男言葉・女言葉の変化 ・中国語の敬語
講師(特任)	トム ローソン	・日本での英語教育におけるテクノロジーと英語コミュニケーション
講師(特任)	中村 吏花	・イギリス文学における“them”と“us”

●流通・経営学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	竹田 範義	・イギリス減価償却会計の理論史研究 ・19世紀イギリスの公益事業会計
教授	村上 則夫	・システムと社会情報に関する研究 ・IT社会の光と影 ・地域社会における社会情報化の研究
教授	西島 博樹	・小売国際化と流通構造の変容 ・地域商業振興
教授	岩重 聡美	・流通変革と消費者 ・消費問題の理念と現状
教授	金綱 基志	・多国籍企業における暗黙知の企業内移転メカニズムの探求
教授	谷澤 毅	・ドイツを中心としたヨーロッパ諸都市間の通商網・商品流通についての史的 研究 ・軍港都市史研究(キールと佐世保)
教授	宮地 晃輔	・環境管理会計技術の精緻化・高度化に関する研究
教授	神保 充弘	・流通系列化に関する歴史的研究 ・日本企業の生成期マーケティングに関する研究
教授	山口 夕妃子	・小売業の国際化・グローバル化問題の研究 ・アジアにおける流通企業の比較研究 ・グローバル・サプライチェーン・マネジメント研究 ・地域ブランド研究(九州・沖縄地域を中心に)
教授(特任)	高橋 秀至	・無償取引にかかる法人税とブランド使用料 ・知的財産の価値評価と移転価格税制 ・租税法上の裁量
准教授	齋藤 光正	・商業経営経済学の歴史的発展

職名	氏名	現在の研究のテーマ
准教授	鴻上 喜芳	・米国における約款のクレームメイド化、リスクリテンションの進展等の研究 ・品質表示におけるリスクマネジメント、消費者庁誕生に伴う企業のリスクマネジメント等の研究 ・保険金不払問題の実態ならびにそれに伴う保険会社のリスクマネジメントの研究
准教授	山本 裕	・定期船航路の輸送システムと輸送サービスについて ・離島交通(海運と空運)について ・港湾政策について ・ものづくりと物流システム
准教授	新川 本	・企業統治(corporate governance)に関する研究 ・企業の中核組織に関する研究
准教授	小形 健介	・米国企業結合会計基準設定プロセスの政治経済学的分析
講師	大田 謙一郎	・クロスメディア環境下におけるブランド・コミュニケーション戦略 ・都市・地域ブランド戦略

【国際情報学部】

●国際交流学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	下野 孝文	・遠藤周作研究 ・芥川龍之介研究
教授	山内 ひさ子	・英語コミュニケーション能力、異文化間コミュニケーション能力に関する研究 ・ESP(English for Specific Purposes)に関する研究(観光通訳英語のCALL教材開発) ・コンピュータ利用の英語教育に関する研究(CALLとテキストによるブレンド学習の効果的授業の研究)
教授	祁 建民	・近代内モンゴル自治・独立運動と日本 ・現代中国農村における社会結合と国家権力 ・満鉄調査部調査資料の総合研究 ・現代中国の政治運動と民衆 ・中日村落権力構造の比較研究
教授	河野 健一	・EUによる欧州統合の課題と進展 ・東アジア共同体の基盤研究 ・平和研究
教授	瀬端 孝夫	・在日米軍と日米関係
教授	李 炯喆	・大平内閣とアジア外交
教授	上村 俊彦	・現代英語の語彙と統語構造の研究
教授	竹部 隆昌	・ビザンツ海軍による南仏プロヴァンスのイスラム海賊拠点フラクシネトゥム遠征の西洋中世史における評価

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	関谷 融	・教育学における生活世界概念について ・携帯音声端末とコンピュータネットワークを組み合わせた自学システムの稼働実験
教授	小長谷 英代	・historiography -folkloristics- ・public culture, nation state, performance
教授	荻野 晃	・NATO拡大と中・東欧 ・ハンガリー外交とポーランド危機(1980～1981)
特任教授	徐 賢燮	・出島オランダ貿易館と朝鮮通信使比較
准教授	山田 健太郎	・アメリカ文学・表象文化研究 ・翻訳論研究 ・英語教材研究
准教授	周 国強	・長崎方言中の中国語語彙
准教授	小原 篤次	・海外の経済制度や経済事情の研究 ・先進国と新興国の金融市場の研究 ・先進国と新興国の機関投資家の研究
准教授	唐津 理恵	・トルストイ翻案映画『愛怨峡』の考察
准教授	松尾 晋一	・中国における日本学研究指導の現状
講師	福島 涼史	・国際法と憲法をつなぐ公法理論—戦争と平和の法を中心として—
講師(特任)	リチャード・ホブソン	・英語教育における効果的なユーモア教授法の研究 ・英作文における効果的な教授法の研究
講師(特任)	ニール・ミントン	・Language learning motivation
講師(特任)	ジョール・ヘンスリー	□社会・神経言語学の研究方法 □動的システム理論 □反復学習

●情報メディア学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	伊藤 憲一	・カオス時系列データの解析手法に関する研究
教授	庄山 茂子	・路面の色の違いが道路景観の印象や歩行者の見えに及ぼす影響
教授	辺見 一男	・モーションキャプチャを用いた人間の動作解析に関する研究 ・ヒューマンインタフェースに関する研究 ・画像処理に関する研究 ・コンピュータグラフィクスを用いた史跡の復元
教授	村上 雅通	・チッソ分社化後の水俣病問題とメディアの報道の検証 ・デジタル化以降の映像メディアの動向と日本のテレビ界の国際化
教授	永野 哲也	・フィンラー幾何学における線形平行移動の研究 ・フィンラー空間とリーマン空間の関係の研究

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	チャットウイエンチャイ・ソムチャイ	・文系学生向けのプログラミング教育用言語としてのExcel VBAの考察
教授	森田 均	・インターネットと既存メディアが融合していく社会に関する人文社会及びメディア情報工学的研究
准教授	金村 公一	・新しい情報・コミュニケーション政策 (Communications Policy) と公共性
准教授	柳田 多聞	・コミュニケーションを促進する認知心理的要因 ・色覚障害にまつわる心理的ストレス
准教授	河又 貴洋	<p><産業組織論、進化経済学及びグラフ/ネットワーク理論のアプローチから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報」と「ネットワーク」をキーワードに、広義における情報通信産業の発展(技術とビジネス)とそれを取り巻く環境(制度及び社会受容)の変容に関する研究 ・産業組織構造の政治経済的形成と情報通信ネットワークのこれらに与える影響及び可能性の考察 ・情報通信産業の規制の在り方に関する研究ーネットワーク間の相互接続やユニバーサル・サービス政策、デジタル・デバインド、研究開発体制等に関する考察ー ・「創造性(Creativity)」に関する経済学的研究 ・情報技術(IT)を中核とした産学協同の文理統合教育研究プログラムに関する調査研究(e-Learningのあり方に関する研究を含む)
准教授	吉村 元秀	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝的手法ならびに学習手法による画像の領域分割に関する研究 ・多重解像度解析による画像特性の抽出手法に関する研究 ・周期パターン解析による画像特性の抽出手法に関する研究 ・ヒトの視覚認知処理を利用した輪郭検出手法に関する研究 ・波長帯を考慮した画像計測による食品鮮度評価技術の開発に関する研究
准教授	門部 昌志	<ul style="list-style-type: none"> ・中井正一の著作を、メディア/コミュニケーション研究および20世紀の思想との関連から再読 ・言語行為と媒介作用の問題系の接合
准教授	吉光 正絵	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの発達と下位文化の創造の関係 ・メディアの発達とコミュニティとの関係 ・コミュニティ・メディアとしてのラジオの可能性 ・ソーシャル・メディアの利用による安心・安全な地域づくり ・メディアの発達とポピュラー音楽の好みの関係
准教授	實原 隆志	・対公権力の関係における、情報の扱い方
准教授	ホンサピタックサンティ・ピャ	・タイのテレビ広告におけるジェンダー役割の変容
講師	前村 葉子	・ウェーブレット変換を利用した適応量子化電子透かし法のカラー画像への適用
講師	藤沢 望	・音色の印象的側面および識別的側面に関する研究

【看護栄養学部】

●看護学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	大塚 一徳	・ワーキングメモリと問題解決に関する認知心理学的研究
教授	松本 幸子	・効果的なシミュレーション教育 ・看護倫理に関する教材研究
教授	堀内 啓子	・戦後開拓の今日的意義(仮題) ・長崎県における障害児療育支援の現状と課題 ・臨地実習に活かせるコミュニケーションスキル育成の基礎的研究(共同) ・看護系大学生の看護技術に対するイメージの変化(共同)
教授	藤野 裕子	・うつ病患者の回復過程に関する研究 ・産後うつ傾向にある母親の育児体験に関する研究 ・子どもが誕生後1年間の父母の精神状態とストレス対処能力に関する研究 ・子育て適応期における父母の精神衛生と家族関係に関する研究 ・地域で暮らす精神障がい者のリカバリーと関連要因に関する研究 ・看護学生の職業アイデンティティに関する研究 ・精神障がい者の服薬指導に関する研究 ・看護学生の実習不安に関する研究
教授	李 節子	・多文化共生時代における母子保健・グローバルヘルスとそのシステム構築に関する研究
教授	立石 憲彦	・遠隔医療の構築 ・電子カルテの構築
准教授	中尾 八重子	・健康づくり推進員の主体化に関する研究 ・市町の保健師活動における地区管理方法に関する研究
准教授	河口 朝子	・大学看護教員の職業性ストレス調査
准教授	大重 育美	・コミュニケーションスキルの要因分析 ・父親の育児参加における影響要因
准教授	山澄 直美	・院内教育の評価に関する研究
准教授	吉田 恵理子	・エイジング・インプレイスに関する研究 (離島で訪問看護を活用した在宅死に関する研究) ・本土の病院で治療をうけている離島高齢者の入院中の困難について ・シミュレーションを活用した成人看護学演習への取り組み(成人看護学教員共同研究) ・臨地におけるシミュレーション教育の実態
准教授	林田 りか	・看護学生の喫煙に関する研究 ・看護学生の子どもに抱くイメージの構築 ・小児看護学実習における学生の看護技術に関する研究
准教授	永峯 卓哉	・看護技術に関する研究 ・看護教育に関する研究(教育内容、教育方法、教育技法など) ・協同学習、協同教育に関する研究 ・地域における感染予防、衛生教育に関する研究 ・訪問看護、訪問介護の質に関する研究 ・介護予防に関する研究(運動を中心とした取り組み) ・高齢者のQOLに関する研究 ・音楽療法に関する研究
講師	稗圃 砂千子	・長崎県の島嶼看護の特性と課題

職名	氏名	現在の研究のテーマ
講師	片穂野 邦子	・成人看護学演習におけるシナリオシミュレーションの実施による学生の学び ・N県下の医療施設におけるシミュレーション教育の現状
講師	高比良 祥子	・厳正な成績評価に向けた評価モデル作成のためのパイロット研究
講師	堂下 陽子	・精神科訪問看護における家族ケアとその効果に関する研究 ・プロセスレコードを使った実習カンファレンスにおける学習内容と教育上の課題
助教	吉原 麻由美	・保健師大学院教育におけるケースメソッド演習の可能性の検討
助教	山口 多恵	・回復期リハビリテーション病棟における転倒・転落リスク予測に関する職種の特徴—身体行動制限解除の視点から—
助教	三重野 愛子	・看護系大学生の看護技術に対するイメージの変化
助教	山田 貴子	・成人看護学
助教	新田 祥子	・遺伝看護に関する研究 ・グローバルスタンダードを考慮した看護教育に関する研究 ・グローバル社会における日本の母子保健のあり方に関する研究

●栄養健康学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	正木 基文	・健康と環境との関連を解明するなかで、とくに集団の適応の概念に着目し生体要因と環境要因を統合的にとらえる生態学的視点から研究を行っている。
教授	上田 成一	・高温菌 <i>Thermoascus thermophilus</i> によるイチゴ果実の汚染とその耐熱性
教授	大曲 勝久	・脂肪沈着部位と脂肪肝の関連の検討
教授	武藤 慶子	・行動変容段階から見た大学生の食生活 —野菜の摂取量を中心として—
教授	田中 一成	・食事による生活習慣病予防、特に脂質代謝改善
教授	西明 真理	・摂食時間が生体に及ぼす影響に関する研究
教授	四童子 好廣	・ゲラニルゲラノイン酸(GGA)による癌予防機構に関する研究
教授	樋口 オ二	・米粉食パンの製造方法と地産米の米食パンの製造方法の相違について
教授	森田 茂樹	・栄養サポートチーム(NST)における栄養評価法の確立
教授	久木野 憲司	・味覚と脳機能に関する研究 ・スリムダイエットが生体に及ぼす影響に関する研究 ・骨の成長や代謝における栄養因子の役割に関する研究
教授	古場 一哲	・共役リノール酸の体脂肪低減作用に及ぼすイソフラボン摂取の影響について
准教授	駿河 和仁	・ビタミンAの吸収・代謝の調節機構の研究

職名	氏名	現在の研究のテーマ
准教授	富永 美穂子	<ul style="list-style-type: none"> ・煮干し・あごだしへの料理酒添加の影響 ・長崎産じゃがいもの味・テクスチャーの特性 ・大学生の食生活および食生活支援に関する研究
講師	飛奈 卓郎	<ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックシンドローム改善のための運動トレーニングと食事制限の役割 ・メタボリックシンドローム改善を目的とした運動トレーニングと食事制限の効果と遺伝的要因 ・高齢者の運動トレーニングの効果と遺伝的要因の関係
助教	中村 禎子	<ul style="list-style-type: none"> ・難消化性糖質の消化・吸収・発酵・代謝、ならびにプレバイオティクスとして生体に及ぼす影響に関する研究
助教	山口 範晃	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満マウスの脂肪組織におけるビタミンA代謝の変動
助教	田丸 静香	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆タンパク質のラット肝臓トリグリセリド代謝調節に関する研究 ・食品成分の栄養生理機能の解明と加工食品への応用
助教	加藤 滋子	<ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックシンドロームモデルラットの腎障害に対するフィコシアニンの作用
助教	田辺 賢一	<ul style="list-style-type: none"> ・難消化性糖質の消化・吸収・発酵・代謝ならびにプレバイオティクスに関する研究

長崎県公立大学法人の経営戦略

中央教育審議会が答申した「我が国の高等教育の将来像」7つの機能別分化類型が示されている。本学は其中で、「職業人養成」及び「地域の生涯学習の機会の拠点」、「社会貢献」を本学の最も重要な使命として明確に位置づける。即ち、学部学生の教育に軸足を置き、教員の知と学生の活力をもって、地域の文化・経済の発展に貢献することを使命とする。そのために必要な大学資源を重点的に投入していく。

それを踏まえ本学は、長崎の歴史的・地理的・文化的特色を活かした本学独自の教育を推進する。それは単に「長崎に関することを知る」ということではなく、最終的に学部学科全体として学生の個の確立（発言、提案、議論、そして協働）に資するレベルまで止揚されたものとしていく必要がある。「主体的に学び、長崎から世界へ発信できる学生」を育て、社会に送り出すことを目的とした大学運営を行う。世界が向かうグローバル化の中で活躍できる卒業生の輩出を目的とし、教育の自律的質保証に向けた取組を強化していく。ここで最も重要なことは、教職員ひとり一人が組織の一員としての自覚を持ち、各々の役割・責任を最大限の力で全うし、学生の成長に喜びと誇りを感じることである。そのためのガバナンスのさらなる強化にも取り組む。

具体的には、下記の取組を中心に実施していく。これらの取組を通じ、本学をより魅力に満ちた選ばれる大学へと磨き上げていく。その結果、本法人最大の収入源である授業料収入を安定的に確保し、揺るぎない財政基盤を確立していく。

1 教育の質保証によるたくましい人材の育成

卒業時に、「主体的に学び、長崎から世界へ発信できる学生」を育成するために、教育体系を再構築し、その質の保証を目指す。それが、長崎県立大学の学生像であると、県民のみならず全国に浸透するように、教職員一丸となって取り組んでいく。

- (1) 学生を育てる過程の明確化
 - ・ 学生の受入方針、教育課程の編成方針、学位授与方針の3ポリシーを明確化
 - ・ 組織的・体系的教育の実現による出口の質保証を徹底
- (2) 就業力の養成
 - ・ 学生の就業力（個の確立）を入学時から養成し、高い就職率を維持
- (3) 国際性の向上
 - ・ 学生の意欲を引き出す教育で、高い外国語運用能力の養成
 - ・ 本学学生の留学、本学で学ぶ留学生の倍増

2 魅力ある教育の実施による志願者の確保

高校生や保護者の心に響く魅力ある教育を実施する。このために、長崎県の特徴を活かした教育の充実に取り組む。

(1) 特色ある教育、魅力ある学問分野の創出

- ・「しま」体験教育プログラム
- ・「長崎学」科目群の設置

(2) 教育環境の整備

- ・佐世保校の建替に伴い、学生が魅力を感じ、足を運びたいくなるような新しいキャンパスを整備

3 地域貢献の充実・研究の高度化

長崎県から交付される運営費交付金は、授業料と並び本法人の収入の柱であり、県内唯一の公立大学として地域貢献を充実しその存在意義を示すことにより、その安定的確保に努める。また、外部資金についても今まで以上の獲得に努める。

(1) 長崎県に関連する研究への取組

- ・「離島」「東アジア」「長崎の地域課題」に関連する研究への重点的な取組
- ・「アジア・国際戦略」への貢献、シンクタンク機能の強化
- ・産学官連携の推進

(2) 研究の高度化による外部資金の増加

- ・第2期中期計画期間中3億5千万円以上獲得

(3) 県民への説明責任

- ・法人運営や教育、研究に関する情報の積極的な公表

4 効果的な大学運営の推進

理事長・学長のリーダーシップの下、必要な大学資源の選択と集中を実施するなど、効果的な法人・大学運営を推進する。

(1) 教育研究等の見直し

- ・大学として推進する「しまプロジェクト」や「アジア・国際戦略」、「留学支援」等の教育研究への予算の重点配分
- ・平成28年度までに物件費を1億2千万円削減
- ・教員評価を全学的に見直し、理事長・学長が積極的に評価

(2) 分離キャンパスの組織運営

- ・分離キャンパスを「禍」とせず、「福と為す」柔軟な組織再編

(3) 効果的な情報発信、大学ブランド力の向上

- ・本学の学生像を意識させるような情報発信
- ・大学のブランド力を高めるための広報戦略

平成23年12月7日

長崎県公立大学法人理事長 清浦義廣

長崎県公立大学法人行動規範

平成24年3月27日制定

長崎県公立大学法人の役員及び教職員は、長崎県立大学に課せられた公共性と社会的使命・責任を強く自覚するとともに、法令を遵守し、誠実で高い倫理観の下、公正・公平な業務の遂行により、地域社会の期待に応え、信頼される大学づくりを実現するために、次の行動規範を定め遵守します。

大学の理念に基づく人材の育成

大学の理念や目標の実現に向け教育研究を行い、社会から求められる人材の育成に努めます。そのために学習環境を整備するとともに、授業内容や教育課程の改善を通じ、充実した学びの実現に努めます。

高い倫理観を持った研究活動

学術研究活動において高い倫理観を保持し、研究成果を社会に提供します。また、研究活動においてあらゆる不正行為を行わないとともに、不正行為が起こらない環境の整備に努めます。

地域貢献

大学に課せられた公共性と社会的使命を果たすため、大学が持つ人的、物的、知的資源や組織などを総合的に活用し、地域社会への貢献や連携を行うとともに、県民の生涯教育などに積極的に貢献することにより、開かれた大学づくりを行います。

教職協働の実現

教職員が互いの立場と役割を尊重し、協力関係を構築することにより、学生へのサービス向上と大学の理念実現に努めます。

キャンパス間の融合

キャンパスの枠を超え、全学的な協力関係を構築し、分離キャンパスの有効活用に努めます。

法令遵守

法令や社会規範を遵守し公序良俗に反する行為、本法人の名誉と信用を傷つける行為を厳に慎み、諸規程を誠実に守ります。また、業務上知り得た情報は適切に管理するとともにその保持に努めます。

健全な職場環境の構築

健全で安全な職場環境を整備するとともに、教職員及び学生の人格・人権を尊重し、いかなる差別・ハラスメントも行いません。

資産等の適切な管理

資産及び外部資金を適正に管理し、その使用にあたっては一切の不正な行為は行いません。

情報公開

情報を積極的に公開し、県民への説明責任を果たすとともに、大学に対する理解と信頼を確保することに努めます。

環境への配慮

環境保全や資源保護を心掛けた活動を通じ、限られた地球資源の有効活用に努めます。

用 語	解 説
アジア・国際戦略	長崎県が策定した戦略。成長著しい東アジアの最前線に位置し、これまでの深い交流の歴史の中で築いてきた友好・信頼関係を土台として、アジアを中心に海外の活力を取り込み、長崎県の経済活性化に結びつける。
アドミッション・ポリシー	入学者受入方針。 大学の理念・目的等に応じて、受験生に求める能力、適性等について大学の方針を示したものの。
eラーニング	電子ネットワークなどを利用した教育、研修。 WBT(Web Based Training)や distance learning と呼ばれる。
AO入試	AO入試：アドミッション・オフィス入試。 アドミッションポリシー（大学が求める学生像）に基づき、学力では量れない受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識などを多面的、総合的に評価し判定する入試。
SD	Staff Development の頭文字。 事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組。
SPI	Synthetic Personality Inventory の頭文字。 能力面と性格面の2つの側面から総合的に人材の資質を測定・評価する総合適性検査の一種であり、リクルート社が開発したもの。現在では、SPI という名称が適性検査を表す言葉として定着している。
FD	Faculty Development(ファカルティー・ディベロップメント)の頭文字。 大学等の理念・目標や教育内容・方法を改善するための組織的な研究・研修などの取り組み。 具体例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法に関する研究会の開催、新任教員のための研修会の開催など。
FP(ファイナンシャル・プランニング)技能検定	顧客の資産に応じた貯蓄・投資等のプランの立案・相談(ファイナンシャル・プランニング)に必要な技能に関する試験。レベルは1～3級まであり、2級はビジネスでは必須と言われるレベルで、金融業界を中心に企業ニーズも高く、昇格要件とされるケースもある。
遠隔授業	インターネットなどの情報通信システムを利用して、離れた場所を結んで行われる授業形態。
オフィスアワー	教員が曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその曜日・時間には自由に教員研究室を訪れて質問・相談等を行うことができる制度。
科学研究費補助金	人文・社会科学から自然科学まで、あらゆる分野における優れた独創的・先駆的な研究を進展させることを目的とする国庫の研究助成費。 文部科学省、厚生労働省、日本学術振興会により審査・交付される。
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーで定めた学修内容を習得するためのカリキュラムを体系的に示したものの。

用語	解説
キャリア・ポートフォリオ	授業や学習活動の成果であるレポートや論文、課外活動での経験や身につけたスキルなどを記録保管するファイルのこと。これらを蓄積・保存し、振り返っていくことで、自分の将来を考えることに役立てることができる。また、履歴書やエントリーシートを書くとき等の材料としても活用することができる。
コンソーシアム	連合体、共同体。
シーズ	大学がもつ「技術、ノウハウ、アイデア、人材、設備」などを指す。
GPA	Grade Point Averageの頭文字。 GPAは、アメリカ等の大学で一般的に用いられている成績評価法の一つで、学生の学業成績を客観的に計ることができるものとして、大学院進学や留学時の参考資料として活用されている。 具体的には、授業科目ごとの成績評価を5段階（A、B、C、D、F）で評価し、それぞれに対して、4、3、2、1、0のようにグレード・ポイントを付与し、この単位あたりの平均を算出する。 本学では、学生の卒業時におけるレベル確保等のために、成績評価基準にGPAを導入し、履修指導等に活用している。
「しま」体験教育プログラム	島嶼県である長崎県の特徴を活かし、また長崎県の公立大学として「しま」を第三のキャンパスとして位置づけ、学生を在学期間中（4年間）に最低一度は「しま」を訪問させ、現地の生活や人との交わりの中で、実践的な学習を体験させる本学独自のプログラム。
就業力	平成23年度から施行される大学設置基準では、「学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力」と定義されている。
シラバス	各授業科目の詳細な授業計画（一般に、授業名、担当教員名、講義目的、各回毎の授業内容、成績評価方法・基準などが記載されている。）
Semester制	1学年複数学期制の授業形態。 1つの授業を1年間通して実施する「通年制」の前・後期などとは異なり、1つの授業を学期（Semester）毎に完結させる制度。 1学期の中で少数の科目を集中的に履修することで、学習効果を高めることができる。
大学コンソーシアム長崎	個別に取り組むと手間や費用がかかる事業等を共同で行うため、長崎県内の大学等が集まった組織。現在は、大学間で単位互換を行う「NICEキャンパス長崎」に主に取り組んでいる。
中国語検定	日本中国語検定協会が実施する中国語能力の検定試験で、1級から準4級までの6段階で試験が行われている。 2級の認定基準は、複文を含むやや高度の中国語の文章を読み、3級程度の文章を書くことができ、日常的な話題での中国語による会話が行えること。 3級の認定基準は、中国語の一般的事項をマスターしていて、簡単な日常会話ができ、基本的な文章を読み、書くことができること。
チューター制	在学生、教員等が学生に対して、学習、生活上の精神的サポートとして、支援、助言を個別に行う制度。主に外国人留学生に対して個別の課外授業を行うなど、留学生の学習、研究効果の向上を図る制度。
ディプロマ・ポリシー	卒業時に学生が獲得すべき能力や態度、知識などを示したもの。

用語	解説
ティーチングアシスタント（TA）	優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対する助言や実験・実習等の教育補助業務を行わせ、大学院生の教育トレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当を支給し、大学院生の処遇改善の一助とすることを目的としたもの。
TOEFL	英語を母語としない人が、主にアメリカの大学・大学院に出願する際に、受験が義務付けられている英語力判定テストの呼び名で、310～677点の間のスコアで算出する。留学に必要なスコアは、大学・学部等によって異なるが、一般に500～550点以上とされている。
TOEIC	英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストで、10～990点までのスコアで評価をするもの。一般に、730点以上で、どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えているとされる。
長崎県立大学活性化プロジェクト	本学や地域の活性化につながる学生の自主的な活動を促すことを目的に平成19年度に創設した学生支援制度。採択プロジェクトに対しては奨励金を助成している。
長崎“新生”産学官連携コンソーシアム（NRC）	産学官関係団体の連携を強化し、産学官の研究開発等を推進することにより、持続的・発展的にイノベーションを創出するシステムを構築し、科学技術による長崎県の産業振興及び県民生活の向上に寄与することを目的として、平成22年11月に設立されたもの。長崎県、長崎大学、長崎総合科学大学、長崎県立大学、佐世保工業高等専門学校、長崎県商工会議所連合会、長崎県商工会連合会、長崎県中小企業団体中央会、長崎県産業振興財団、十八銀行及び親和銀行 [▽] の11機関が参加している。（ [▽] 金融機関は平成23年8月より加入）
任期制	任期を付して教員を任用する制度。 現在は、「大学教員等の任期に関する法律」（平成9年8月25日施行）により、「先端的、学際的または総合的な教育研究」等の場合に任期を定めることができるとされている。 なお、外国人教員については、「国立又は公立の大学における外国人教員の任用等に関する特別措置法」により、任期を定めて任用することができる。とされている。
ハラスメント	嫌がらせ。セクシャルハラスメントは性的嫌がらせ。
販売士検定	販売員としての素養やサービス向上を目的に日本商工会議所が実施する検定試験。 レベルは1～3級まであり、2級は売場の管理者クラスのレベルで、店舗管理に不可欠な従業員の育成や指導、仕入や在庫の管理といった知識が必要。
ピア・サポート	「Peer」とは“仲間”、「Support」とは“支える、援助する”と言う意味。在学生が新生を仲間として援助し、支える活動。
ラーニング・commons	自主的、自立的な学習活動（ラーニング）を支援するため、図書館が所蔵する図書や雑誌と、電子ジャーナルやデータベースなどの新しい電子資料の双方を自由に利用できるネットワークの環境が整った共有空間（commons）。

用 語	解 説
リカレント教育	生涯教育構想の1つで、一度社会に出た者の学校への再入学を保証し、学校教育と社会教育を循環的にシステム化したもの。
リサーチアシスタント	優秀な大学院生を研究補助者として参画させ、研究活動の効果的推進、若手研究者としての研究遂行能力の育成を図るとともに、これに対する手当てを支給し、経済的支援の一助とすることを目的としたもの。大学院博士課程在学者を対象とするのが通例。
リメディアル教育	大学教育を受ける前提となる基礎的な知識等についての教育をいう。補習教育とも呼ばれる。